



名古屋・本山駅 電 762-2434代表

# 能 楽 の 友

題字は熱田神宮 藤田富司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

## 演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

[昭和61年1月]

15日(祭) 清鎮会・風鎮会合同能 (来場歓迎)

26日(日) 青陽会能 (有料) (番組④面)

[2月]

2日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組④面)

9日(日) 観世会定式能 (有料) (番組④面)

16日(日) 名古屋九皇会定式能 (有料) (番組⑥面)

23日(日) 春 敵 会 (来場歓迎)

[3月]

1日(土) 能と狂言に親しむ会 (有料)

2日(日) 佐藤秀雄三回忌追善狂言の会 (有料)

9日(日) 大蔵 狂言 会 (来場歓迎)

16日(日) 大 名 古 屋 梅 鑑 会 能 (有料)

21日(祭) 本 能 楽 会 公 演 (有料)

22日(土) 松 月 会 会 会 (来場歓迎)

30日(日) 洗 心 会 ・ 華 心 会 (来場歓迎)

[4月]

5日(土) 青 陽 会 定 期 能 会 (有料)

6日(日) 泉 衆 能 能 (来場歓迎)

9日(水) 大 蔵 狂 言 会 (有料)

10日(木) 世 定 式 能 会 (有料)

13日(日) 古 屋 鑑 會 公 演 (来場歓迎)

19日(土) 世 古 屋 鑑 會 公 演 (有料)

20日(日) 本 能 楽 会 公 演 (有料)

26日(土) 野 村 四 郎 名 古 屋 公 演 会 (有料)

27日(日) 友 会 春 の 会 (有料)

29日(祝) 幸 友 会 (来場歓迎)

[5月]

3日(祭) 豊 水 会 大 大 会 会 会 (来場歓迎)

4日(日) 豊 水 会 大 大 会 会 会 (来場歓迎)

5日(日) 豊 水 会 大 大 会 会 会 (来場歓迎)

11日(日) 豊 水 会 大 大 会 会 会 (来場歓迎)

17日(土) 豊 水 会 大 大 会 会 会 (有料)

18日(日) 豊 水 会 大 大 会 会 会 (有料)

(演能変更の節はご了承下さい)

## 日本能楽会名古屋公演

### 国家指能楽特別鑑賞会

3月21日 熱田神宮能楽殿で

能楽部門で重要無形文化財総合指定保持者を会員とする社団法人日本能楽会(宝生英雄会長)の名古屋公演「国家指定能楽・能楽特別鑑賞会」が、三月二十一日(祭)熱田神宮能楽殿で開催される。日本能楽会では、毎年地方公演を行っているが、名古屋公演は前回の五十七年について四年ぶりの公演である。

### 県、市へ45万1千円 能楽協会 歳末助け合い協賛能

能楽協会名古屋支部主催の歳末助け合い運動協賛能は、十二月一日熱田神宮能楽殿で能四番、狂言二番が上演され、この催能による義捐金として、愛知県、名古屋市にそれぞれ二十二万五千六百五円にそれぞれ二十万五千六百五円

能楽協会は、観世流能「田村」替装束、宝生流能「揚貴妃」観世流能「野守」黒頭・天地之声の能三番狂言「三人片輪」一調「小塩」ほか仕舞が予定されている。能「田村」は、シテ武田邦弘、

ワキ西村欽也、ウキツレ飯富雅介、藤田六郎兵衛、小鼓・後藤孝一郎、大鼓・寛延一、間・井上礼之助、地謡・梅田邦久、武田欣司ほか。後見片山九郎右衛門、小島一英。

能「揚貴妃」シテ内藤泰二、ウキ殿田保輔、笛・片岡吉雄、小鼓・福井良久、大鼓・吉田定男、間・野村又三郎、地謡・辰巳孝、馬場富四夫ほか。後見・山田大佐久、衣裳正直。

能「野守」シテ梅田邦久、ウキ西村欽也、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・福井啓次郎、大鼓・河村総一、衣裳正直。

片山九郎右衛門、主演・社団法人日本能楽会、後援文化庁、社団法人能楽協会、開演午前十一時、入場券は前売り三千円、当日券四千円。

観世元正  
観世雅雪  
観世之丞  
観世栄夫

観世元正  
観世雅雪  
観世之丞  
観世栄夫

熱田神宮能楽殿運営委員会  
委員長 熱田神宮権宮司長 長谷晴男  
委員 熱田神宮権宮司 山本文彦  
熱田神宮権宮司 竹内正憲  
岡谷不動産株式会社 松井清  
月見ヶ丘開発 高橋半次郎  
株式会社社長 高橋半次郎  
シテ方 観世流 柴田初太郎  
シテ方 観世流 殿島修二  
大鼓方 観世流 鬼頭八郎  
狂言方 和泉流 井上松次郎  
ワキ方 高安流 西村欽也  
シテ方 宝生流 内藤泰二  
シテ方 観世流 梅田邦久  
小鼓方 幸清流 福井啓次郎  
笛方 藤田流 藤田六郎兵衛  
大鼓方 大倉流 寛一

観世元正  
観世雅雪  
観世之丞  
観世栄夫

大槻清韻会  
大槻秀夫  
大槻文藏

幽花会  
片山慶次郎  
幽詠会  
片山九郎右衛門

名古屋観世九皇会  
観世喜之

武田詠楽会  
武田小兵庫  
武田欣司  
武田邦弘

名古屋淡交会  
橋岡慈観  
山本観衛会  
山本勝一  
藤井久雄  
完楽徳三  
治人

11月7日の催しにも配られた英文に Noh:A In the prota with a (以下に「ことば」を意味する「三郎」<SIMPLI」を「う。ただし、大学目た持つて対話の豊かな音、能こころはよしの次はかか語になつてオモト考るか着カパー

かのように、きびきびした立居、きつぱりとした科白が印象深かった。(1時間20分・11月4日、和

より、と退って下居し、扇を置いて合歌すると、内外の鳥居に、と立って、へ出で入る姿は、と題

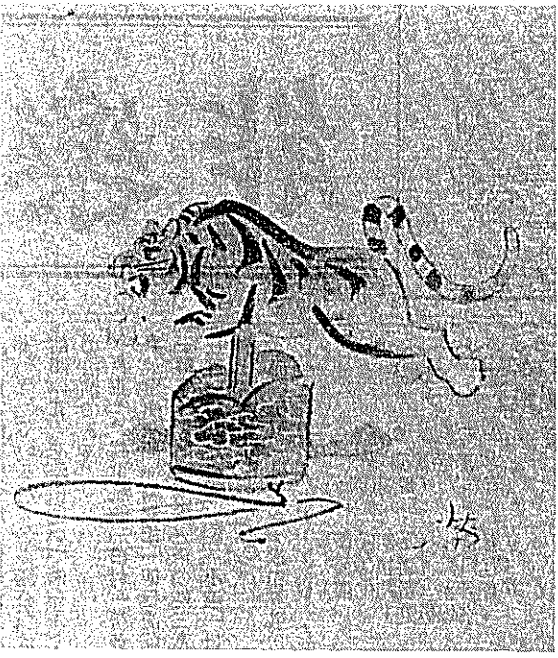
九郎右衛門の面目躍如であった。(1時間39分・11月10日・観世会60年度納会)

# 寅月雅日記

## 寅談 議

えと文 二井 栄 逸

星かけが消えてゆく夜明けの空に、初日の光は燦然と光を放つ。虎は十二支の中でも人気があり



神聖な動物とされているためか、昔から色々なことわざに取り上げられていた。姿も立派で美しいのでよく絵にもかかれてきた。ポストン美術館に收藏されている円山応挙の龍虎図や、妙心寺の狩野山楽の龍虎図は名作として有名であるし、近世の画家達もそれぞれに名作を残している。

威をふるう者に更に勢いをそえることをたとえて、「虎に翼」というし、他の権勢をかさに着ている小人たちのことを、「虎の威を借る狐」とたとえられてきた。又、きわめて危険なことをするたとえに、「虎の尾を踏む」と、という名言もある。

死後に名譽功績を残すことを、「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す」とか、高遠をつとめて不成功に終ることや、豪傑を気づかってかえって軽蔑になることのとえに、「虎を飼って狗に類す」というのもある。

猛威のある者を自由にその威をふるうことのできる状態におくことや、わざわざいのもとなる者を除かないで、後に大害をのこすことを、

と、あり、虎を神聖している。後半、シテは虎となり、龍との闘争をくりひろげ、尾能のほげしさを現出する。シテは白頭の上に虎鬣をいただき、龍虎相争うとか相搏つとかいう語によって、一切衆生の共有する闘争の悪業を具象化した作である。

# 中部能楽界 年々くくる年

## 能楽殿運営委員 座談会 編集同人

中部能楽界は、昭和六十一年の新しい春明けを迎えた。昨年は熱田神宮能楽殿の創立三十周年に当り祝賀能、そして春には記念乱能で締めくくられたが、本紙では能楽殿運営委員の方々、および同人

をまじえ、六十一年の回顧とことしの行事などを語って頂いた。

——昨年は三月に熱田神宮能楽殿創立三十周年記念能、年末には祝賀能、能楽協会名古屋支部主催の大衆能、新能、助け合い協賛能さらに新能でも熱田神宮と栄センターパークで行われ、また、芸訓センターで新しい試みの演能が行われ多彩でした。

**A** 昭和六十一年は熱田神宮能楽殿創立三十周年ということ、三月十日に立派に開催することができ、また年末の祝賀乱能は予想以上の来会で大変盛会であった。

また、能楽殿の内外の施設の拡充、改善も進められた。とくに舞台の締め直しを施し、防災施設も整え適の認定をうけた。

**B** 能楽堂の施設が良くなったというところは喜ばしいことですが一般の人が能楽堂に足を向けるという点で、タクシーの運転手さんには知っているが名古屋の能楽堂が熱田にあるというところの宣伝にも力を入れていただけるとよいです。

**C** 神宮前駅の歩道橋のあたり、少し立派な電気のつくものを作って頂いて神宮の文化殿、能楽殿の行事の紹介、今月はこういう能があるというようなポスターなり、番組を貼って、道行く人たちが、車に乗っていても、能楽堂の案内がそこにあるというようなくことをして頂くと、熱田の能楽殿の宣伝そのものになるし、これから大いにしていくことが大切ですね。

**D** 新能も、能に親しむ機会としてすでに二十回を数えています。が、年ごとに非常に盛んで、夏の行事として期待されている演能になりました。

**E** ことしの新能の日程が八月二日か、九日かまだ決まっていないうようですが

**F** 八月一日が神宮のおまつり新能の前日から舞台をつくる慣例なのですが、舞台づくりが多少遅くなっても、八月の第一日曜が恒例という点から八月二日開催ということにしたい。

**G** 新能といえは、ことしは都心・栄のセントルパークでの初の演能は、三千人を越える観衆が身じろぎもせずに舞台をみつめていた。

**H** 一時間半の間に、ほとんど動かず観ていたというのはいくらも感じました。あれ以上の人数というの、整理上、危ないですから安全についても考えないと。

**J** 新奇性もあるでしょうが、これはどういふことを物語っているのでしょうか。

**I** 機会さえあれば、行きやすい場所が能がみられるということ、また無料ということもあつたと思えますが、条件がそろつていたらいいことでしょうか。それに今回はじめてマスコミが取り上げたというところも大きいですね。

**D** 熱田能楽殿がどこにあるのか、切符をどこで買うのか、いつやるのか判らないというようなことから、機会があつたら能に出合いたいという方が多いということ(①面へつづく)

東、宝生流「揚貴妃」観世流能「野守」天地之聲、狂言「三人片々」にも出演して頂いて、向上を図るという立場です。

が必要ですね。

D 能楽師以外の広い見識のあ



<p>邦 謡 会</p> <p>梅 田 邦 久</p> <p>須 部 一 甫</p> <p>清 沢 美 和</p> <p>今 沢 美 和</p> <p>本 田 勝 朗</p> <p>安 藤 勝 朗</p> <p>名古屋市中区台町二丁目十六番五 電話(八四二)四六三三番</p>	<p>井 上 嘉 久</p> <p>(〒603) 京都市北区紫野下鳥田町六</p>	<p>壺 泉 会</p> <p>泉 嘉 夫</p> <p>名古屋市中区山里町一〇三 電話八三二一三二一八五 西宮市甲陽園目神山町一の一七八 電話(八〇七九八)二四四八</p>	<p>山 本 眞 賀</p> <p>豊中市本町六丁目一〇一六</p>	<p>井 戸 良 造</p> <p>井 戸 和 男</p> <p>大阪市阿倍野区文の里4-24-17 電話〇六(六二二)二二一九番</p>	<p>大 西 智 久</p> <p>千歳 豊中市北塚塚2-10-3</p>	<p>財団法人 鎌倉能舞台</p> <p>中 森 晶 三</p> <p>中 森 貫 太</p> <p>248 鎌倉市長谷三丁目三番五 電話(〇三三)三三三三番</p>	<p>毎日文化センター</p> <p>謡 曲 教 室</p> <p>風 韻 会</p> <p>殿 島 修 二</p> <p>一 謡 会 河 村 鉦 二</p> <p>叶 石 会 河 村 総 一 郎</p> <p>河 村 大</p> <p>名古屋市中区前山町 一丁目二三番(二四六六) 電話(七六二)四八八二</p>	<p>久 田 観 正 会</p> <p>久 田 徹 二</p> <p>大 倉 流 小 鼓 久 田 舜 一 郎</p> <p>松 月 会 前 野 郁 子</p> <p>都 謡 会 松 山 幸 親</p> <p>千 歳 名古屋市中区東水切町四ノ四三 電話(八五九)八一三三六四三番</p>	<p>春 鶯 会 梅 若 善 高</p> <p>豊中市新千里南町三丁目18-12 電話(〇六)八三一七七八四</p>	<p>下 田 雄 三</p> <p>大阪市東区高麗橋詰五三</p> <p>雄 謡 会 中 部 地 区 連 合 会</p> <p>名 古 屋 和 石 会</p> <p>一 宮 竹 石 会</p> <p>岐 原 花 石 会</p> <p>下 呂 雄 石 会</p> <p>萩 原 雄 石 会</p> <p>高 山 雄 石 会</p> <p>倭 文 之 屋 社 中 会</p>	<p>松 音 会</p> <p>泉 泰 孝</p> <p>東京都杉並区宮前四一九一四 電話(〇三三三三)八二八〇番</p>	<p>中日文化センター</p> <p>謡 曲・仕 舞 教 室 (名古屋・四日市)</p> <p>翠 生 謡 会</p> <p>名 古 屋 市 名 東 区 社 方 丘 3ノ1503 電話(〇五二)七〇三二一五七番</p>	<p>水 雲 会</p> <p>水 藤 元 三</p> <p>芳 韻 会 稻 生 芳 雄</p> <p>半田市船入町三十一 電話(〇五九)〇八二五</p>
--	---	---	------------------------------------	---	---------------------------------------	---	---	--	--	---	---	---	---

猫 恵 会 熊 沢 恵 美 子

佐 野 正 治

豊 嶋 能 の 会

豊 嶋 三 千 春



で締めくくられたが、本紙では能楽運営委員の方々、および同人熱田にあるということの宣伝にも力を入れていただけたらとよいです

東、宝生流「揚巻」観世流能「野守」天地の再、狂言「三人片輪」という内容です。
C 名古屋宝生会は、六月十五日に三十周年記念能を開演、また宝生九郎師の追善能が十一月にあります。
六月は「小袖曾我」「龍野」「小鍛冶」が上演されます。
D ことしの大衆能は四月九日十日の二日間を予定しています。
J 昨年は大規模な狂言装束展がありましたね。
H 狂言師として、舞台上演することが中心で、いろいろな会をやるとき、たとえば会員券の売りさばきとか、うまく宣伝ができていかかというところで悩み、考えようというのですが、あれは企業が完全という立場になってやっていると、我々はその立場のつてやっていたわけですが、実際に企画というか宣伝が上手です。演出の時代というムードづくりは演能の企画にも必要ですね。
F はかのジャンルの、たとえば新劇とかいろいろな演劇でも、上から下まで歩きまわって切符を売り演劇していく。能楽界はそういうスタッフをもつか、自分たちが動きまわるか、どちらかなのです。我々は、その辺のところは組織的なところは見習わなければと思えますね。
B これまで頼んでも断られてはいけなかつたと思っていたのが、頼みにいけばやってくれるというところには感銘を受けています。
E 社会的なニーズが「本物」を求めていくという方向にあることは、能楽にも反映してきています。
C 能楽の友にものついていますが、「見所の論議」を大切にすることが、見る立場に立つことと、それも、平易なこと、それと質的に非常に高いということ、この両方が要求される。この両方を満たすことができれば、まず片方をやる。この相反することをどのように兼ねていこうかというところが問題です。
A 協会の催しでも、全員が出て頂きたいのですが、質的な問題と、時間の関係で圧縮した形で行っているのですがやはり東西の方

例という点から八月二日開催というところにした。
(2) 面づくし
(3) 面づくし
(4) 面づくし
(5) 面づくし
(6) 面づくし
(7) 面づくし
(8) 面づくし
(9) 面づくし
(10) 面づくし
(11) 面づくし
(12) 面づくし
(13) 面づくし
(14) 面づくし
(15) 面づくし
(16) 面づくし
(17) 面づくし
(18) 面づくし
(19) 面づくし
(20) 面づくし
(21) 面づくし
(22) 面づくし
(23) 面づくし
(24) 面づくし
(25) 面づくし
(26) 面づくし
(27) 面づくし
(28) 面づくし
(29) 面づくし
(30) 面づくし
(31) 面づくし
(32) 面づくし
(33) 面づくし
(34) 面づくし
(35) 面づくし
(36) 面づくし
(37) 面づくし
(38) 面づくし
(39) 面づくし
(40) 面づくし
(41) 面づくし
(42) 面づくし
(43) 面づくし
(44) 面づくし
(45) 面づくし
(46) 面づくし
(47) 面づくし
(48) 面づくし
(49) 面づくし
(50) 面づくし
(51) 面づくし
(52) 面づくし
(53) 面づくし
(54) 面づくし
(55) 面づくし
(56) 面づくし
(57) 面づくし
(58) 面づくし
(59) 面づくし
(60) 面づくし
(61) 面づくし
(62) 面づくし
(63) 面づくし
(64) 面づくし
(65) 面づくし
(66) 面づくし
(67) 面づくし
(68) 面づくし
(69) 面づくし
(70) 面づくし
(71) 面づくし
(72) 面づくし
(73) 面づくし
(74) 面づくし
(75) 面づくし
(76) 面づくし
(77) 面づくし
(78) 面づくし
(79) 面づくし
(80) 面づくし
(81) 面づくし
(82) 面づくし
(83) 面づくし
(84) 面づくし
(85) 面づくし
(86) 面づくし
(87) 面づくし
(88) 面づくし
(89) 面づくし
(90) 面づくし
(91) 面づくし
(92) 面づくし
(93) 面づくし
(94) 面づくし
(95) 面づくし
(96) 面づくし
(97) 面づくし
(98) 面づくし
(99) 面づくし
(100) 面づくし

61年1月・2月放送予定
[61年1月] NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
19日(日) 素謡(金春流)「鶴亀」「巴」桜間金太郎ほか
26日(日) 素謡(観世流)「采女」浦田保利ほか
[2月] NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
2日(日) 素謡(観世流)「海士」観世武雄ほか
9日(日) 素謡(宝生流)「当麻」今井泰男ほか
16日(日) 素謡(喜多流)「高砂」栗谷新太郎ほか
23日(日) 素謡(観世流)「胡蝶」橋岡慈観ほか
NHK教育テレビ
2月11日(祝) 午前9時~10時
能(観世流)「杜若」野村四郎
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

3月29日 中日名匠鑑賞能
中日名匠鑑賞能は、きたる三月二十九日(土)午後一時から中日劇場で開演される。
能組は、観世流能「清経」恋音取(観世喜之)「羽衣」彩色之伝(観世元昭)ほか狂言、仕舞。

体験のできる 能楽講座
能・狂言に親しむ会梅田邦久、藤田六郎(兵衛氏)は、六十二年二月より能楽講座を開演。第一回は二月四日、芸術センターで雛子方もそつて「羽衣」を公演する。定員九十名、昼の部午後一時三十分開場、夜の部午後六時より会費千円。申し込みは、西区福下二ノ一〇九、藤田六郎(兵衛)方。

加賀 敏彦
名古屋守山区森新田宇乙98の44
電話(三三)七七一八九四五番
松和会 中村和男
各務原市那加桜町2丁目15番地
電話(五八三)二七九四番
重陽会 菊池重郷
大山市大山宇相生五九一六
電話(五六八)四四一〇番
緑名会 田中武
尾張旭市城山町三ツ池六一九八
電話(五六一)五〇三三〇四番
幸詔会 近藤幸江
岡崎市鶴田本町十一番地ノ三
電話(五五六)二五二九

Table with columns for various associations and individuals, including names like 加賀敏彦, 松和会, 重陽会, 幸詔会, 清詔会, 観修会, 宝生英雄, 宝生英照, 名古屋巽会, 辰巳孝, 倉本雅, 廣田後援会, 廣田幸稔, 廣田隆一, 廣田幸稔, 金剛永謹, 金剛巖, 竹腰勝一, 吉田俊彦, 宝生流, 嘉宝会, 衣斐正直後援会, 正風会, 佐野由於, 菊扇会, 後援会, 廣田泰三, 金剛流華月会, 今井清隆, 金剛流, 周星会, 吉川周子, 金春信高, 金春安明, 金春欣三, 本田光洋, 能・狂言に親しむ会, 藤田六郎兵衛.

248 鎌倉市長谷三十五三十三
電話(四六六)五五五七
神戸市長田区大塚町二丁目一ノ一四
電話(八七八)六九一一五四四九番
芳韻会 稻生芳雄
半田市船入町三十一
電話(五九九)〇八一五

### 青陽会定式能（第三十期・第一回）

一月二十六日（日）午前十一時始  
熱田神宮能楽殿

仕舞 難波 安藤 勝明  
知 章 相父江修一  
松山 幸親 能  
久田 徹二

養老 飯富 雅介 鬼頭 英二 鬼頭 好信  
西安 勝久 柳原 富司忠 西部 恵司  
高安 勝久 佐藤 友彦

弓 八 幡 今沢 美和  
後見 生駒 里翠 高木美智子 高橋 隆一  
清沢 一政 地謡 近藤 幸江 中川 雅一  
本田 保彦 加賀 小島 雅英  
後見 清沢 一政 地謡 本田 保彦 加賀 小島 雅英

源氏供養 高安 勝久 河村其之介 森本 重一  
西村 欽也 後藤 孝一郎  
杉江 元

素袍落 井上礼之助 佐藤 友彦 井上松次郎  
大野 弘之 後見 井上松次郎

東 北 高橋 隆一  
野 守 清沢 一政 地謡 久田 徹二  
近藤 幸江 中川 雅章

葵 上 杉江 元 河村 大 池田 希世  
飯富 雅介 福井 啓次郎 鹿取 希世  
井上松次郎

附祝言 主儀 青 陽 会  
〔有料〕 当日券 三千円（普通席）

### 名古屋宝生会定式能

第三十期・第一回  
二月二日（日）午後一時始  
熱田神宮能楽殿

加 茂 飯富 雅介 宛 敏一 鬼頭 好信  
西村 欽也 柳原 富司忠 橋田 六郎兵衛  
杉江 元 佐藤 友彦

後見 内藤 泰二 地謡 竹中 登 鬼頭 喜男  
吉田 俊彦 西村 欽也 高田 辰巳 馬場 四六夫  
後見 吉田 俊彦 地謡 高田 辰巳 馬場 四六夫

素袍落 井上松次郎 佐藤 友彦  
小沢 喜一 鈴木 義久 稲川 孝一  
佐藤 耕司

敦 盛 高安 勝久 河村 隆一郎 森本 重一  
井上礼之助 後藤 孝一郎  
後見 戸田 和 地謡 加藤 純一 吉田 俊彦  
戸田 和 井上茂兵衛 鬼頭 喜男

箏 太鼓 飯富 雅介 吉田 定男 鹿取 希世  
大野 弘之 後見 佐藤 耕司 地謡 門原 利光 福川 孝一  
後見 佐藤 耕司 地謡 門原 利光 福川 孝一

附祝言 主儀 名古屋宝生会  
正会員（年間四回分）一万三千円  
臨時会員（第一回）四千円

### 名古屋観世会定式能（初回）

二月九日（日）十二時半始  
熱田神宮能楽殿

巻 親世 清頭 鬼頭 喜太郎  
親世 元正 西村 欽也 河村 隆一郎 藤田 六郎兵衛  
神楽留 井上礼之助

末 広 野村 友彦 佐藤 友彦 井上松次郎  
野村 友彦 佐藤 友彦 井上松次郎

東 北クセ片山九郎右衛門 本田 一 梅田 邦久  
鞍馬天狗 杉浦 元三郎 梅田 邦久

鉢 木 飯富 雅介 宛 敏一 森本 重一  
福王 茂十郎 福井 啓次郎 森本 重一  
後見 小島 一英 地謡 今村 嘉男 久田 徹二  
片山九郎右衛門 高橋 隆一 杉浦 元三郎 梅田 邦久

附祝言 主儀 名古屋観世会  
〔有料〕 要員券  
（初回は当日券は差控させていただきます）

名古屋観世九臈会能（初回）

さくらさらない。少数の人々による  
高揚を現在以上に待望したい。他  
方長田観（喜多流）氏の昭君・野  
村（喜多流）氏の昭君。また内



二井栄逸  
松阪市殿町1412の3  
電話（〇五九八）三三〇二六

春敲会  
金春晃実  
廣瀬瑞弘  
〒467 名古屋瑞穂区東栄町三二二四  
電話（〇五二一）八四一四七四五

長田驍後援会  
〒514-22 津市高野町三三五一四六  
電話（〇五二五）〇六九七番

喜多流山本才  
大和郡山形町一三一九  
奈良高専矢田宿舎二六  
電話（〇五二五）〇一五九〇番

高安会  
西村 欽也  
飯富 雅久  
杉江 元

中部金春会  
名古屋市中区新栄三丁目10-9  
電話（二四一）三二四一番

前田茂穂  
米本平一

福王茂十郎  
〒662 西宮市名次町六番十二号  
電話（〇七九八）〇〇七二二

京都・高安流  
岡次郎右衛門

和島富太郎  
〒665 宝塚市宝梅一丁目12-1  
電話（〇七九七）八六三〇

大阪喜多会  
和調会

伊勢金春会  
村富次  
〒151 東京都豊島区池袋一丁目30-10-305

豊嶋十郎  
〒211 松戸市下矢切五五十五  
電話（〇四七三）〇一九八二

高安流岡同門会  
清水 康利  
高坂 晴弘  
森野 三郎  
北野 耕三  
塩田 弘三  
中村 山  
伊藤 湖  
清水 利久  
昭蔵 昭

江崎正左衛門  
電話（〇五二五）三三〇二六

江崎金治郎  
電話（〇五二五）三三〇二六

谷田宗二郎  
〒603 京都市北区衣笠街道町31-7  
電話（〇六七五）八六三

九州高安流同人会  
飯富 良徹  
飯富 良人  
大山 要二郎  
山崎 俊輔  
横田 富生

龍吟会  
能と狂言の会  
能を語る会  
藤田六郎兵衛  
名古屋西区福下二丁目一〇番九号  
電話（〇五二）五七一五七六三

森田光春

森田光春

森田光春

森田光春

森田光春

和泉元秀

### 名古屋観世九奉会能 (初回)

二月十六日(日) 午前十一時始  
熱田 神宮 能楽殿

素福 小鍛冶 青木 武弘 加藤 保彦 宮本 正彦  
観世 喜之 飯沼 雅介 後藤 孝一郎 森本 重一  
村 欽也 飯沼 雅介 後藤 孝一郎 森本 重一  
狂言 飯沼 雅介 後藤 孝一郎 森本 重一  
仕舞 飯沼 雅介 後藤 孝一郎 森本 重一  
能巻 飯沼 雅介 後藤 孝一郎 森本 重一  
中野 貞夫 高木 美智子 河村 大 助川 竜夫  
飯沼 雅介 後藤 孝一郎 森本 重一

主権名古屋観世九奉会  
事務所 名古屋市中区元町一ノノ十七  
加藤保彦方 電話〇五二六一一三六五九

〔有料〕  
年会費(四回分) 一万六千円

春夏秋冬  
墨守と新様式、古典と若い情熱

能は古いものではあるけれども新しい所もある。古いといえども世の中に古くないものは一つもない。古いとか新しいとかいふことは相対的のことで、問題は良いか悪いかである。能が良い芸術であるならば、新しい良いものを心ざす人は、古い良いものをも知って置かねばならない筈である。(能の語・序、野上豊一郎、岩波新書、昭十五)

昭和六十年の回顧。例年思うように多彩であった。しかしその色彩の配分が少しく変わっていた。五色の揚幕のあげきげによる演能に感動する以外の催能が行われたのである。紫白赤黄緑のどれかがふくらむ、即ちシテ方五流のある流儀が目を見張る好演ぞういを見せたと言うのではない。名古屋にも新しい運動・新しい波がおこり押し寄せた様相を注目してのことである。東西でも催されてきた行事と合わせて(注)東・芸団協公演、西・大阪城能、ほか)考えれば、その一環とも思えるが、忽然

後見 内藤 泰二 地謡 竹中 登 鬼頭 嘉男  
吉田 俊彦 西村 哲也 辰巳 孝男  
高田 真六 真三 馬場 富夫  
竹腰 勝一

附祝言  
〔有料〕要員券 主催名古屋観世九奉会  
(初回は当日券は発売されません)

さらさらしない。少数の人々によるロマンティズムは尊重したい。そして能・狂言の古風よきと新しい面がいつしよに味えれば大層結構である。しかし迎合と付焼刃と新風とは紙一重。  
まこと野上理論の逆行・拡大・超克は一大事です。

「雪女」はおもしろかった。ここまでできてようやく胸のしずまる思いがした。六十一年を期待する。

さて三十年を問した八熱田Vはどうであったろう。佳演・好演の中味に変化がないでもない。能は、観世元正(三輪白式神楽)・同元昭(翁)・同鏡之丞(野宮舞子遊行柳)・片山九郎右衛門(卒都婆小町、舞姫子園曲)観世喜之(花館)五氏による充実がことのほか目立った。清和氏の小鍛冶も佳い。これは宝生英照氏の安宅、金春安明氏(一調)と同様。若く新しい花に見所の目が次第に移って行く流れも見逃せない。宝生英雄氏の巻絹・班女の二番の印象も強い。そして金春晃実氏の下懸三流の舞台を独り支えた。その忍重荷は六十年最高の収穫と申せよう。ほかに船弁慶(重前後替・船唄、野村四郎、野村万之丞ほか)・頼政(片山次郎)・一調娘(一調山姥、太・小寺俊三)も佳い。一調山姥(綿豊鶴三千春・金剛流、太・小寺俊三)もよし。

狂言は、小舞放下僧(大藏弥太郎)・左近三郎(茂山忠三郎)・千之丞(和泉元秀)に文山賊(善竹玄三郎・幸四郎)ほか秀逸。狂言の美味のうまさ満喫する。善竹弥五郎翁(故人)の息・五人兄弟の来名の四人に父の狂言芸のよさをそれぞれ角度から汲みとれて興味深い(ほかに善竹五郎)。

高揚を現在以上に待望したい。他方長田(喜多流)氏の昭君・野守のベシミ物二番に好演。また内藤泰二氏(宝生流)が演じた夷盛は名古屋近來の佳演。あの八熱田の味わいVの中のおいは得も言われぬ。上等の乾し柿の旨(うま)さ。宝生の佳さを十分に表わしていた。今後も風格ある曲線展開を。

狂言は、財宝(野村又三郎、老人)を第一に挙げたい。無布撫經(井上松次郎・礼之助)・止動方角(松・井上祐一・礼・今枝朝雄)もよい。また語・文蔵(松)・那須与市語(又)も佳。それに二千石(じせんせき、松・佐藤友彦、礼・大野弘之、二回)の巧まぬ演もおもしろかった。そして野村信行少年の成長が楽しかった。三番里(野村耕介、藤田六郎兵衛受賞記念舞臺子の会)の面箱の役(三番里に飾を渡す)で幕が上がりに最初に登場する少年の姿は凛々し。

付、東西のこと八放送V少々。年功と芸術を積まれた近藤乾三氏健在(九十五歳)。十二月の放送(FM、NHK、以下おなじ)の録音は大層感銘深い。最前寺時頼と別れ惜しむあたりは特に絶品。五九年の乾三翁検壇について録音の五氏の同曲。こちらは能の録音を。櫻風(観世元正・清和、福王茂十郎、観世流復曲)もあり。三井寺友枝喜久夫(テレビ能)よし。テレビは、能・狂言そのものより、長い伝統と結び付け、また演曲の演能までをみせながら、広い分野で取り上げた。新傾向。しかし演出をもっとスマートにそして簡素に。鉄輪(金春信高)の大笑しハオモチV十六・七回は考えもの。なお「このころの時代」でヴァチカン献能・羽衣(金剛流、昭五九)が話の中心(宗教と芸術)になる。特記の大なるもの。

現代人が持つ古典いや持つべき古典に能・狂言がいかなる位置を占めるか、新・温故知新と広い視野で探り探り、三十一周年を迎える八熱田V演能に期待したい。(野村広二)



伊勢金春会  
中 村 富 次  
伊勢市宮町一ノ四一七  
電話(〇五九) 〇二四五六番

森好会  
森 好 常 茂  
〒151 東京都渋谷区代々木四一三八上二  
電話(〇三三) 3700 4609

森田光春  
〒151 東京都渋谷区代々木四一三八上二  
電話(〇三三) 3700 4609

森本重一  
谷口正喜  
東京市上京区中立売通室町西入  
室町スカイハイツ610号

瀬尾乃武  
〒171 東京都豊島区西池袋一30-10-305

和泉元秀  
狂言共同社  
名古屋和泉会

幸圓次郎  
東京市東区中央四一四七一  
電話(三三八) 九四一三番

吉田定男  
大蔵狂言会  
大蔵彌太郎  
大蔵基彌  
大蔵基嗣

中村喜彦  
〒602 京都市上京区智恵光院  
今出川上ル(〇六)  
電話(〇七五) 〇五七二番

飯島佐之六  
〒920 金沢市香林坊2-18-8

前川光隆  
京都市右京区御室孝橋町一ノ六  
名古屋古蹟 名古屋東区東一ノ二五  
ニシンビル六階六〇二号室  
電話九三五五-一〇一〇番

前川光長  
京都市上京区中筋通り石薬師上ル

茂山千五郎  
〒215 川崎市麻生区岡上四三八一  
電話(〇四四) 九八七二-一八七番

狂言やるまい会  
野村又三郎

善竹忠一郎  
神戸市東灘区御影町家大蔵二二

茂山忠三郎  
〒606 京都市左京区北白川大宮町一  
電話(〇七五) 七〇二二-一〇一番

幸友会  
福井啓次郎  
柳原富司忠

野中正和  
〒174 東京都板橋区清水町三〇一  
電話(九六四) 六三三五番

鬼頭季信  
鬼頭 季 信

寛 鉦 一

吉田 定 男

中 村 喜 彦

飯 島 佐 之 六

前 川 光 隆

前 川 光 長

茂 山 千 五 郎

大 蔵 狂 言 会

大 蔵 彌 太 郎

大 蔵 基 彌

大 蔵 基 嗣

狂 言 共 同 社

名 古 屋 和 泉 会

和 泉 元 秀

桂 会  
後藤孝一郎

長生会  
鬼頭八郎  
喜太郎  
好信

大鼓方 鬼頭英二

助川竜夫

亀井俊一  
保忠雄  
実雄

伊勢金春会  
中 村 富 次  
伊勢市宮町一ノ四一七  
電話(〇五九) 〇二四五六番

森好会  
森 好 常 茂  
〒151 東京都渋谷区代々木四一三八上二  
電話(〇三三) 3700 4609

森田光春  
〒151 東京都渋谷区代々木四一三八上二  
電話(〇三三) 3700 4609



### 観能 独語 新しい流れの一翼 舞台詩「半獣神の午後」

マラルメも、ドビュッシーも、ジンスキーも知らず、それで「半獣神の午後」(60年12月15日、熱田能楽殿)にも申そうとは大それた話。しかし、ごく少数の学識者は別として、大多数の観客は私同様の無学文盲ではないかと思えます。(大変失礼な言い方ですが、そう思わないと筆を進める勇気が出ません。)それがまた受け付けず、手にした難解な訳詩(木村太郎記)の展開を追うというのですから、難儀な話です。

しかし考えてみると能だとして似たようなもの。玄人も十分には理解できない謎の文句を口ずさみながら、素人の能愛好者は結構楽しんでいらつしやる。わかるわからない、面白ければいいのです。鑑賞は理解ではない。体験です。感動あるところに美あり、芸術あり……となると「半獣神の午後」(作曲演出、泉嘉夫)も時の意味がわからなくとも、舞台を見てなんとなくいい気持ちになったとしたら、そしてこういう観客が大多数を占めたとしたら、舞台は成功といっているでしょう。舞台詩とはうまくつけたものです。

私も同様になんとなく面白く感じた一人です。その面白さを分析するだけの準備も資格もありませんが、半獣神を演じた

大槻文蔵がよかったと思います。品格と野性をミックスしたような表現が、彼の持味にもマッチして成功したのだと思います。それに反し二人のニンプ(近藤幸江、加藤春枝)は動きがぎこちなく、あるいは素直過ぎ、面白味が乏しかったように感じました。半獣神とニンプが離れ離れになるのはいいですが、時には激しくからみ合ってもよかったのではないですか。さすがに文蔵はその辺りの兼ね合いをさりげなくうまくきざばいていたようです。演出者、演技者ともに、能のシテ、ツレ意識が残っているのかも……。

雅子(小鼓・久田舞一郎、笛・藤田六郎兵衛)が大変よかったです。舞台の成功は文蔵と雅子が分けた形です。特に笛は素晴らしい、新しい試みへの豊富な経験が活きました。いや、面白さの分析には立ち入らないつもりが、少々行き過ぎましたかな。これは所感に過ぎません。無学文盲のモノローグ(独語)です。お読み捨て、お聞き捨て下さい。

この年の後半、「安達原」「男井慶仁王立ち」「雪女」「半獣神の午後」と新演出、新作が目白押し、面白世の中になって来たものです。この流れは今年になっても続きそうです。果してどのような展開を見せるでしょうか、楽しみです。(M)

### 喜多流シテ方 和谷亀次郎氏

喜多流シテ方、和谷亀次郎氏は十二月二十八日午後六時五十分肺炎のため伊勢市中島二二六一一の自宅で逝去された。享年七十八歳。

告別式は、一月九日午後一時から伊勢市一色町の昌久寺で執り行われた。喪主長男衛市氏。

### 能楽評論家 西田三好氏 逝去 五流能企画を推進

能楽評論家・西田三好氏(にしだみよし)は、十二月二十七日午後五時十分、心不全のため名古屋市中北区の藤本病院で逝去された。享年八十四歳。

告別式は、二十九日午後一時から東区山口町八ノ一三の自宅で行われ能楽界、中日新聞関係者ら多数が参列、能楽の普及と発展につくした故人の冥福を祈った。喪主は妻すゞ子さん。

西田氏は中日五流能(現在は名古屋能)の企画に参加、さらに北陸、東京五流能など五十回を超える演能で三十年以上にわたりプロデューサー役をつとめた。

昭和五十六年「中日文化賞」を受賞、新聞、雑誌に能評で活躍、「西田三好能評集」副題「五流小書演出(昭和五十四年、検書店刊)の著書がある。

**朝日カルチャーセンター**  
**雅子教室**  
 小鼓 後藤孝一郎  
 丸栄スカイル10階

**演能写真**  
 ウシマド写真工房  
 〒602 京都市上京区北野上七軒  
 電話(075)431-1341番

**栄能楽舞台**  
 名古屋市中区栄五丁目一  
 電話(052)221-183番

**楽諷庵舞台**  
 加納保一  
 名古屋市中区河川町四七七八三  
 電話(052)833-7001番

葵心庵舞台 尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二 電話(056)561-5000(旭市役所南) 能舞台 電話(056)561-5000(旭市役所南)	ビデオ撮影 西川企画 名古屋営業所 名古屋市中区西區名駅 2-20-13 輪の内荘 小樽方 電話(052)571-1581-6 岐阜市北野町20-1-2 電話(058)298-9869番	喪中につき 年賀欠礼いたします	鳳鳴会 武田志房	初陽会 武田宗和	散る花の会 奥村富久子	内藤泰二	宝生閑	大倉源二郎	大倉正之助	福井良久	福井良治	寛三男
---	---	--------------------	-------------	-------------	----------------	------	-----	-------	-------	------	------	-----

**城**  
 割烹・小料理  
 ●熱田神宮能楽殿喫茶部  
 ●住吉小路(中区栄3-10)  
 電話 241-0248

**流元 剛行 金本 流本 世宗 観宗**  
**檜書店**  
 〒101 東京都千代田区神田小川町2-1  
 〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入  
 電話(291)2488-9  
 振替東京 3-3552  
 電話(231)1990  
 振替 京都 1-113

**fujimichi**  
 ORIGINAL FURNITURE & INTERIOR DECORATION

ご婚礼家具  
 トータルインテリアの  
 収納ユニット

増改築  
 システムキッチン  
 の設計・施工

株式会社 **富士道木工**  
 工場・営業本部: 愛知県西尾市三好町大字藤生字上家井田48 TEL(0561)32-1178(代表)  
 本社・ショールーム: 名古屋市中区栄3丁目34番40号 TEL(052)262-5147(代表)  
 インテリア設計室: 名古屋市中区栄3丁目35番18号 TEL(052)241-8222(代表)

新しい視力の見直し—オプトメトリー—

明けておめでとう ございます

新しい視力の世界を拓く、玉水屋のサービスをご利用下さい。

営業 10時~6時  
 定休 水曜日

**メガネの玉水屋**  
 なごや・栄交差点北西角 ☎961-1826代

社 8 4 3 5 4 4 5 1

演

パルク新能、年末には熱田神宮能楽殿で、新作「雪女」の上演など積極的な活動をおこない幅広い

舞台研究所の吉田鏡治、松原吉晴の二人の照明家が能への照明プランを展開、大きな関心をよんだ。

野村四郎名古屋公演

追善狂言会

故佐藤秀雄氏

狂言会を開催する。当日は和泉宗家も来演して「野老」(とくろ)を所演。故人の遺訓をつぐ友彦師は「五年前、初演



# 正月雅日記

## 悠久の美

えと文 二井栄逸

日本列島は南北に細長くのびて、北の国に辿りつくのには、かなりの植物や動物の種類もなかなが多いし、季節も一度にやってこない。春が南のほうからやっ



### 大阪文化祭賞 シテ方観世流 河村禎二氏 狂言大蔵流 茂山忠三郎氏

昭和六十年度の大阪文化祭賞本賞に観世流の河村禎二氏と狂言大蔵流の茂山忠三郎氏が決まり、一月十六日、大阪キャッスルホテルで授賞式が行われた。  
大阪文化祭賞は、第一部門が能、狂言、第二部門が文楽、歌舞伎、邦楽など、第五部門である。  
河村禎二氏は、大阪能楽観賞会十月公演での「葵上」、茂山忠三郎氏は、十一月二十八日の茂山忠三郎・狂言の会での「文相撰」の舞台成果で受賞。  
河村禎二氏は、大正十二年四月生れ、林右衛門に師事、弟婿夫、大阪国際フェスティバル能は、

観能「加茂」と「籠太鼓」  
MAIUMAK、アキラの克典

こんなに変化に富んだ四季のうつりかわりを見ることは出来ないうつらさ、節分がすむと、寒さも少しうすらさ、梅の香がそこはかとなくたどたどしい始める。  
「梅一輪一りんほどのあたたかさ」毎度ながら、嵐雪のこの句をよんでいると、いかにも雪間ぐきをふみながら、春の女神が近づいてくるような気がする。  
昔、父が冥の畑に背しべの大樹を五本も植えた時、一度に雪をかぶったように真白に咲いたことがあった。  
しかし、梅は一輪々々咲くのが最上である。  
梅は中国の原産であるが、かなり早くから我が国に渡来していらしく、万葉集には梅の歌が四〇四首もおさめられている。  
あの有名な山部赤人の歌もその中の一つ。  
もしもこの大宮人はいとまあ梅をかざしてここにつどへる  
熱海のMOA美術館が正月の三日間、収蔵品を展覧するというので、元朝早々に旅に出た。  
尾形光琳の紅白梅園屏風、野々村仁清の色絵、湯女図、本阿弥光悦等の、国宝、重宝が多く、また

た、クロード・モネの睡蓮やジヴェルニのポプラ並木、レンブラントの帽子を被った自画像等。見終るのには一日かかる。  
何度かメインロビーにきては休けいする。ほの暗い展示室からメインロビーへ出ると、熱海の海が眼下にひろがり、視野一ぱいが陽光に輝く青の世界となる。  
二階の奥まったところには素晴らしい能舞台がある。紅白梅の絵を見た後なので、こんな舞台で東北が上演されたらいいのに、と思つた。私は前から東北は好きであつた。  
幽玄第一、劇的な展開はほとんどなく、専ら情緒的であるのがたまらなく好きである。  
奔放な愛欲生活にわけられたといわれる歌人の和泉式部をえがかず、ひたすら月下に芳香を放つ梅花の清純さに徹した演出に心を引かれる。  
時間と空間の芸術といわれる能演じ終ればそのまま消えてゆく笑を、私は折りにふれて心の中に再現することが出来る。人間(ひと)は、はかなく消えてゆくものに無限の哀愁を感じるものである。みがかれ、そして美しく深まってゆく悠久の美を大事にしたいと、青い海ばららを眺めながら私は何度自分自身に言いかけた。

殺末  
シテ友彦。消々し過ぎての冷気に思わずのクサメ留が愛嬌です。狂言「茶壺」はシテ方女流(周子・郭子・美和)。主役目録は

### 大蔵狂言会なごや会

三月九日(日)午後零時三十分始

小舞 幼げしたる物	大西 安春	道明 寺 森 浩一
狂言 口真似	出口 茂雄	梅本 道子
小舞 盃	新実 淑子	土 車 鈴木 順子
府 中	小山きゆ子	曉の明星 中村 つや
狂言 舎弟	鈴木 一火	カーン・テモチ
小舞 宇治の晒	河村真理子	十七 八 高倉 昌子
餅 酒	増本 寿代	貝 尽し 河村 文字
景 清	梅本 道子	
狂言 附子	丹羽 良之	牛田 敏明
小舞 七つに成子	波多 玲子	輪 鯛 立川 一枝
名 取川	久松 往子	栗 阿 弥 丹羽 節
狼 架	松川 佳澄	
狂言 腹不立	森 貴寛	河村清太郎 河村 弘祐
小舞 福の神	小野加津子	岩 飛 び 岩田 菜
塗 師	若林 泰子	海 人 榎木 信栄
餅 尽し	計盛 諸子	
狂言 因幡堂	渡辺 茂	松川 佳澄
小舞 鐘の音	牛田 敏明	御 田 若林 邦直
狂言 宗論	村松 泰子	大蔵 基義 大西 安春
小舞 神	鳴 善竹 十郎	栗 燦 善竹 圭五郎
附 祝言	梅 大蔵 弥太郎	

(終了 午後五時十分頃)

### 名古屋梅猶会能楽会

三月十六日(日)十一時始

熱田 神宮 能楽 殿

### 雲林院

飯富 雅介 河村 総一郎 助川 竜夫  
西村 欽也 福井 啓次郎 鹿取 希世  
杉村 元 福井 啓次郎 鹿取 希世

### 文蔵

佐藤 友彦 井上 松次郎

梅若 修一 梅若 修一 池内 幸三郎  
梅若 修一 梅若 修一 池内 幸三郎  
梅若 修一 梅若 修一 池内 幸三郎

### 附祝言

主権 名古屋 梅 猶 会

梅若 修一 梅若 修一 池内 幸三郎  
梅若 修一 梅若 修一 池内 幸三郎  
梅若 修一 梅若 修一 池内 幸三郎

### 船弁慶

西村 欽也 柳原 昌忠 鬼頭 喜太郎  
梅若 修一 梅若 修一 池内 幸三郎  
梅若 修一 梅若 修一 池内 幸三郎

### 国家指定芸能 能楽特別鑑賞会

世界のおき 身近な能楽

東京新聞 中日新聞 東京中日スポーツ 中日入部

中日新聞本社 名古屋市中区三の丸1丁目6番1号 電話052-201-8811  
東京本社 東京都港区港南2丁目3番13号 電話03-471-2211  
北陸本社 金沢市香林坊2丁目7番15号 電話0762-61-3111  
東海本社 浜松市東区新町45番地 電話0534-21-7111





信玄袋

一年末年始

元旦と二日の家元による「五流謡曲」の放送。今年の八翁Vは金春流(NHK、以下おなじ)。充実した四家元の個性と喜多実氏の老練(船弁慶)が心にしみ渡る。テレビは大晦日の釣狐(野村耕介)と三日の清経(観世清和、いずれも再放送)二番が元日の八翁V(宝生英雄、佳。はじめに若男の面をみせられる)と狂言二番(茂山千五郎、野村万作)か。千作氏後見座に、二日)を挟む。狂言の明るさもよい。また落の三十一日の放送は何か取り上げられるか楽しみ。今年も三日も再放送に当たった。ラジオにもこの企画がほしい。

か。それを考えながら、ルネッサンス的な面、例えばポッチェリリの面を思い浮べた。楽器は笛と小鼓で、「吾れ美の女神を抱く云々」のあたり小鼓が打ち出し、あと笛が吹き添えるのが印象的。特記したいのは、現行曲の能(能楽式)では八男女Vの事は翠根組のことばがせいぜい。この「半歌神」では婚合(まぐあひ)・口付(くちづけ)・秘事(ひみつ)など初心・純潔・清き裸身はかと品よく併存することである。フランスで上演させたい。上演時間四十五分、童泉会。十二月。補足。「オモテはつけるもの」(能友唯想、筆者。六十・十二月)。

新作能「雪女」を見た。「新作曲とは言っても、あくまで伝統にそった作品、古典の「羽衣」や「葛城」を頭に思い浮べて創ってみました。」と、当事者の梅田邦久は言うが、私は「羽衣」より金剛流の「雪」の影響を受けた。先ず「雪」「葛城・大和舞」と同じく雪をとり、白の引籠をかいた雪山が大小前に置かれると、次第の囃子でワキ部ノ男(高安勝久)が出る。段段目・白大口・掛巻袍である。「葛城」は屈強な山伏、「雪」は奥州から上る僧ワキでそれぞれ納得出来るが、都ノ男が雪深い山里に旧友を訪ねる無謀な旅を始める。とまれ各宜・道行・着セリフと派手なシテの呼掛までムードは「雪」

のシテが、ワキとの問答・掛合に玩具の持ち主の童の後に触れかけると、地謡が春夏秋冬四季折々の水の変化、霞霧露霞などなど全て母なる水、と響きに母性愛の過剰を言ひ、更に雪から雪遊びの様々を言うに及んで場面は一転哀傷が歡喜に変わり、前場の見どころとなった。

さて、雪の下から聞える女の歌が童頭と知って、心が浄化された気分ワキの待謡から後シテの登場となった。大小が難し笛がアキラウが、特に笛(六郎兵衛)の表現が新鮮である。シテは雪山の中から高く澄明な声で、へあは懐しの童頭やな、と語り出し、引籠が下されると床几に居た。長髪・増・襟白・銀指輪・白舞衣・白綾腰巻に右手に扇。所謂舞衣腰巻極細姿である。「葛城」後シテは長袖大口姿。ワキとの掛合から地となり、梁塵秘抄中の著名な能謡、へ遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけむ、で立って物を出ると雪舞ノ舞となった。

雪舞ノ舞とは、八月に翻す花衣げに雪の袖ならん、の「雪」、へげに雪を廻らす白雲の袖を妙なる、の「羽衣」の序ノ舞の謂で(八月教も積る雪の夜はへ廻雪の袖を翻し、の「放生川」は真ノ序ノ舞)、廻雪の袖とは美人が袖を翻して舞うのを流風廻雪に響けると言う。何れもその詞章を踏んでいくことからは出ているが、「雪女」の場合、廻雪ノ舞というのはどうであろうか。また装束が舞衣腰巻極細姿で、扇を締めるため、袖翻す印象薄いのはなからうか。白長袖に水色大口ならどうだろうか。思はぬでも無かった。

さて、廻雪ノ舞は、囃子を大変面白く聞いた。先ず笛と太鼓(上田悟)が難す。太鼓の天が雪で、笛は風か。シテがスミに出たとこで太鼓(正之助)が加わり、正先から正中で直直シ、サシで開き、押をしてカザシ扇でスミから左へ廻って作物の前を下居すると左袖で子を抱く型をし、右手をそつと添えた。終始クモリがちのシテに、笛の風、太鼓の雪のイメージが哀切感をひしひしと盛り上げた曲中の見どころとなった。

元日、二日とよくテレビをみた。そして一月十五日は橋弁慶・金剛永護入ひきのり。好演。金剛能楽堂から久々のテレビ放送(NHK)。鏡板の松の古雅な趣がよい。五十分ほど。あと十分、永護氏がアナ氏の質問に答える。なかなか好演。「小さいときからごく当り前のこととして能に対してきました」(注、能果て薄明りの舞台に永護少年が舞う・動く姿を何度もみた)。「演能に使うオモテに対し自分の芸の位が合わぬときはかえります」。

「若いとき一度は(能を)みておいてほしい」など。味わい深く、ほほえましい能弁のなかにつつまじさあり。付、昨年十一月永護氏の道成寺古式をみた。好演。国立能楽堂。これには、イラク駐在から帰国直後の別の時差ボケをなおし、日本趣味を回復させるためもあつた。成功した。あの美しくはげしい能をみて喜んでいた。

「雪女」と「半歌神の午後」。雪女。きれいな曲。女親としての雪女の心が美しい。四拍子が二つにわかれ、現行と少しく変わった新しい演奏振りが効果的。梁塵秘抄の「遊びをせんとや」の歌もうまく使われている。もう少しさらりと舞われたらよい曲にならう。文中一か所不審の点あり。作詞は室山三柳氏(京都)。能・狂言に親しむ会。昨年十二月。

能による舞台時、半歌神の午後(以下「半歌神」と略す)。「S・マラルメ原詩を仏文学者木村太郎翻訳・作詞。泉嘉夫作曲。作舞。木村先生は二十数回も稿を改められた由。ドビュッシェが音楽に書いたのをレコードで聴いたのが昭和六年の中学(旧制)を出た年。八高(旧制)に入った同窓の友人宅で「ボレロ」(ラヴェル)もいっしょに聴いた。ボレロは「六段の調べ」と対比できたが、後者の牧神の午後への前奏曲にはボレロと相異なる不思議さを感じた。家内は戦前、十七・八年頃東京で東(あずま)勇作氏の舞踊を観た由。二・三の参考資料のことを省く。

この舞台は動きが直接的。詩が時間を追って進むに似た何ものかが心を強く動かす。美しい。しかも曲線のな動きも望まれた。シテとツレとで中央に円形をつくと

観世流謡曲本 ちくさ正文館 ちくさ駅前 電話01137

師走の舞台から

新作能「雪女」

竹尾邦太郎

向けた。笛の風の中に、小鼓の明るい軽やかな音を、子の胸の鼓動と聞いたのか、再び左袖に抱く子を見やる。肌理の細かいシテの表情と、囃子の機微四拍子が難し。シテは立つと更に舞い進み、途中一氣に三ノ松に抜ける小さく三回廻り、右手を差し出し勾欄に寄り、更に右に廻り、正に直すと右袖被いてゆっくり眺めまわし、そのまま大小笛がアキラウ、太鼓の流しですると正先に出ると袖を戻し、押をしてカザシ扇で廻り、右袖返してサシで開き、ほどいて舞上げた(12分余)。囃子の後半は早舞の印象で、「雪」や「葛城」の序ノ舞とは趣きを異にし、「海人」の感じがしたが、三番目に入れるには異色と思われ

地となり、へ雪は降りける、と左袖被くと正先で正面を見、退って袖を下すと、シテは狂言するかに高い声で、へ雪や雪、深山の、と左袖巻き、へ里も、と解くと戯れるように正中小さく廻って左袖巻き、切地で心気は更に昂進して、正先へ出て両手を挙げた。 (電話番号変更) 熱田神宮能楽殿(053)六八二一七五一

社 8 43 11551

能楽取で催される。時あたかも桜花の季節で、夜桜の夕々ともいえる企画である。

二日目は、観世流能「千手」(久田徹二、ツレ武田邦弘能「鉄輪」(近藤幸江)狂言「花争」)

同研究会では、東西の生徒が一曲にそれぞれ参加するという組み合わせで配慮されている。

予定、入場無料。 後援は文化庁、国立劇場、社団法人日本能楽会、社団法人能楽協

上田 貴弘 大倉正之助 鬼頭喜太郎 梅田 邦久 岩田はるみ 藤田六郎兵衛 高岡 佳子 藤田 佳子

正しいメガネでしあわせを…… 日進堂 名古屋市西区那古野2-20-23(円頓寺本町) 451 TEL (571) 6181-3





「こぼれ」で始まる地元のニュー番組 (月~土)18:00~18:30 (日)17:00~17:30

# 能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

## 演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

16日(日)	名古屋梅猶金能	(有料)
21日(祭)	日本能楽会名古屋公演	(有料)
22日(土)	松月会能と獅子の会	(来場歓迎) (番組①面)
23日(日)	欣 園	(来場歓迎)
30日(日)	洗心会・華心会	(来場歓迎) (番組②面)
5日(土)	青陽会定期能	(有料) (番組②面)
6日(日)	青幸大能	(来場歓迎) (番組②面)
9日(水)	泉衆能	(有料) (番組③面)
10日(木)	大能	(有料) (番組③面)
13日(日)	世会定式能	(有料) (番組③面)
19日(土)	名古屋名古能	(来場歓迎) (番組④面)
20日(日)	邦野村能	(有料) (番組④面)
26日(土)	久幸	(来場歓迎)
27日(日)	友会	(来場歓迎)
29日(祝)	友会	(来場歓迎)
3日(祭)	豊盛水会	(来場歓迎)
4日(日)	豊盛水会	(来場歓迎)
5日(祭)	豊盛水会	(来場歓迎)
11日(日)	鳴会	(来場歓迎) (番組④面)
17日(土)	九や能	(有料)
18日(日)	九や能	(有料)
24日(土)	九や能	(来場歓迎)
25日(日)	九や能	(来場歓迎)
1日(日)	清熱神宮大祭能	(有料)
5日(木)	熱田神宮大祭能	(来場歓迎)
7日(土)	叶石会・一園会	(有料)
8日(日)	観世会	(来場歓迎)
14日(土)	学生全国大会(宝生)	(来場歓迎)
15日(日)	名古屋宝生会30周年記念能	(有料)
22日(日)	狂言也留舞会	(来場歓迎)
29日(日)	観世邦能	(来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい)

**第27回 大衆能**  
能楽協会名古屋支部主催  
4月9・10日「夜能」

能楽協会名古屋支部主催の大衆能は、きたる四月九日(水)と四月十日(木)の二日間、熱田神宮、両日とも午後六時開演で熱田神宮

**春の北国宝生能**  
4月5日 宝生宗家来演

北国宝生会(宮下明会長、佐野正治理事長)主催の六十一年度春の演能は、きたる四月五日(土)宝生宗家・宝生英雄、英照父子をはじめ宝生流の重鎮、金沢能楽会の出演で金沢の石川県立能楽殿で催される。

**近藤乾三氏を祝う会**  
能楽界の長老、宝生流シテ方、近藤乾三氏は、六十年の文化功労者に選ばれたが、この顕彰を祝賀する会が三月二十四日(月)午後六時から東京・日比谷の帝國ホテル富士の間で開催される。

**文化功労者**  
近藤乾三氏を祝う会

主催：京都能楽養成会、共催：大阪能楽養成会、東京能楽養成会、能楽養成会、文化庁および地方公共団体の補助金の交付をうけ、会費、講師の援助により、今回の成果をあげているが、今回の合

**東京**  
能楽養成会の第十六回東西合同発表会が三月二十七日(木)東京・千駄ヶ谷の国立能楽堂で催される。

**能楽養成会**  
東西合同発表会

3月27日 国立能楽堂

## 第27回 大衆能

能楽殿で催される。時あたかも桜花の季節で、夜桜の夕々しい趣のある企画である。

初日は、宝生流能「大蛇」(前シテ鬼頭嘉男、後シテ稲川幸一)狂言「狐塚」(井上松次郎)舞獅子・宝生流「陽春」(衣笠正直)喜多流「高砂」(長田鶴)ほか仕舞六番。

二日目は、観世流能「千手」(久田徹二、ツレ武田邦弘)能「鉄輪」(近藤幸江)狂言「花争」(野村又三郎)ほか仕舞が予定されている。愛知県、名古屋市後援。入場料千五百円。取扱いは各ツレガイド、出演楽師、能楽殿(電話六八二一七五)番組④面掲載。

**松月会能と獅子の会**  
三月二十二日(土)午前十時始

熱田神宮能楽殿

同研究会では「東西の生徒が一曲にそれぞれ参加するという組み合わせで配座されている。

番組は、舞獅子十二番、狂言一番、午前十一時始、午後四時終了

故 大倉長十郎師追悼  
故 久田秀雄三回忌追善

魚 説法 野村信行 野村又三郎  
海 舞獅子 鬼頭英二 助川 寛夫  
海 舞獅子 大倉孝規 西部 恵司

三井寺 上田 邦久 岩田はるみ 藤田六郎兵衛  
花 月 高岡 佳子  
菊 童 梅田 邦久 辻 芳昭 助川 寛夫  
恋 重 山本 勝一 伊藤 正子 赤井 啓三  
高 砂 大槻 文蔵 辻 芳昭 鬼頭喜太郎  
忠 度 山本 勝一 山本 芳里 藤田六郎兵衛  
桜 川 上田 貴弘 福井 節子 赤井 啓三  
葛 之 泉 嘉夫 大倉正之助 助川 寛夫  
松 大槻 文蔵 大倉源二郎 赤井 啓三

**欣謡会**  
三月二十三日(日)午後一時始

熱田神宮能楽殿

欣謡会(金春欣三師主宰)仕舞、独吟。半能「竹生鳥」(シテ山口貴与志、ツレ大池保保)

劇場があった)と神宮球場(六六とツレ)とで中央に円形をつくる

も曲線的な動きも望まれた。シテ

電話 1137

聞かせるが、くどい気がしない

行上人と旅に出ると、その後は雪

これに小鼓(舞第一部)が加わり

それを聞いてシテはふと面を去

宙中の見どころとなった。

● 駐







観能の功罪

「善知鳥」シリーズ私見

昨年末に並泉会の一能形式による舞台詩、半能の午後一が...

本格的な方は、比較の対象としてより、「ご参考までに」という程度...

この照明の多彩な面白さが、この場合十分に押し切れない...

元気があり面白かったのですが、たとえば後半のケケリからキリにかけては、場面の変化もあり...

Table with dates and names: 3月 16日(日) 23日(日) 30日(日) NHK 4月 6日(日) 13日(日) 20日(日) 27日(日) NHK 4月29日(日) ①狂言(再) ②能(再)

第廿七回 大衆能

四月九日(水) 午後六時開演(第一日)

格闘の舞台なればこそ、前二回の芸術センターでは照明の遊びに妨げられて、十分力を出し切れませんでした...

Table listing actors and roles for the 27th public Noh performance, including names like 二人静, 金札, 三笑, etc.

Table listing names and roles for the 27th public Noh performance, including names like 遊之, 柳ヶ瀬, etc.

四月十日(木) 午後六時開演(第二日)

Table listing actors and roles for the 28th public Noh performance, including names like 殺生石, 難波, etc.

Table listing names and roles for the 28th public Noh performance, including names like 花見, 加藤, etc.

名古屋観世会定式能

四月十三日(日) 十二時半始

Table listing actors and roles for the Nagoya Kansei Kai formal Noh performance, including names like 白楽天, 通小町, etc.

名古屋猶会春の大会

四月十九日(土) 午前十時始

Table listing actors and roles for the Nagoya Yū Kai Spring Festival, including names like 善知鳥, 融, etc.

Table listing names and roles for the Nagoya Yū Kai Spring Festival, including names like 御来場歓迎, 近藤, etc.

### 広田後援会能

4月6日 金剛能楽堂  
金剛流・広田後援会能  
は、四月六日(日)金剛  
能楽堂で第六十六回春期  
公演を催す。

番組は、仕舞「邯鄲」(広田泰  
能)、能「田村」(シテ広田幸松、  
ワキ谷田宗二朗) 狂言「太刀奪」  
(茂山真吾ほか) 能「鞍馬天狗」  
(シテ広田幸一、子方河原慎一、  
ワキ谷田宗二朗)  
午後一時開演、前売券四千円、  
当日券四千五百円、学生券二千円  
広田後援会(電話〇七五七七八一  
一八八五・三四二一)  
なお秋期公演は十月五日(日)  
開催の予定。能「遊行柳」(広田  
泰三) 能「紅葉狩」(広田泰能)

### 和泉元秀を観る会

4月17日 芸術センターで  
じゅうぶたい舞舞座  
(名古屋市中区和区鶴舞二  
一・二二)の創立三周  
年を記念して、「和泉元  
秀を観る会」が四月十七日(木)  
名古屋市中区葵一の芸術創造セン  
ターで開催される。

### 如月の舞台から

#### 「観世会」「九草会」

#### 「能と狂言に親しむ会」

竹尾邦太郎

「巻絹・神楽留」シテ元正。  
段唐織襦袢に長絹姿、面の寸髪  
の襟けた様子如何にも草深い邸  
の社に仕える巫子らしく、単袴衣  
・大口のワキ下(欽也)に臨す  
る風も無く、二ノ松でワキを見込  
み、「その解解とこそ」と左手  
突き出す気魄はそのまま神楽に、  
神の憑依を強く感じさせる精神の  
昂揚に転化した。ツレは清順。次  
第から着せしめられ、つらばりとし  
た清順は、細掛けられてからの  
神妙に見所の同僚が集まった。  
(1時間11分)

### 邦謡会大会

四月二十日(日)午前九時半始  
熱田 神宮 能楽 殿

### 東西狂言会

神戸文化ホール  
神戸生田ライオンズク  
ラブ、神戸楠ライオンズ  
クラブ、神戸市民文化振  
興財団神戸文化ホールの  
主催で「東西狂言会」が四月二十  
二日、神戸文化ホールで開催される。  
番組は「狸」(野村万之丞、  
野村万作)「鏡太郎」(茂山千五  
郎、茂山正義、茂山あきら)「瓜  
盗人」(網谷正美、木村正雄)  
この催しには、六百名無料招待  
の特典。詳細は神戸文化ホール事  
業課(神戸市中央区南四丁目2  
一・二)あて申込むこと。

### 神戸

神戸市立ライオンズク  
ラブ、神戸楠ライオンズ  
クラブ、神戸市民文化振  
興財団神戸文化ホールの  
主催で「東西狂言会」が四月二十  
二日、神戸文化ホールで開催される。  
番組は「狸」(野村万之丞、  
野村万作)「鏡太郎」(茂山千五  
郎、茂山正義、茂山あきら)「瓜  
盗人」(網谷正美、木村正雄)  
この催しには、六百名無料招待  
の特典。詳細は神戸文化ホール事  
業課(神戸市中央区南四丁目2  
一・二)あて申込むこと。

### 能隅田川

西村 欽也 吉田 定男 鹿取 希世  
飯富 雅介 後藤孝一郎

「田村・替装束」シテ喜之。  
裾食装・面褐色・腰巻着袴姿の  
前シテの軽快は、へああら面白  
の地主の花の色やな、とワキの  
旅情歌を誘う浮き浮きした気分  
が舞々せから中入まで揺曳して染  
みわたった。  
後シテは、面天神・黒頭・唐冠  
・狩衣エモン・半切・唐扇。その  
偉容からくる征夷大将軍の威容を  
前シテとは対照的に重厚。床几に  
かかっている馬の雄姿は、多の長  
も踏み抜かばかり。へ駒も足  
並や勇むらんと、逸る馬の手綱を  
締める態に一旦床几を立ち、再び  
拍子踏みなどあって、へ喜例なる  
へし、と得意に表情をワキに示し  
上下を見、へ満目青山、とぐつと  
面を覗いたあたりの力感感る躍動  
感、床几に居ればその内から  
進めるものがあつた。カケリは抜け  
て、そのためか、せき込み込むような快  
調なテンポでキリまで一気に押し  
まくった。(1時間17分)

### 人間国宝(重要無形文化財保持者)に

### 豊春会春の会

能「源氏供養」「葛上」

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 鳳鳴会大会

五月十一日(日)午前九時始  
熱田 神宮 能楽 殿

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円

社 18 4 13 一四円

### 人間国宝(重要無形文化財保持者)に

豊春会春の会  
能「源氏供養」「葛上」

### 能のすすめ

高橋 幸男  
定価九五〇円



面打教室 於名古屋・朝日神社 毎週木曜日及び土曜日(月4回) 日本能面巧芸会 会長 林 龍 雲 事務局 名古屋千種区宮根台 2丁目2の8 川村逸夫方 電話 052 (721) 4687 教室の見学・能面お求めになりたい方 お気軽におこし下さい

# 能楽の友

発行 能楽の友社 名古屋千種区千種2丁目18-18 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋0-36393 購読料 1年 700円 郵送の場合 1年 1200円 一 部 70円

## 人間国宝(重要無形文化財保持者)に

### ワキ方 森 茂好氏

文化財保護審議会は、三月二十八日、重要無形文化財保持者「人間国宝」に五氏を認定するよう海部文部大臣に答申した。 芸能の部では、能ワキ方・森茂好氏(六九)と上方舞の吉村雄輝氏(六三)の二人。 ワキ方宝生流の森茂好(もり、しげよし)氏は、大正五年生れ、東京都出身、実父の宝生新に師事、

### 重文に春日神社の能装束指定

岐阜県本巣郡根尾村

文化財保護審議会(小林行雄会長)は、三月二十九日、国の重要文化財として五十一件の美術工芸品と五件の建造物を新たに指定するよう文部大臣に答申した。

美術工芸品に指定されたなかには岐阜県本巣郡根尾村の春日神社の能装束が含まれている。

春日神社の能装束で指定されたのは、狩衣三点和角帽子(すみぼうし)二点で桃山時代のものである。同神社で能が演じられた記録は

## 豊春会春の会

能「源氏供養」「襲上」

豊春会(豊嶋三千春師主宰)は、六十一年度春の能を四月二十日午後一時から河村能舞台で開催。

能組は、能「源氏供養」(シテ豊嶋三千春、ワキ清水利宣、笛森田光春、小鼓曾和博朗、大鼓谷口正喜)「狂言」「二石」(茂山正義岩崎狂雲)「能、襲上」(シテ豊嶋三、ツレ植田恭三、ワキ高坂康弘、笛光田洋一、小鼓竹村英雄、大鼓中村喜彦、太鼓小寺俊三)ほか「一調」「笠之段」(重本昌三、中村喜彦)仕舞五番を上演。

豊春会は、発足以来二十二年目を迎える。なお秋の能は、十月十日が予定されている。

### 観世宗家来演

### 野村信行君「三番叟披き」

狂言やるまい会(野村又三郎師主宰)は、きたる五月十八日(日)熱田神宮能楽殿で、第二十九回公演を行う。

この催しには、観世元正、清和の宗家父子が来演、能「翁」を上演するが、野村又三郎師長男・信行君が三番叟の披きでつとめる。

## 「狂言展」開催

新宿小田急パトで

和泉流宗家秘蔵による「狂言展」が四月十一日から二十二日まで、東京・新宿の小田急百貨店(本館)十一階、グランドギャラリーで開催。

読売新聞社主催、展示は、和泉流宗家が秘蔵する百余点の装束を中心に、面、扇などの小道具も出品。また和泉元秀宗家による東演が会期中行われた。

演目は「棒縛」「柿山伏」「泉山伏」「盆山」「重喜」「附子」「雷」など。入場料は五百円、学生四百円、実演観賞は一般五百円(一曲)学生四百円。

## 保田紹雲「能面展」

ビシアビタ江南で開催

能面づくり、日本能面巧芸会員の保田紹雲氏の作品による「能面展」が四月十日から十七日まで江南市の「ビシアビタ江南」で開催された。

## 野村四郎名古屋公演

### 能「俊寛」を観る会

四月二十六日(土)午後二時開演 熱田神宮能楽殿

解説 俊寛について 岐阜市立女子短期大学教授 辻 宏一

放下 僧小歌 木月 宇行 仕舞 玉之段 野村 四郎 地謡 上野 貴弘 山 姥キリ 藤井 徳三 上野 貴弘 下野 友彦 妻 井上礼之助 狂言 鈍太郎 男 野村又三郎 要 井上礼之助 成経 久田 徹二 下野 友彦 廉頼 武田 邦弘 野村 四郎 藤井 啓次郎 藤田 六郎兵衛 野村 又三郎

## 能俊寛

後見 山中 義滋 地謡 上野 雄三 藤井 裕久 大 江 将 雄 藤井 義弘 藤井 完治

主催 中日新聞社

A席 正面指定席 六千円・B席 階自由席 四千円 C席 二階自由席 三千円 入場券取扱所 名鉄・丸栄・三越・松坂屋・中日ビル CBC各プレイガイド。お問い合わせ熱田神宮能楽殿 (〇五二) 六八二一七五

## 中森晶三著作集

- 能のすすめ 定價九五〇円
- 能のみどころ 定價二〇〇円
- 能の知恵 定價九五〇円
- 鎌倉新能 定價九五〇円

上記の本は直接書店にご注文下さい。 玉川大学出版部に直接ご注文の場合、定価に送料250円を加算した金額をお送り下さい。

# 能面

数百年を経て、今尚現役の舞台を勤める 能面の歴史と造形美を探る!

中西 通著・今駒清則 写真 B4判 284頁 定価25,000円

能楽資料館館長である著者自らが、蒐集した大名家や能楽諸家旧蔵の能面を中心に、舞台効果の優れているものは勿論、工芸的にも水準の高い名作百面を選び、能面に魅せられ、開眼した筆者独特の能面美学で解説。

本書の特色 \*各面を様々な角度から撮影 \*室町初期から江戸中期までの造形の特徴を追求 \*面裏の鮑目や焼印、漆書きの記録など細部にわたり収録 \*彫刻・彩色の特徴などを技術を中心に解説。



熱田神宮能楽殿に、実物見本・申込書がございますのでご覧下さい。

玉川大学出版部 〆0427(28)3213 振替東京8-26665 千194 町田市玉川学園6-1-1

磨くところを、「すべすべ」と磨く柄の方を撫でたが、柄は戯れ柄... (終了予定 五時四十五分頃) 武 田 志 房 会

# 五月雅日記

## 青葉の笛

えと文 二井栄逸

平家が壇の浦に沈んで八百年。今もお私達の心をひきつける大ロマンは、平家物語によって永遠に伝えられてゆくことであろう。能にも数多く平家物語を取り入れられて、いろいろな角度から平家の華麗さや、悲しさをくみとることが出来ます。

世阿弥の、風姿花伝第二、物字条々(ものまねのじょうじょう)は、法師、物ぐるい、神、女、鬼等と、いくつもの項に分けられていますが、修羅もその一項目で次のように記されています。

これまた、一体のものなり。よくすれども、面白きところ稀なり。さのみにはすまじきなり。ただし源平などの名のある人のことを、花鳥風月に作り寄せて、能よければ、何よりもまた面白し。これ、ことに花やかなるところありたし。これ体なる修羅の狂ひ、ややもすれば、鬼のふるまひにな



観能 素人と玄人

「能楽堂の特権的『雰囲気』」のことです。彼曰く「どんなジャンルの芸術だって、観客や聴者や視聴者は本素人なのである。能楽堂で全れるような素人を、遠ざける結果になっているとしたら、これは大きなマイナスです。もっと開

修羅とは、「一腹患(しんい)盛んにして悪心をなす事なし。常に物妬ましく、腹立ち、いかりたる心を宗(むね)とする物也」と記されております。そのような事を主にした能以前のものが、平安時代以来の猿楽や、鎌倉時代の歌舞劇等にあつたようでありますが、世阿弥は、能というものは面白く、美しく、魅力的でなければならぬ、すなわち幽玄でなければならぬというのです。鬼や、修羅は原則的には演じてはならないけれど、源平の名だたる武将を主人公にして、風雅な景物を取り合わせて、うまく能を作れば素晴らしい花が咲くのだというのでした。

- 61年4月・5月放送予定
- 〔4月〕 NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)  
20日(日) 素謡(宝生流)「莫上」「藤」松本恵雄  
27日(日) 素謡(観世流)「大原御幸」関根祥六  
NHK教育テレビ  
4月29日(祝) 午前9時~10時  
①正言(再)「末広がり」(大蔵流)茂山千五郎  
茂山千之丞、茂山忠三郎  
②能(再)「宝生流」「藤」宝生英雄、森茂好
- 〔5月〕 NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)  
4日(日) FM週間のため休止  
11日(日) 宝生流「忠度」吉野静 大坪十喜雄  
18日(日) 喜多流「舞丸」友枝喜久夫  
25日(日) 観世流「雲雀山」片山九郎右衛門  
NHK教育テレビ(午前9時~10時30分)  
5月3日(祝) 喜多流能「湯谷」栗谷新太郎ほか  
(桃花祭・巖島神社能舞台)  
5月5日(祝) 観世流・復曲「三山」観世鏡之丞ほか  
(東京・観世能楽堂)
- (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

豊星会春の会  
五月四日(日) 十二時始  
熱田 神宮 能楽殿

幸友会春の会  
四月二十九日(祝) 午前十一時始  
熱田 神宮 能楽殿

故 上田照也師 三回忌追善能 四月二十七日(日) 十二時半始 久田 秀雄 熱田 神宮 能楽殿	千手 上田 拓司 上田 貴弘 西村 欽也 吉田 定男 福井啓次郎 西部 恵司	善知鳥 観世鏡之丞 吉田 定男 福井啓次郎 藤田六郎兵衛	地藏舞 野村又三郎 井上礼之助	女郎花 観世 曉夫 盛ヶヶ 山田 義高 笠田 稔 地謡 須部 祐司 上田 拓司 清沢 一政	富士太鼓 笠田 稔 地謡 須部 祐司 上田 拓司 清沢 一政	熊坂 野村 四郎 地謡 須部 祐司 上田 拓司 清沢 一政	久田 敬二 西村 欽也 久田 敬一 助川 治 藤田六郎兵衛	十三段ノ舞 野村又三郎	後見 前野 郁子 上田 貴弘 地謡 親父江修一 清沢 一政 笠田 稔 観世鏡之丞	主催 久田 鏡正 二 久田 徹 二 名古屋市北区東水切町四一四三 電話〇五二(九八二)三六四三 中日ブレイクガイド、名鉄ブレイクガイド	入場料 四、〇〇〇円(全自由席) 入場券発売所 熱田神宮能楽殿(電話〇五二(六八二)一七五二) 久田宅(〇五二(九八一)三六四三) 中日ブレイクガイド、名鉄ブレイクガイド
---	--	--	-----------------------	---	--	---	---	----------------	---	---	--

鳳鳴会大会  
五月十一日(日) 午前九時始  
熱田 神宮 能楽殿

豊水会 十五周年記念春季大会 五月三日(憲法記念日) 午前九時始 熱田 神宮 能楽殿	素謡熊 野 片田 征治 鈴木 英輔 黒野 芳郎	鶉 飼 高山 弘 古岡本 郁子 上野美与乃	仕舞雲雀 山 田中喜代子 鞍馬 天狗 寺田 正男	舞獅子吉野天人 浅見 節子 小袖曾我 早川 寛	素謡井 筒 野田 伸子 北島 康江	舞獅子難波 波 外山 圭一 羽 衣 古田 芳子	頼政 寺下 武子 卷 絹 北条いさ枝	能田村 西村 欽也 福井啓次郎 藤田六郎兵衛	素謡朝長 千賀 幸子 古岡本 明	舞獅子松風 奈倉 早苗 安 宅 牛島 康晴	素謡藤戸 野村 幸子 坪井 柏寿 高橋 邦光	舞獅子高砂 倉地 明美 敦 盛 秋山比登美	船弁慶 高井紀美子	舞獅子芦刈 衣田 清子 草子洗小町 下尾 和子	任舞天鼓 黒野 芳郎 野 守 山背 治	番外狂言清水 野村 信行 野村又三郎	番外熊坂 西村 欽也 河村総一郎 福井啓次郎 藤田六郎兵衛	附祝言 主催 豊水会 高橋 康一	後見 駒瀬 直也 観世 喜之 地謡 古岡本 明 黒野 芳郎 山背 治 中野 宣夫 久田 弘 中川 雅二
---	----------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	-------------------------	-------------------------------	--------------------------	---------------------------------	------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------	--------------	-------------------------------	---------------------------	--------------------------	---	------------------------	--

観能

素人と玄人 優劣論いろいろ

私は親切で、ていねいで、わかり易い能が好きです。わかり易いという、直ぐ調子を下げた芸のように、軽べつされる向きが多いのですが、決してさげにあらざる。素人にもわかる芸こそ本もので、調子を下げるところか、調子の高い高級品といえましょう。素人にはわからぬむかし技巧で固めた芸が、高級だと思ふような玄人は夏目漱石が軽べつする玄人、つまり「部分ばかり明るくて、全体を忘れてる人間」です。これは漱石の「素人と玄人(玄人)」という評論の中にある言葉ですが、この玄人に対し素人は「一目で芸術の全像を受け入れる観察力をもっている人」だそうなんです。漱石はこの評論の最後を「昔から大きな芸術家は多く創業者である。創業者は人の門をくぐるのでなく、自分が新しく門を立てる以上、純然たる素人でなければならぬ」といっています。だから「素人は玄人よりえらい」と結論しているのはいくらですか。玄人に分が悪いのは当然です。能についても一家言あり「能や踊りは、当初から輪郭(全体)は神聖にして犯すべからずという約束の下に成立するのだから、その中に活動する芸術家は、たゞい輪廓を忘れないでも忘れたと同じ結果に陥り、ただ五十歩百歩の間で己の自由を見せようとする苦悶するだけである」と皮肉たっぷり。漱石の活躍した明治末期―大正初期と、戦後昭和の今日とは、時代のへだたりが大きい過ぎて、文章漱石とはいえず、その言葉がそのまま現代に通用するとは思いませんが中には内心省みてうなづく能楽人もいるのではないのでしょうか。

このような優秀な素人がほとんど熱田能楽殿へ来てくれるようになったらいいのですが、そうやすやすと問屋は卸してくれません。それに第一、素人をひきつけるに足るような魅力ある舞台がほとんどつくりだされないうえに、簡単なことではありませんが然し決して絶望ではないと思えます。故観世寿夫が生前あるインタビューで「能楽界では一般に、現代性などという点については、関心をいだいていない人があまりいません」といっています。彼の死後十年もたつた今日、能の現代性や現代の意義について考えない能楽人はいないでしょう。その進歩驚くばかりです。名古屋でも、素人の鑑賞にたたるすぐれた能(というものは、親切で、ていねいで、わかり易い能ということですが)に接する機会が目に見えて増えて来ました。たとえば、この三月中でも、梅猶会の「舟弁慶」(16日)では、梅若松一が個性的な静像を描出した惜せる舞のあと、キッパリと鳥帽子の紐をほどく手に、意志の強さを強調しました。中日名匠鑑賞会(29日)で、観世喜之の「清経」は、薄命の貴公子の最後を描くにふさわしい淡彩的手法で成功しました。散る花のはかなさ、あわれさ、美しさ。もう一つ、これは能ではありませんが、せんが、松月会(22日)での泉嘉夫の独演「隅田川」が、われもまたいざ言問わん、のくさきり、ほんの短いものでしたが、全曲の情趣をこの一節に盛り上げて感動を呼びました。これらの名演のかけには、身についた現代感覚と緻密な計算がかけられていると思えますが、それがあらわにならないところが心に響く。もっともこの頃では、かくれた計算が、むしろあらわになることを喜ぶ見所が増えていっているように感じられます。いい悪いの問題ではなく、時代の好みの変化といえるかも知れません。(以上の数例は私の目によれた狭い範囲内のこと。全部を見通した上でのお断りしておきます。) まだ大きな問題が残っています。批評家の渡辺保氏が「能の批評について」という一文(「観世」60年8月号)の中で指摘された

「能楽堂の特種的雰囲気」のことです。彼曰く「どんなジャンルの芸術だって、観客や読者や視聴者は本来素人なのである。能楽堂の観客だけが、鑑の弟子であったり、鼓の弟子であったりして、一見特殊な玄人っぽい雰囲気をつくっている。あの雰囲気は能のためには健全なものでない。能の観客はもと本当は一般的な素人の観客であるべきである」と。なんだか漱石の評論を違った方面から裏書きしている感じがする。名古屋の能楽殿の雰囲気は東京よりずっと庶民的で開放的ですが、それでも渡辺氏が指摘するような点が全然ないとはいえないのではないですか。こうした雰囲気が、少しでも本当の意味で、将来能の味方になつた。

「読謡集」シリーズ ちかく第10巻刊行 意味が分って読みたいといふ願いをこめた、謡の口語訳「読謡集」が神戸の尚語発行所(著者坂元英夫氏)から発刊され、愛好者の手引として親しまれている。

意味を知って謡いましょう みんなのぞみかけた本 謡の口語訳「読謡集」シリーズ

- 【第一巻】(初心鑑本・上巻) 「鶴亀」「権弁慶」「吉野天人」(原文対訳)
【第二巻】(初心鑑本・中巻) 「竹生島」「経正」「羽衣」(原文対訳)
【第三巻】(初心鑑本・下巻) 「菊慈童」「田村」「東北」「富士太鼓」「紅葉狩」(原文対訳)
【第四巻】(原文付) 「安宅」「敦盛」「安宅」(原文付)
【第五巻】(原文付) 「阿漕」「芦刈」「安達原」(原文対訳)

発行「尚語」発行所 〒652 神戸市兵庫区七宮町二二一四 電話(〇七八)六五二二二〇七番

4月(日) 20日(日) NHK 4月29日 ①任言(再) ②能(再) 5月(日) 4日(日) 11日(日) 18日(日) NH 25日(日) 5月3日 5月5日(日)

豊星会春の会 五月四日(日) 十二時始 熱田神宮能楽殿 能殺生石 鈴木昌美 ほか舞囃子、仕舞など 主催 豊星 嶋三千春 会

異会大会 五月五日(祝) 九時半始 熱田神宮能楽殿 素羅草紙 山田紀子 子鶴見奈美子 貴湯美公美乃 立久松 曉枝 依田 佳子 仕舞 太鼓 河野 高子 大江 山 高柳 京子 藤 政キリ 財田 詩子 半 藤 藤田 いく 藤 藤田 いく 藤 藤田 いく 藤 藤田 いく

能田 萬原正枝 飯富雅介 寛 敏一 森本 重一 村 西村 欽也 福井啓次郎 杉江 元 福井啓次郎 大野 弘之 間 大野 弘之

狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能天 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能礎 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能経 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能放 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能阿 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能定 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能蝉 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

附祝言 主 豊 高橋 水 中 所 前 夫 中 川 雅 章

鳳鳴会大会 五月十一日(日) 午前九時始 熱田神宮能楽殿 番外仕舞 八 八 松 知 鳥 小島 一英 祖父江修一 中川 雅章

能放 下僧 大坪 重遠 山森 幸男 サシ、クセマキ 吉本 米子 丸 村上 郁子 村上 清 クリ、サシ、クセマキ 伊藤 義郎 一柳 正直 クセマキ 松井 弘 三川 慈平 家 松井 弘 三川 慈平

能阿 正 西村 欽也 吉田 定男 柳原富司忠 山崎佐東子 替之形 後見 武田 尚浩 地謡 祖父江修一 藤井 完治 清沢 清和 武田 尚浩 武田 尚浩 武田 尚浩

能定 独吟 大原 御幸 財前 光枝 俊 岡田 寛 野々山 繁 岡田 寛 野々山 繁 岡田 寛 野々山 繁

能礎 間 西村 欽也 河村 総一郎 福井啓次郎 後見 郷 郭太郎 地謡 新井 千俊 小川 博久 藤井 完治 小川 博久 藤井 完治

能天 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能経 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能放 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能阿 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能蝉 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎

能定 狂言 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎 舟弁慶 小柳 保志 井上松次郎



# 名古屋観世九臈会能

五月十七日(土)午後一時始

熱田神宮能楽殿

佐々木勝雄 高橋 暎一

花月 加藤 保彦

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

狂言 若 忍ノ舞

## 弥生の舞台から

佐藤秀雄三回忌追善狂言会「梅猶会」

国家指定芸能・能楽特別鑑賞会

竹尾 邦太郎

「鬼瓦」シテ又三郎。昔の人は

「釣天井」の按配、樹形の組立て

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

「野老」シテ元秀。白頭にて

## 信玄袋

春さまざま、桑原武夫氏のことば

四月五日付の朝日新聞で春愁の

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

「節分」シテ友彦。パンフに

## 第六回 萌謡会

五月二十四日(土)午前十時始

仕舞 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

狂言 百 萬 鈴木 江波

謡曲本専門店 創業75年 株式会社 東文堂書店

名古屋市中区栄三丁目28番16号(〒460) (松坂屋南一丁) 電話(052) 241-1059番

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一部 70円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

Calendar table listing performances from May to September with dates, titles, and locations.

重要無形文化財総合指定 新たに64名認定 日本能楽会会員

日本能楽会(宝生英雄会長)は、重要無形文化財(能楽)総合指定保持者としてこのたび64名を認定...

名古屋宝生会 創立30周年記念能 6月15日 熱田能楽殿で

名古屋宝生会は、昭和三十二年発足して本年で三十周年にあたり、きたる六月十五日、熱田神宮能楽殿で宝生宗家を迎えて、同会創立三十周年記念能を開催される。

社団法人金春 円満井会設立

理事長に金春安明氏就任

金春円満井会は、ことし三月十三日付で社団法人に認定され、四月一日から「社団法人金春円満井会」として新たに発足した。

第六回前 謡 会

五月二十四日(土)午前10時始 熱田神宮能楽殿

Large table listing performers and their roles for the 6th Pre-Performance Meeting, including names like 高砂, 大原御幸, 川丸, etc.

Vertical text on the right edge containing additional notices and information.

# 10月間 名城夏まつり

## 6日に能2番を上演

ことし八月一日から八月十日まで、「名城夏まつり」が名古屋城で行われるが、期間中、城内に能舞台が天守閣の下に設けられ、六日には、喜多流、観世流の能二番、狂言一音が上演される。

さらにこの期間中、各社中による協賛出演が予定されている。

この名城夏まつりは、名古屋市中日新聞、東海テレビ、東海ラジオが共催でも行われるので、市民文化行事として、六日には、喜多流能「船弁慶」(シテ長田鶴) 観世流能「羽衣」(彩色)シテ梅田邦久

# 五月雅日記

## 素朴への志向

えと文 二井 栄逸

はつ夏の風が吹きたると、山腹に咲きつづいた藤の花が一せいに薄むらさきに波立ちます。

しうやまぶきのそよぎ、その下に群れる十二単(じゅうにひとえ)の静かなたたずまい。はつ夏の山



# 観能 隅田川と俊寛

## 花を誘う力演二つ

熱田まつり奉納能楽組の面より

舞 舞 子 (喜多流)

長田 郷 福井啓次郎 藤本 重一 二井 栄逸

# 市民の劇場 「能・安達原の世界」

6月20日 名古屋市民会館

名古屋市民会館自主企画・第百三十四回市民の劇場は、六月二十日(金)名古屋市民会館中ホールで「日本の心シリーズ」として、「能・安達原の世界」が上演される。

番組は、狂言「綱梅」(野村万之介、佐藤友彦、野村又三郎) 能「安達原」(シテ野村四郎、ワキ谷田宗二朗、ワキツレ飯富雅介、間・石田幸雄、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・御原富司忠、大鼓・河村総一郎、太鼓・鬼頭喜太郎、地謡・梅田邦久ほか。

入場料指定席三千円、自由席二千円。

# 能楽「舟弁慶」マテ

6月3日 芸術センター

藤田六郎兵衛師が主宰する「能楽講座」は、六月三日、東区・葵の芸術センターで、六月講座として「舟弁慶」をテーマに催される。

この講座は、ただ聴くだけの講座ではなく、受講者に直接、面や装束、作り物に触れてもらうよう計画され、毎回定員を超える申し込みがあり好評。今月は五月十五日から申し込みを受け付ける。

講座は、午後一時半からと、夜の部として午後六時半から開講。約二時間。受講は一回千二百円。申し込み、問い合わせは、名古屋市民会館西下二一〇一九、藤田六郎兵衛師、電話〇五二一五七一―五七六三番。

# 名古屋観舞会春の大会

五月二十五日(日)午前十時始

熱田 神宮 能楽殿

番外連吟	採	女	初岡 藤本 哲郎 山本 博通
舞子	錦	木	杉野 伸江 寛 敏一
清	経	辰男	寛 敏一
櫻	川	近藤 辰男	寛 敏一
舞子	屋	島	藤井 敏枝 福井啓次郎
現在	七面	伊藤 秀子	寛 敏一
難	波	伊藤 健一郎	福井啓次郎
舞子	玄	象	青柳 イツエ 久田舜一郎
七	駒	落	中川 芳子 久田舜一郎
杜	若	鈴村 とみ	福井啓次郎
舞子	高	砂	豊住 雅子 福井啓次郎
頼	政	川瀬とよ子	久田舜一郎
山	姥	足立奈々子	河村総一郎
養	老	三宅 重光	神野勝之助
舞子	江	野	島 山中 節子 久田舜一郎
善	知	鳥	吉田 琴子 久田舜一郎
船	弁	慶	川口志満子 寛 敏一
披	披	拾	加藤 泉来 山本 真賀
能	三	輪	西村 敏也 河村総一郎
附	祝	言	井上松次郎 (終了予定六時)

# 清 韻 会 能

六月一日(日)午後一時始

熱田 神宮 能楽殿

水無月	花	女郎	泉 泰孝
阿	松	風	今村 嘉勇
丸	丸	西村 敏也	吉田 定男
鼻	取	相撲	野村又三郎
天	鼓	近藤 幸江	寛 敏一
熱	奉	納	能
龍	田	能	竹内 澄子

大 概 文 蔵

西村 敏也 河村 大

杉江 元 鬼頭喜太郎

大野 弘之



独語 「隅田川」と「俊寛」

花を誘う力演二つ

観世家元門下の逸才二人が、四月に前後して熱田の舞台上で、注目を集めた。片や隅田川六の「隅田川」(13日、観世会)、片や野村四郎の「俊寛」(26日、野村四郎の会)。

「俊寛」久しぶりに面白い「俊寛」を見ました。「隅田川」同様、暗い主題、それでもそれは主人公が女性(母)だけに甘さがありま

まず前半の見どころ「都鳥」の段、橋掛りや傘を傾けて正面を見込み「遠くも来ぬものかな」の感慨が、やや遅れ気味に添えた手に効いていたのを面白く思いました。

この瞬間を頂点とする「形の芸」の面白さが、この「俊寛」を一貫して、写真に墮するのを防いでいました。つまり表現力(型)の洗練、これが野村四郎の関心の的らしく、感情移入などは、よくも悪くも絶対にしない。とはいえず、表現力を構成する様式とリアリティは、時に合致し時に遊離する(これが見どころ)。

世阿弥の所説は、能をこえて、多くの入々の迷いをも救ってまいりました。

一謡会・叶石会大会 六月七日(土)午前十時始 羽衣 伯母ヶ酒 経政 三輪 附祝言 主催 能楽協会名古屋支部

附祝言 主催 名古屋観世会 御来場歓迎

名古屋観世会定式能(第三回) 六月八日(日)十二時半始 藤歌 実占 石橋 竹生 安宅 半邸 高砂 船弁 唐船 養老 御来場歓迎

附祝言 主催 名古屋宝生会 御来場歓迎

名古屋宝生会 定式能 六月十五日(日)午後一時始 鶉飼 小袖曾我 熊野 放下 小鍛冶 附祝言

### 也留舞会発表会

六月二十二日(日)十二時始  
熱田 神宮 能楽 殿

#### 狂言組

富田 雅子  
安藤美知恵

舟 船  
三宅 千生

田 植  
中山 裕司

竹生島参り  
徳田 文三

籾 屑  
加藤 静子

小 宇治の晒  
高橋 貞子

小 よしの葉  
白石 友子

茶 壺  
落合山布子

文 荷  
長谷川田鶴

花 り  
村手 泰

小 争  
日比野明子

小 暁の明星  
堀田 淑子

小 宇治の晒  
高橋 貞子

小 法師ケ母  
白石 友子

太 水  
植 啓子

引 刀  
庄司 武

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

引 括り  
伴野 俊彦

### 61年5月・6月放送予定

〔5月〕		NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)	
18日(日)	喜多流「舞九」友枝喜久夫	25日(日)	観世流「雲雀」片山九郎右衛門
〔6月〕		NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)	
1日(日)	金春流「柳景」高橋栄夫	8日(日)	観世流「景清」高橋栄夫
15日(日)	宝生流「氷室」武喜永三	22日(日)	観世流「女郎」藤井徳三
29日(日)	下懸り「宝生流」森茂好		

〔放送予定につき変更の際はご理解下さい〕

日本能楽協会  
新作能面展  
名古屋博物館で  
6月3日~8日

日本能楽協会  
会主催の新作能面展は、六月三日から八日まで名古屋博物館で開催される。県教委、市教委、能楽協会名古屋支部後援。

出品は会員の新作五十数面の予定。同展は毎年一回開催している作品発表会で、四回目を迎える。入場無料。午前九時十五分、午後四時十五分。

### 卯月の舞台から

#### 野村四郎の会

#### 竹尾邦太郎

「大蛇」八岐大蛇の物語は、戦前の人々に知れ渡っていたが、これを素材とする「大蛇」は当時も稀曲で、明治十七年四月、シテ大島龍次郎・ワキ西村大蔵の記録しか見当たらない。さて前回は、ワキツレ二人を従え、名宣留(恵司)で出た唐冠・拾得衣・白大口姿のワキ素盞鳴尊(欽也)が、大蛇屋の内から漏れるシテ(嘉男)の悲嘆を聞き、義侠を眉宇に表わし、この曲を支えるワキ方の重きを自負する気概が好ましかった。ロンギから地とワキとの掛合に大蛇退治の策を言い、シテは談合に身を乗り出さざるばかりの気持をワキにアシラウところを見せて盛り上げた。中人はワキが子方を介添して送り込み、見送るシテとワキも中人入りで入り、後見は作物

#### 保田紹雲作品展

6月12日から多治見で

日本能楽協会員の保田紹雲氏作による「能面展」が六月十二日から十七日まで多治見市本町三の「ギョウリエピアタ多治見」で開催される。出品は約二十五点。同展には林能楽師(日本能楽協会会長)の作品も出品される予定。

#### 信玄袋

舞楽神事・平曲

五月一日は毎年熱田神宮・舞楽神事の日である。舞楽神事の下、舞台を取り巻く浅深の緑が目につく。舞を演ずる役者の年代が一新し、舞も昨年より進歩が著しい。伝承がうまく行われているので、長老の長谷川晴明(宮司)は、もっとうまうまの舞を望まれている。

#### 大阪城能7月15日

観世宗家「清経」恋之音取

四月には三品正保(まさやす)の検校の筆曲演奏会が催される。同検校が筆より始めた修業六十年、独立開軒四十年記念の会。盛況。大正九年生れ、平曲の大家。四月二日、大阪城能、野村四郎の会。

#### 五周年記念

観世宗家「清経」恋之音取

六月二十九日(日)午前九時半始  
熱田 神宮 能楽 殿

身との経緯を立シヤベリ(7分40秒)スミ近くに行つてワキに詞をかけ、ややらめだやな、と三段ノ舞を舞って舞上げた。友彦の踊り立シヤベリはこの遠い曲を一気に身近なものにしたと言えらる。後シテは面敷尉・白垂・初冠・拾得衣(紫裏で鈍く金色に光り翁狩衣を思わせる)。緑色大口。出猫で一ノ松へ出ると一声を謡い、露を取ると地の裡に常座へ出、真ノ序の舞になった。重々しく狂歌で、ゆつたりと両袖返すところなど悠揚として神氣張り、勝一好演。地(順之・邦久ら)・囃子(総一郎・竜夫)もこの長大な叙事詩を支え好舞台だった。(1時間59分)

#### 野村四郎の会

#### 竹尾邦太郎

「白楽天」「大蛇」に劣らず速い曲。先ず音取(六郎兵衛)・置鼓(舞一郎)が珍らしく独特の雰囲気を出した。さて前回は、未知の相手指名指して呼ばれ、驚くワキ白楽天(宗二郎)に、シテ漁翁(勝一)の冷淡な位の通り取りが如何にも素直なく、時間が惜しいと別れて陽正近く、居立って実際に釣糸を垂れるところが面白かった。アイ(友彦)は末社神。酒造と白楽天と漁翁は佳吉明神の化身。静かに自身に語り聞かせる

#### 保田紹雲作品展

6月12日から多治見で

山。それにしてもう一度同権司の勇壯典雅な殿王の舞がみたくもです。同権司を筆頭に関係者が、舞楽(神事)を通じて、名古屋の古典芸能に寄与する功績は大。

#### 信玄袋

舞楽神事・平曲

四月には三品正保(まさやす)の検校の筆曲演奏会が催される。同検校が筆より始めた修業六十年、独立開軒四十年記念の会。盛況。大正九年生れ、平曲の大家。四月二日、大阪城能、野村四郎の会。

#### 大阪城能7月15日

観世宗家「清経」恋之音取

六月二十九日(日)午前九時半始  
熱田 神宮 能楽 殿

#### 五周年記念

観世宗家「清経」恋之音取

六月二十九日(日)午前九時半始  
熱田 神宮 能楽 殿

エンゲージリング  
**山田宝石**  
貴金属・時計・装飾品  
名古屋・本山駅  
電 762-2434 代表

# 能楽の友

発行 能楽の友社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18  
(郵便番号 464)  
電話 (731) 7984  
振替口座 名古屋0-36393  
購読料 1年 700円  
郵送の場合 1年 1200円  
一 部 70円

## 演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- 〔6月〕  
15日(日) 名古屋宝生会30周年記念能 (有料) (番組②面)  
22日(日) 狂言也留舞会 (来場歓迎) (番組②面)  
29日(日) 親邦会大会 (来場歓迎) (番組②面)
- 〔7月〕  
6日(日) 九皇会定期能 (有料) (番組②面)  
12日(土) 親親能 (来場歓迎) (番組②面)  
13日(日) 日狂言 (有料) (番組②面)  
20日(日) 親世会素謡能 (有料) (番組②面)  
27日(日) 親青陽会定期能 (有料) (番組②面)
- 〔8月〕  
2日(土) 名古屋新能=熱田神宮境内= (有料) (番組④面)  
10日(日) 邦親会主催・独演の会 (有料) (来場歓迎)  
17日(日) 名古屋官庁楽団大会 (来場歓迎)  
30日(土) 友妻正宣後援会能 (有料)
- 〔9月〕  
7日(日) 金春会能 (有料) (来場歓迎)  
13日(日) 中日文化センター開講20周年記念能 (来場歓迎)
- 〔10月〕  
4日(土) 親世会定期能 (有料) (来場歓迎)  
5日(日) 親親能 (来場歓迎) (来場歓迎)  
10日(日) 親世会定期能 (有料) (来場歓迎)  
11日(土) 親世会定期能 (有料) (来場歓迎)  
19日(日) 淡交会秋季大会 (来場歓迎)  
25日(土) 淡交会秋季大会 (来場歓迎)  
26日(日) 淡交会秋季大会 (来場歓迎)
- (演能変更の際はご了承下さい)

昭和六十一年春の叙勲で、能楽界から大鼓方瀨尾乃武氏、大正八  
とワキ方瀨尾乃武氏、江崎正左衛門氏  
が勲四等旭日中綬章を受章した。  
瀨尾乃武氏 明治三十三年九月  
二十五日生れ、東京出身。大正八  
年亀井俊雄に入門師事、大正十年

### 大鼓方 瀨尾乃武氏 ワキ方 江崎正左衛門氏

### 春の叙勲

「名古屋新能」は、ことし第二  
十一回を迎え、きたる八月二日  
(土) 熱田神宮神楽殿前・特設舞

## 名古屋新能

能3番・狂言・仕舞など  
8月2日 熱田神宮で

名古屋新能は、昭和四十一年か  
ら催され、能楽協会名古屋支部主  
催、熱田神宮、名古屋市後援で毎  
年八月の第一土曜日を日程として  
開催され、夏を彩る野外能として、  
毎回二千人近い観客が来会、各回  
とも能楽五流と和泉流狂言で親し  
まれ、伝統をきよく守り上げている。  
今回は、親世流能「鶴亀」(シ  
テ高橋隆一、ツレ今沢美和、前野  
郁子) 宝生流能「吉野静」(シテ  
吉田俊彦) 親世流能「玄象」(シ  
テ中川雅章、ツレ今村嘉勇、須部  
甫) の能三番、和泉流狂言「椿桐」  
(シテ野村又三郎) さらに金剛、  
金春、喜多、親世各流の仕舞など。  
火入れ式は、熱田神宮・長谷晴男  
権宮司により行われ(午後六時半  
ごろ) 西尾武喜名古屋市長のあい  
さつが予定されている。

### 那古野神社 で奉納新能

親世九皇会主催

名古屋市中区の那古野神社で六  
月七日「奉納新能」が催され、約  
五百人の市民が観能した。  
同神社での新能は、昭和五十九  
年に始められ、一年おきの開催で  
今回は二回目、親世九皇会主催、  
同神社奉賛会が後援、社中会の出  
演、「松風」「通小町」など仕舞  
ののち親世喜之師による能「狸々」  
が上演された。

旭日章受章。昭和五十九年重要無  
形文化財各個指定(人間国宝)に  
認定。住所東京都豊島区西池袋一  
一〇一〇、池袋アパルトメント三〇  
五。

## 大阪城能7月15日

### 観世宗家「清経」恋之音取 粟谷菊生「船弁慶」真之伝

読売新聞大阪本社、読売テレビ  
放送主催の「大阪城能」は、七月  
十五日(火)午後六時から大阪城  
ホールで催される。

この「大阪城能」は、近代的な  
照明と音響装置を駆使した大ホー  
ルでくりひろげられ、内容、規模  
ともに毎年大きな話題と関心を高  
めている。

今回の番組は、親世流宗家親世  
元正・清和父子の共演による能  
「清経」が恋之音取の小書で上演、  
笛は一噌幸政氏がつとめる。ワキ  
福王茂十郎、小鼓大倉源三郎、大  
鼓山本孝、後見片山九郎衛門ほか  
地謡・親世流之丞、片山慶次郎、  
大槻文蔵ほか。狂言「水掛罌」  
(茂山忠三郎、茂山千五郎、茂山  
正義)  
能係。

## 8月29・30日 2日間 セントラルパーク「新能」

昨夏、名古屋・栄の「セントラ  
ルパーク・サマー・フェスティバ  
ル」で、初の「新能」が催され、  
三千人の観客が来会、夏のイベン  
トとして大きな話題をよんだが、  
主催のセントラルパークでは、こ  
とはは、八月二十九日(金)同三  
十日(土)の二日間わたって開  
催する予定である。詳細は追って  
発表されるが、名古屋の中心・栄  
の「新能」として期待されている。

名古屋市民会館自主企画・第百  
三十四回市民の劇場では、六月二  
十日、「日本の心シリーズ」とし  
て、能「安達原」(シテ、野村四  
郎)が上演される。  
番組は狂言「親綱」(野村万之  
介、佐藤友彦、野村又三郎)  
能「安達原」(シテ野村四郎、  
ワキ谷田宗二、飯富雅介、間・  
石田幸雄、笛・藤田六郎兵衛、小  
鼓・柳原富士忠、大鼓・河村総一  
郎、太鼓・鬼頭喜太郎、地謡・梅

### 61年6月・7月放送予定

- 〔6月〕 NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)  
22日(日) 親世流「女郎花」藤井徳三  
29日(日) 下懸り宝生流「満仲」森 茂好
- 〔7月〕 NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)  
6日(日) 親世流「大江山」小島芳雄  
13日(日) 親世流「玄象」木原康夫  
20日(日) 宝生流「班女」渡辺三郎  
27日(日) 金剛流「天鼓」金剛 巖
- (放送予定につき変更の際はご理解下さい)

品集」が邦楽小品となつていまし  
た。訂正してお詫言します。  
(野村公二)

雪中の三番三・鈴ノ嶺・大鼓跡太

一 同誌三月号、四年十二月の同  
行事のこと。雪の降る夜の八雲  
能Vらしい催し(神事)。NHK  
テレビで見聞する、権藤氏ほか。

## 親邦会大会

六月二十九日(日)午前九時半始  
熱田神宮能楽殿

竹生島 大西 和子  
花月北 山本はつ子  
船弁慶 足立 文江  
景清 中村 玲子  
俊寛 今井 幸子  
道成寺 平野 邦子  
求塚 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子

花月北 今井 幸子  
景清 中村 玲子  
俊寛 平野 邦子  
道成寺 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子

竹生島 大西 和子  
花月北 山本はつ子  
船弁慶 足立 文江  
景清 中村 玲子  
俊寛 今井 幸子  
道成寺 平野 邦子  
求塚 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子

竹生島 大西 和子  
花月北 山本はつ子  
船弁慶 足立 文江  
景清 中村 玲子  
俊寛 今井 幸子  
道成寺 平野 邦子  
求塚 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子

竹生島 大西 和子  
花月北 山本はつ子  
船弁慶 足立 文江  
景清 中村 玲子  
俊寛 今井 幸子  
道成寺 平野 邦子  
求塚 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子

竹生島 大西 和子  
花月北 山本はつ子  
船弁慶 足立 文江  
景清 中村 玲子  
俊寛 今井 幸子  
道成寺 平野 邦子  
求塚 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子

竹生島 大西 和子  
花月北 山本はつ子  
船弁慶 足立 文江  
景清 中村 玲子  
俊寛 今井 幸子  
道成寺 平野 邦子  
求塚 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子

竹生島 大西 和子  
花月北 山本はつ子  
船弁慶 足立 文江  
景清 中村 玲子  
俊寛 今井 幸子  
道成寺 平野 邦子  
求塚 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子

竹生島 大西 和子  
花月北 山本はつ子  
船弁慶 足立 文江  
景清 中村 玲子  
俊寛 今井 幸子  
道成寺 平野 邦子  
求塚 白石 和子  
俊寛 富田千枝子  
道成寺 富田千枝子



# 五月雅日記

## インカの百合

えと文 二井栄逸

ナナカマドの茂みの中に、夢のように浮かぶ黄色い花。それは月見草でなく、一輪に白と黄の二色を帯びたインカのユリ。黄土色と薄青い二本の花の間に、長柄。ヤマブキシヨウマの白い穂。大輪咲きのカノコユリ一輪。

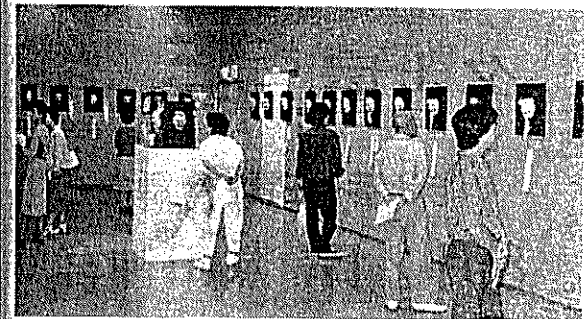
これは、今年の中目芸術展へ出品した花の造形のスタッフ達。能の二人静のような、夢幻と現実の相対のイメージを、数あるアパングヤルトの作品群の中に、敢えて自然物をモチーフにして表現してみたかった。

### 故中川清氏三回忌

#### 22日に追善能

観世流シテ方・故中川清氏の三回忌追善能が、たる六月二十二日、笹月会(中川雅章師主宰)の主催で、長浜市の県立長浜文芸会館で開催される。

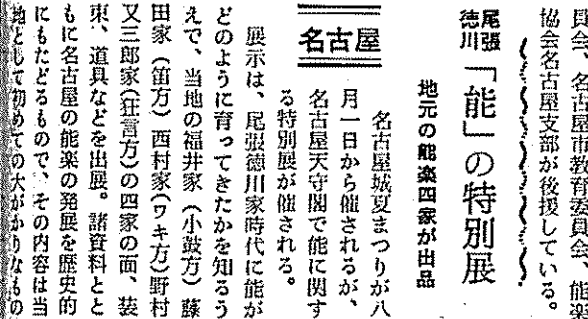
中川清氏は、昭和初期に笹月会を創設、五十年以上にわたり流儀の伸長につくし、人柄が敬愛されたが昭和五十九年二月に逝去、このたび笹月会会員をはじめゆかりの同好の人々により追善の会が催されることになった。



### 新作能面展

#### 日本能面巧芸会

日本能面巧芸会(会長林龍雲氏)主催の「新作能面展」が六月三日から八日まで名古屋市博物館で開催された。



### 名古屋「能」の特別展

地名の能楽四家が出品。名古屋城夏まつりが八月一日から催されるが、名古屋天守閣で能に関する特別展が催される。

展示は、尾張徳川家時代に能がどのように育ってきたかを知るうえで、当地の福井家(小鼓方)藤田家(笛方)西村家(ワキ方)野村又三郎家(登方)の四家の面、装束、道具などを展示。諸資料とともに名古屋の能楽の発展を歴史的にもたどるもので、その内容は当地として初めてのものがあつた。



四千メートルの高所から、ブラジルの熱帯地方にまで、群生地をもっているようだ。アンデスの嵐にもめげず、咲きでは散り、散りては咲き、時代をいどってきたインカのユリは、今や全世界に子孫を定住させ、それぞれの国に帰化している。折角、日本に旅立ってきて、日

本の花のなかま入りをしているこの花を、私達はいつまでも大事にしたいと思う。仕事につかれた夜半、机の上の花をじっと見ていると、エクアドルからチリに及ぶ大帝国を造りながら、この世から消え去ったインカ帝国の古い文化の香りがあったような気がしてくる。

### 日本の美を求めて

7、8月 市民大学講座。豊田市教育委員会は、七月六日から八月三十一日まで、毎週日曜日、日本美術を求めてのテーマで市民大学講座を開講する。会場は豊田市民会館。

講座は七月六日「日本人の美と心」(歴史家・奈良本辰巳氏)七月十三日「歴史とロマン」(文化財保護委員・日尾野清氏)七月二十日「茶の湯と茶道具」(徳川美術館・木下稔氏)など。能・狂言では、八月三日「能・狂言の世界」のテーマで能楽評論家・野村広二氏が講演する。受講料千五百円。問い合わせ、申し込みは豊田市役所社会教育課(電話〇五五五―三三三三)まで。

### 名古屋観世九臈会定式能

七月六日(日)午前十一時始  
熱田 神宮能楽殿  
五木田三郎 青木 武弘

素謡松 風  
駒瀬直也  
観世喜之

能放下僧  
西村 欽也  
河村総一郎  
藤田六郎兵衛

狂言空 腕  
井上松次郎  
藤田六郎兵衛

能百 萬  
飯富 雅介  
後藤孝一郎  
西部 恵司

吉田 妙  
大野 弘之

【有料】  
当日券四千円  
名古屋南区元塩町一―一七  
加藤保彦方  
電話〇五二一六二―一三六五九

### 観生会大会

七月十二日(土)午前十一時始  
熱田 神宮能楽殿

番外狂言天 鼓  
野村 四郎

素謡吉野天人  
花井 徳子  
小原比登美

三 輪  
長谷川幸子  
小野内喜春子

松 風  
梅田 弘子  
大西 繁雄

弱法師 辻 みち子  
武田 宗和

子香井 筒林 光子大江 将童  
福井啓次郎 藤田六郎兵衛

舞子胡 蝶 高沢 佑子  
河村総一郎 助川 龍夫

雲 林 院 加藤 友子  
河村総一郎 助川 龍夫

素謡砧  
上田 貴弘  
加藤美恵子 梅田 邦久  
地謡 井上 裕久

子香山 姥  
上田 拓司  
佐藤千代子 藤井 完治  
河村総一郎 助川 龍夫

舞子遊 行 柳 小嶋 克子  
河村総一郎 助川 龍夫

唐 船 横山くにえ  
河村総一郎 助川 龍夫

素謡藤 戸 東海林喜一郎 藤井 徳三  
小島 一英 地謡 藤井 完治

能英 井上 裕久  
長沢 博子  
西村 欽也  
河村総一郎 助川 龍夫

上 梓之出  
飯富 雅介  
福井啓次郎 藤田六郎兵衛

祝言 祝言  
後見 野村 邦久  
地謡 小島 一英  
上田 拓司 藤井 完治

舞子 高 砂 野村 四郎  
河村総一郎 助川 龍夫

〔御来場歓迎〕  
主催 千原 名古屋千原区日和町四ノ一〇  
小嶋方 電話(五二七五)一八八〇番  
野村 四郎  
千原 東京都杉並区永福四ノ三ノ二  
電話〇三(三三二)五二九九番

### 第28回朝日狂言会

七月十三日(日)午後一時三十分始  
熱田 神宮能楽殿

墨 塗 井上 松次郎  
大野 弘之

磁 石 大藏 彌太郎  
大藏 基嗣

連歌十徳 和泉 元秀  
井上 祐一

寝 音 曲 善竹 圭五郎  
善竹 十郎

茸 井上 禮之助  
佐藤 友彦

主 朝 日 新聞  
狂言 共同 社

後 名 古 屋 テレ ビ

会費 指定席 三〇〇〇円 普通席 二〇〇〇円  
取 各出演者名・朝日新聞企画部  
取 各出演者名・朝日新聞企画部  
取 各出演者名・朝日新聞企画部

観世会素謡会  
七月二十日(日)午後一時始  
熱田 神宮能楽殿

青陽会定式能(第30期)  
七月二十七日(日)午前十一時始  
熱田 神宮能楽殿

# 大槻能楽堂 自主公演能 隔月に昼公演も企画

大槻能楽堂では、既部のように「自主公演能」として能の魅力により多くの人々に観賞してもらおうと、五十九年四月から毎月第二水曜日の午後六時から能、狂言を一番ずつ上演、さらに昨年からの隔月に昼一時半からの公演を加え、要望にこたえている。

- 七月九日(水)能「半部」(泉嘉夫)狂言「蝸牛」(浅山忠三郎)
- 八月十三日(水)能「望月」(山中義滋)狂言「水掛舞」(善竹忠重)
- 九月十日(水)能「松風」見留(片山九郎右衛門)狂言「鬼瓦」(善竹幸四郎)
- 十月八日(水)能「小鍛冶」黒頭(生二泰知)狂言「文相撲」(浅山千之丞)
- 十一月十二日(水)能「邯鄲」(大槻文蔵)狂言「二人大名」(浅山千五郎)
- 十二月十日(水)能「鉢木」(野村四郎)狂言「鶴舞」(浅山正義)

### 出版紹介

#### 中西通氏著 「能面」

玉川大学出版部(町田市玉川学園六一一)では、ことしはじめ、中西通氏著、今駒清則氏写真による「能面」を刊行。能面の歴史と造形美をさぐる良著として好評を博している。

著者・中西通氏は、能楽資料館の館長であり、収集した大名家や能楽家旧蔵の能面を中心に、舞動主唱者の一人、のちカトリックにうつり、樞機卿となる。詩人でもあり、大学論、文学論は佳篇。カトリック哲学者吉瀬義彦氏(故人)の著書に「くわし」。久方振りにきく。魂の深淵をのぞかせる。人物の能の孤独、悲歎、救いを求める心境に通ずる。賛美歌一六三番。NHKもやるなど笑いがこみ上げる。

## 信玄袋

### 橋岡久馬氏道成寺舞納め、谷川徹三先生の本のこと

五月、英国皇太子ご夫妻来日の時、能をご覧になられるかどうか関心を持った。最後の夜、宮中を訪ねられ、△石橋の間Vで会見。歓談がかわされた由。実はあの部屋には前田青銅画伯の拙く△石橋Vの獅子の面(△出を待つV、赤頭とおぼえているが、喜多六平太翁がモデルのはず)があるときき、英国(王室)の紋章の獅子と日本の獅子の出合いがご訪日に花を添えたと思つた。

五月十一日、東京。橋岡久馬氏が道成寺の舞納め(五段ノ舞ノ舞ノ舞)を勧められた。前日祝電を呈送したが、実は数日前左手首骨折、当日はギブスをつけ劇痛を抑え、舞台の上のことの後日知る。同氏の芸術の至高さは感服の外なかつた。やがて豪華なボスタ1階着る。その数日前起請文挨拶(佳)を聴いて健在を喜んでいたのに。道成寺は十月十日放送(NHK)、期待したい。

谷川徹三先生の本のこと。わが恩師・谷川徹三先生(哲学者)は今年九十一歳を迎えられる。随分と以前、お目にかかって「これから何を研究されますか」「今華厳経を読んでいるが、これからは、文化とお茶とヒューマニズムの展望(注、集大成)です」

谷川先生は今一冊、「黄塵居清」と言う愛蔵品(美術品)に関する本を近々出された。黄塵居とは先生のお住居のこと。目次(内容見本)をみてすぐ著書の中の味わい深い文章を思ひ出す美術品が並ぶ。新しい解説いや高広の鑑賞文を付される由でその熱誠玩味はすばらしいであらう。能面は小面(古元休)はか二面。長く愛賞される坂本繁次郎画伯の「能面」ももちろん加えられている。これに

台座の形や色(色紙)の工芸的水準の高い名作百餘面を選びその姿をひろく世に問うもので、刊行以来愛好者の話題となっている。同書の特徴

各面を様々な角度から撮影し、その中から最も特徴ある表情を抽出。

室町初期から江戸時代中期に至る時代の所産である造形の特徴を追求。

表面の造形、面裏の鈎目や焼印漆書きの記録を細部にわたって収録。

各面は原寸・原色に忠実に、彫刻の特徴および、彩色の特色を工芸技術を中心に解説。

体裁B4判、オフセット多色刷二百八頁、序文・解説など七十六頁、布貼り厚表紙、ケース入、定価二万五千元。

なお熱田神宮能楽殿に実物見本が備えられている。

は私も小さな思い出を持つ。哲学者である先生は玩物喪志とけんぞんされるが、まさに一視万感・天地道通・万法歸一の境地である。座右宝編集・小学館発行、限定八八〇部(くわしは未見)。

女	花	生駒里翠	熊沢恵美子	近藤嘉幸江	高木美智子	本田美智子	水原元三	田中元三
葵	上	加藤三郎	本島三郎	水原元三	田中元三	水原元三	田中元三	田中元三
田	村	今沢美和	吉田妙	前野郁子	今村一和	安藤一和	勝野一和	勝野一和
夕	顔	今沢美和	吉田妙	前野郁子	今村一和	安藤一和	勝野一和	勝野一和
須	源	今沢美和	吉田妙	前野郁子	今村一和	安藤一和	勝野一和	勝野一和
俊	寛	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久
班	女	喜之	藤井徳三	久田徹二	久田徹二	久田徹二	久田徹二	久田徹二
加	北	祖父江修一	高橋一政	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久
東	北	祖父江修一	高橋一政	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久
車	北	祖父江修一	高橋一政	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久

清	生	田	敦	盛	本	田	勲	今	沢	美	和			
芭	蕉	久	田	徹	二	久	田	徹	二	久	田	徹	二	
大	江	山	中	川	雅	章	梅	田	邦	久	梅	田	邦	久
賀	茂	久	田	徹	二	久	田	徹	二	久	田	徹	二	
融	高	安	勝	久	福	井	啓	次	郎	森	本	重	一	
芭	蕉	久	田	徹	二	久	田	徹	二	久	田	徹	二	
大	江	山	中	川	雅	章	梅	田	邦	久	梅	田	邦	久
賀	茂	久	田	徹	二	久	田	徹	二	久	田	徹	二	
融	高	安	勝	久	福	井	啓	次	郎	森	本	重	一	

女	花	生駒里翠	熊沢恵美子	近藤嘉幸江	高木美智子	本田美智子	水原元三	田中元三
葵	上	加藤三郎	本島三郎	水原元三	田中元三	水原元三	田中元三	田中元三
田	村	今沢美和	吉田妙	前野郁子	今村一和	安藤一和	勝野一和	勝野一和
夕	顔	今沢美和	吉田妙	前野郁子	今村一和	安藤一和	勝野一和	勝野一和
須	源	今沢美和	吉田妙	前野郁子	今村一和	安藤一和	勝野一和	勝野一和
俊	寛	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久
班	女	喜之	藤井徳三	久田徹二	久田徹二	久田徹二	久田徹二	久田徹二
加	北	祖父江修一	高橋一政	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久
東	北	祖父江修一	高橋一政	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久
車	北	祖父江修一	高橋一政	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久	梅田邦久

清	生	田	敦	盛	本	田	勲	今	沢	美	和			
芭	蕉	久	田	徹	二	久	田	徹	二	久	田	徹	二	
大	江	山	中	川	雅	章	梅	田	邦	久	梅	田	邦	久
賀	茂	久	田	徹	二	久	田	徹	二	久	田	徹	二	
融	高	安	勝	久	福	井	啓	次	郎	森	本	重	一	
芭	蕉	久	田	徹	二	久	田	徹	二	久	田	徹	二	
大	江	山	中	川	雅	章	梅	田	邦	久	梅	田	邦	久
賀	茂	久	田	徹	二	久	田	徹	二	久	田	徹	二	
融	高	安	勝	久	福	井	啓	次	郎	森	本	重	一	

### 附祝言

主催名古屋観世会

全館自由席  
入場料 四、〇〇〇円  
会員券申込先 能楽殿及び出演楽師宅

### 附祝言

主催青陽会

当日券 三千元

舞臺子遊行 柳 小嶋 克子 河村総一郎 助川 龍夫  
青柳之舞 水野 貞子 河村総一郎 助川 龍夫  
七月二十日(日)午後一時始 熱田神宮能楽殿  
七月二十七日(日)午前十二時始 青陽会定式能(第33回)

### 第21回名古屋新能

八月二日(土)午後五時半開演  
熱田神宮神楽殿前・特設舞台  
(雨天順延)

能楽	能鶴	能吉野	御入式	火入式	狂言	半能	附祝言
池田 俊子 高橋 美和 高橋 隆一	杉江 元 高安 勝久 井上礼之助	吉田 俊彦 飯富 雅介 後藤孝一郎 森本 重一	熱田神宮権司 長谷晴男 名古屋市長 西尾武喜	熱田神宮権司 長谷晴男	須部 甫 今村 嘉男 中川 雅章	高安 勝久 杉江 元 河村総一郎 福井啓次郎 助川 竜夫	主催 能楽協会名古屋支部 後援 熱田神宮 田古 神屋 宮市

### 卯月の舞台から「久田観正会」

#### 「九臯会」と「やるまい会」

竹尾 邦太郎

「千手」シテ貴弘・ツレ拓司。先代照也譲りの美声で紅涙(?)を絞らせ、優い出会と別離の情緒をしっかりと見せた。貴弘のふっくらとした序ノ舞の味は捨て難い。大輪の花を咲かせて貰いたい。(1時間31分)

「地蔵舞」禁制を破り宿を貸す小心で好人物のアド礼之助が持味を出し、一方、シテ三郎は奇習縦横、如何にもはしこい。酒は飲まぬが飲ぶ分には異論あるまい。と強かかった挙句の肴「小鼓」が謡も舞台も浮きやかで旨かった。(14分)

「融・十三段之舞」ワキは「思立之出」で、ノ松で名宣り、「今合返」で、常座で着セリフ。角帽子・紺無地羽斗目・黒水衣の欵也は、行雲流水、飄々とした風情がよく合う。シテ三郎。面笑劇・青無地羽斗目・暗褐色水衣・白袖染分譲舞で、田子を荷って出た。田子の扱い慎重で、問答・名所教えも慎ましく端正で気品がある。汐汲みはするするとの横に出ると、深々と田子を入れ、中は、ハ跡も見えず、と二ノ松で右膝着き、返してゆくりと入った。後は黒風打鳥帽子・面中将・黒垂・松垣文直衣・紫指貫大開口で謡い出し、舞台に入ると、ハ白河の波の、と目付に向って扇を投げ、ハあら面白の、と拾い上げた。ハ受けたら受けたら遊舞の袖、と三ツ拍子踏み、早舞になった。袖を返すと赤地縫箔がこぼれて艶めかしく豪華を感ぜさせた。途中幕際まで抜けると三ノ松で小さく二度廻り、右袖巻くと、流しで出、ワキ正・正先に身を沈めて達達舞。流しで一ノ松へ抜けると舞上げ、ハあら面白の、と成って、シテと地掛合の裡に、ハ飛鳥は、と枕ノ扇し、ハ魚は月下の、と左袖軽く巻くと膝を着いて沈み、立って舞に入り、ワキが常座で合掌

してトメた。躍動感と気品に満ちた観正会心の舞台だった。(1時間38分・4月27日・久田観正会)

「花月」シテ保彦。黒折鳥帽子・紅白段亀甲厚板・青色大口に黄色の水衣という舞台がぱっと明るくなるような装束で、浮き浮きとした遊狂を見せる花月にびたりだった。

やや大ぶりに見える咽食の面は装束との兼ねもあって伏見の土人形のような素朴な味わいがあり、花を散らす驚きと、弓を構えた姿が武骨なのも微笑ましく、父子再会を果し、促されて父を慰めるカッコの可憐さも捨て難い。アイは真面目に過ぎ、ワキは父親としての年令不足か。(53分)

「杜若・恋ノ舞」シテ喜之。小面を掛けた。時代を経た紅白段唐織がしつとりと落ちて、下に縫箔を着けているのが感じられない程すっきりとした美女ぶりは、四辺の杜若の群生を統べるようであった。物着に紫地金葉平装長袖を着け、巻綴・老態・日蔭ノ糸・心葉を垂らした真ノ太刀を佩いたシテは、業平の雲と杜若の精がオーバラップして紫色の香気が立ち上る気配。序ノ舞の途中も、スミで扇持ち替え二ノ松へ抜けると、右袖被いて水鏡に己が姿を左から右

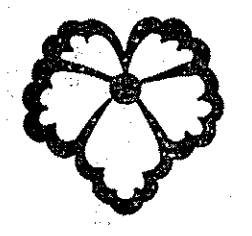
へ、更に右から左へとすみじみ見る辺り、ナルシズム(自己陶醉)の濃厚は役の上ばかりでなく舞うシテ喜之自身にもあると思わせた。舞上げてから、ハ昔男の名を留めて、とイロエのようなものがあり、地との掛合に、ハ餅の唐ころものと右手で左袖取って抱くように見詰める愛情もたならず、文字通りの「恋ノ舞」だった。(1時間14分・5月17日・九臯会)

「翁」又三郎嫡子信行が三番更を抜く。翁・千歳は親世宗家親子將來又三郎家を背負って立つ信行への願ってもない縁である。元正・清和親子のコンビは定評のあるところ、清雅高尚申分なかつた。さて三番更採ノ段。最初露を取るとき一寸もどかしかったが直ぐ立直り、力強い堂々の採ノ段、鳥跳びは一回目と三回目を高く跳んだ。終盤掛声はやや疲れたが若さで押し通した。鈴ノ段はリズムカルな麗妙さが求められるが、大過なく勤め上げた。この感激を忘れずに大成を期待したい。笛は珍らしく東京から一噌仙等。(1時間6分)

「佐渡狐」翁の後で脇狂言。シテ千之丞。青地白波船文様素袍が佐渡島を暗示して妙。アド正義。佐渡に狐は居る居ない、をめぐっての口角泡を飛ばす舌戦もさることながら、小アド忠三郎の旨さが光った。権柄すくな奏者の表の顔体面を気にしいしい贈物を受け取るときの裏の顔、人間の心の機微を穿って好演だった。(38分)

「那須与市語」高義抜き。体を入れ替える時、扇が舞台を打つが弾みをつけるようで感心しない。

「骨皮」シテ元秀。新発意の愚鈍ぶりを明るくからっと演じて趣味がなく、アド松次郎の奇い老翁は逆に興味たっぷり、この対照が面白かった。(23分・5月18日やるまい会)



**料理 軒**

あつた 菜 軒

本 店 熱田区神戸町三四 電話(052)868618  
神宮東門店 熱田区神宮一 電話(052)559809

御料理 軒

観世流謡曲本 ちくさ正文館

ちくさ駅前 電話01137

**能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!**

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

テレビ放送番組企画制作 西川企画  
テレビCM企画制作 ビデオプロダクション  
テレビ録音ビデオ撮影

名古屋営業所 名古屋市中区名駅2-20-3輪の内荘 小原方 TEL (052) 571-5816  
岐阜市北野町20-2 TEL (0582) 63-9869

観世流・金剛流 元宗 家本 発行 元

## 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291)2488-9  
振替東京 3-3552  
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 電話(231)1990  
振替 京都 1-113

割烹・小料理

# 城

●熱田神宮能楽殿喫茶部  
●住吉小路(中区栄3-10)  
電話 241-0248

面打教室 於名古屋・榮朝日神社  
毎週木曜日及び土曜日(それぞれ月4回)  
(教室の見学・能面お求めになりたい方お気軽にお越し下さい)

## 日本能面巧芸会

会長 林 龍 雲

事務局 名古屋市中区錦1丁目3-31 丸満ビル3F 昇栄化学内 電話(052)211-4451

社 43 (円四角)

お城に能が帰ってきた

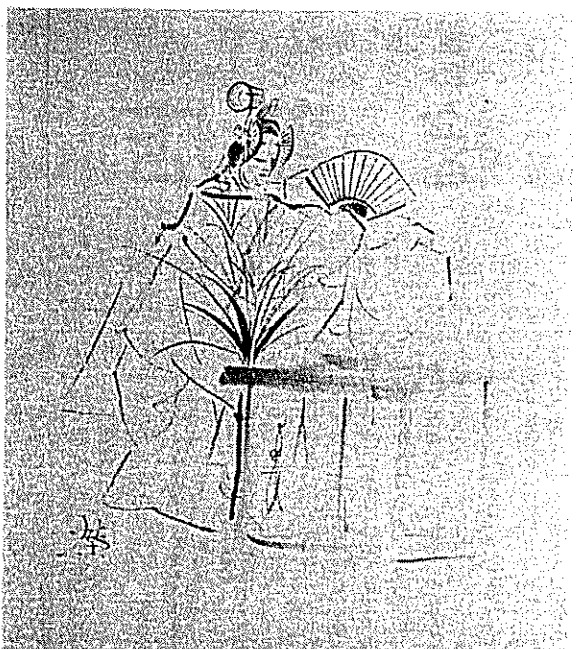
名古屋城 新能

大槻清韻会

壺 泉 嘉 会 夫







# 五月雅日記

## 夢幻能

えと文 二井栄逸

夢幻能は旅人や僧が、夢まぼろしのような故人の霊や、神、鬼、物の精などの姿に接し、その物語を聞き、舞等を見るところに立っての能のことである。

私は、夢幻能が好きなのでよく絵にかく。

あの世からこの世にやってきた女たちは、思う存分、踊り、舞い、そして静かに消えてゆく。絵にかくのは、例えば井筒では、物真似と幽玄の完全な融合である井戸の底に自らの姿を映して見込む型どころや、形見の直衣、身にふれて、等がよいが、私は、此頃ひっそりと影の如く薄れ、消えてゆく結末をかきたてたままにない。

夢幻能の女たちは、たしかに徒人(ただびと)ではない。スケールの大きな美や、人間の限界をはみ出してゆく感情は、現代の女たちよりはるかに美しい。

八月になると、各所に新能が催される。それも年々盛んになり、

観能 「安達原」を立ち出でて 行方さだめぬ筆の旅

井筒を見終わったとき、観客は「失楽園」にみえるような或る喪失感の只中にとり残される。

在原寺に立ち寄った僧の前にあらわれた美しい女の亡霊は、遠く昔、業平と愛の果を嘗んだことや結ばれるにいたったとき、「井筒」にかけしものがたけ、生ひにけらしな妹見ざる間に「比べこし振分髪も肩過ぎぬ。君ならずして誰かあぐべき」と互いに詠みあつた恋の想い出を語つたりする。そして、業平の直衣をまとった亡霊は「昔男に移り舞、雪を廻らす花の袖」と舞って、古井戸に自分の姿を映しては、「業平の面影、見ればなつかしや」と幸福の絶頂期に

あつた華やいた日々を僧に見せるのである。

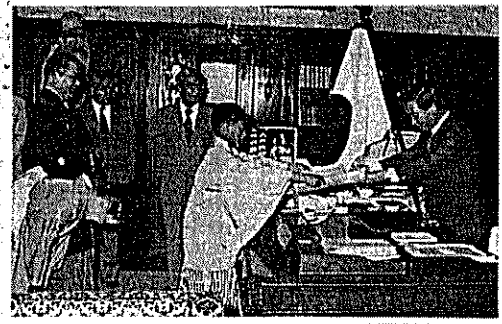
やがて、夜明けとともに女は消えていき、僧の眼の前には、ただただわびしい松風が吹きすさぶばかりの荒涼とした古井戸があるばかりとなる。

その結末の「夢は破れ明けにけり」となる場面は、荒れ果てた、まことに死のような世界である。一方、生き生きと幸福な日々をくりかえして見せた者が幽霊であるのはどうしたわけか。ひょっとして死者はこちらにいる僧ではないか。それを見守る私たちは、いつの間にか死の世界に置き去りにされたような寂寥感に包まれる。

### 和泉元弥君に文部大臣から感謝状

狂言和泉流和泉元秀宗家の長男元弥君は、四歳で初舞台をふみ、ことし六月まですでに二百有餘回の狂言の舞台を演じてきて、が、伝統芸能の伝承に力強い努力が認められ、六月十四日海部文部大臣から感謝状が授与された。

元弥君は昭和四十九年六月生れ、初舞台は五十五年大垣市文化会館で「観猿」。五十八年東京、名古屋で「三番更」上演、和泉流宗家の後継者として精進している。



61年7月・8月放送予定

〔7月〕	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
20日(日)	宝生流「班女」渡辺三郎
27日(日)	金剛「天鼓」金剛 巖
〔8月〕	NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
3日(日)	観喜世多世「芭蕉」梅若恭行
10日(日)	観喜世多世「流」喜多節世
17日(日)	観喜世多世「安達原」小賢 山階信弘
24日(日)	狂言「お茶の水」はか 大蔵流普竹忠一郎
31日(日)	宝生流「変更の節」金井章

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

六月十五日の名古屋宝生会三十周年記念能に、宝生英雄、英照の家元父子が出演しましたが、二十

下田雄三 大府市東区高麗橋五三	雄誠会中部地区連合会 名古屋和石 一宮竹花 岐阜原雄 下原雄 萩山雄 高文之屋 倭文之屋
--------------------	---

宝生英雄	宝生英照	名古屋巽会 辰巳孝	倉本雅 神戸市東灘区田中町一丁目13番26 本山アパルトメント401号 電話(078)441-5465番
------	------	--------------	---

金剛剛	金剛永謹	廣田後援会 廣田陸一 廣田幸稔	豊嶋能の会 豊嶋三千春
-----	------	-----------------------	----------------

水雲会 水藤元三	猶惠会 熊沢惠美子 名古屋市東区平和ケ丘3-76 日車マンション404	重陽会 菊池重郷 大山市大宇相生五九一六 電話(0568)44501番	緑名会 田中武 尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(0561)53304番	芳韻会 稲生芳雄 半田市入町三十一 電話(0569)4901番
-------------	--	--	--	--

正風会 衣斐正宜 千192 稲沢市高御堂1-12-18-1402 電話(0587)310109番	衣斐正宜後援会 千40 名古屋市中村区名駅三丁目二六 電話(052)5861120番	宝生流 嘉宝会 名古屋市昭和区川名本町二丁目五 電話(052)3311257番	吉田俊彦 千488 尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(0561)53304番	司宝会 名古屋市天白区島田二丁目三三〇 電話(052)737371番
---	--	--	---	--

金剛流 周星会・名古屋 周星会・岐阜 吉川周子 名古屋市千種区西崎三丁目一 電話(052)7611257番	金春信高	金春安明 千167 東京都杉並区南荻窪3-17-16 電話(03)33112571番	金春欣三 東京都杉並区成田東四丁目35-20 電話(03)33112571番	本田光洋 東京都中野区上高田二丁目二五ノ二 電話(03)38612641番
--	------	--	--	---

長田曉後援会	江崎正左衛門 電話(058)341075番	江崎金治郎
--------	--------------------------	-------

長田曉後援会	江崎正左衛門 電話(058)341075番	江崎金治郎
--------	--------------------------	-------

長田曉後援会	江崎正左衛門 電話(058)341075番	江崎金治郎
--------	--------------------------	-------





◎面「信支後」より(つづき)

さて、私もあの昭和三十年十月水道橋ではじめて同曲に接した。能の深い心Vを感じたと思っ...

◆水無月の舞台から◆

「観世会」「名古屋宝生会30周年記念能」 「第34回市民の劇場・能・安達原の世界」

竹尾 邦太郎

「半部」 常座で、「これは夕顔の花にて候、と自身の素性をも...

色をきき込めばよいのであるけれど、それをとらず、別の抱り廻を...

糸独りだけであらうか。しかし孤独の八条という気はしない。この...

人事に無頓着な上つ方を旨く見せて。さて悪戯のシテを余所の花見...

「観世会」 風邪の所為か鼻の辺りむずむずながらシテ万之介の熱...

「小抽替」 名古屋宝生会30周年を祝し、更なる飛躍を願うに...

「小抽替」 白頭」前(英雄)後(英雄)とシテを替え、間狂言を...

「安達原 白頭」シテ四郎。静かであり前である。乞われて見...

「観世会」シテ友彦。飲んで香くなる酒飲みを演じたが...

「観世会」シテ友彦。飲んで香くなる酒飲みを演じたが...

「観世会」シテ友彦。飲んで香くなる酒飲みを演じたが...



瀬尾乃武 東京都豊島区西池袋1-30-10 305

和泉元秀

森本重一 京都市上京区中立売通室町西入 室町スカイハイツ610号

谷口正喜

名古屋和泉会

幸圓次郎 東京都中野区中央四丁目一丁目 電話(三八一)九四一三番

寛鉦一

狂言共同社

幸友会 東京都板橋区宮本町五七七一 電話(五五八)八四二七番

飯島佐之六

茂山千五郎

福井啓次郎 東京都中野区丸山二丁目二四 電話(三三七)五六七二番

前川光隆

真千三郎

福井良久 東京都中野区丸山二丁目二四 電話(三三七)五六七二番

前川光長

野村又三郎

柳原富司 東京都中野区丸山二丁目二四 電話(三三七)五六七二番

鬼頭八郎

善竹忠一郎

亀井俊一 東京都中野区丸山二丁目二四 電話(三三七)五六七二番

大鼓方鬼頭英二

茂山忠三郎

川竜夫 熱田神宮長谷明神権宮司による次 入れ式が行われ、能楽協会名古屋 支部内藤泰二支部長、西村欽也副 支部長がかりに点火、名古屋市 第二回 衣斐正宜後援会能

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 0-3 6 3 9 3
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一 部 70円

謡曲名所めぐり旅行

「安宅」「花鏡」などゆかりの北陸路の謡曲名所を探索します

11月24日(月・振替)に実施
会費 9,500円 (詳細9月号)

能 楽 の 友

セントラル 薪 能

能「井筒」「石橋」「天鼓」「土蜘蛛」

8月29・30日 2日間



新 能

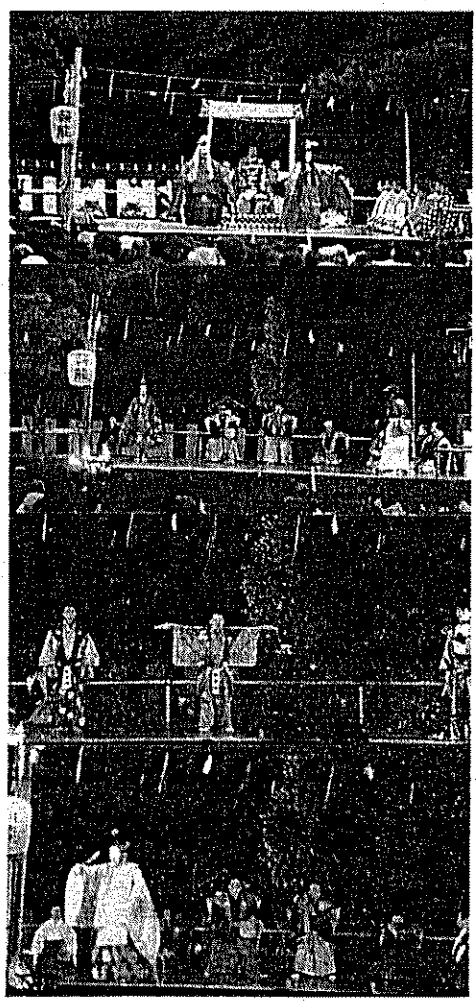
名古屋の中心、栄で行われるセントラルパーク新能は、昨夏三千人をこえる観客でうめつきました。

名古屋の中心、栄で行われるセントラルパーク新能は、昨夏三千人をこえる観客でうめつきました。

名古屋の中心、栄で行われるセントラルパーク新能は、昨夏三千人をこえる観客でうめつきました。

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)
[8月] 26日(火) 能と狂言に親しむ会「能楽講座」(有料)
[9月] 7日(日) 金 春 会 能 (有料) (番組②面)
[10月] 4日(土) 会 会 大 会 (来場歓迎)
[11月] 1日(土) 清 風 会 能 (来場歓迎)
[12月] 7日(日) 歳 末 助 け 合 協 賛 能 (有料)

大きな話題をよんだが、ことし同社八周年記念として八月二十九日(金)三十日(土)の二日間にわたり、セントラルパーク・セントラル広場で催される。
演目は、第一夜(八月二十九日)半能「井筒」(シテ梅田邦久、ワキ飯富雅介、笛鹿取希世、小鼓柳原富司忠、大鼓河村総一郎、地謡橋本雅夫ほか)
狂言「雷」(井上礼之助、井上松次郎)
半能「石橋」大獅子(白:橋本雅夫、赤:武田邦久、青:青木道喜、河村和重、ワキ高安勝久、笛藤田六郎兵衛、小鼓大倉源次郎、大鼓大倉正之助、太鼓上田悟、地謡梅田邦久ほか)
第二夜(八月三十日)半能「天鼓」弄鼓(シテ梅田邦久、ワキ中村弥三郎、笛藤田六郎兵衛、小鼓福井啓次郎、大鼓河村



熱田神宮神苑で盛会

第21回名古屋薪能

第二十一回名古屋薪能は、八月二日、熱田神宮神苑の特設舞台で催され、二千人近い観客が会場をうめ、好天に恵まれて盛会であった。
演能は、金剛流仕舞「富士太鼓」にはじまり、金春流「経政」喜多流「玉之段」観世流「熊坂」の仕舞。ついで観世流能「鶴亀」(シテ高橋暎一)の荘重な演能ののち

熱田神宮神苑で盛会
熱田神宮神苑で盛況のうちに、八月二日、熱田神宮神苑の特設舞台で催され、二千人近い観客が会場をうめ、好天に恵まれて盛会であった。
演能は、金剛流仕舞「富士太鼓」にはじまり、金春流「経政」喜多流「玉之段」観世流「熊坂」の仕舞。ついで観世流能「鶴亀」(シテ高橋暎一)の荘重な演能ののち

衣斐正宜後援会能

八月三十日(土)午後一時三十分始
熱田神宮能楽殿
(二時三十分)
ごあいさつ
後援会代表世話人 神津善行
能楽師方十一代家元 藤田六郎兵衛

人間 茂山千作氏 逝く

大蔵流狂言方・人間国宝の茂山千作氏は七月十九日午後六時六分老衰のため京都市上京区中筋通石薬師上ル大猪熊町三四六の自宅に死去された。八十九歳。
告別式は、二十五日午前十一時から京都市左京区東大路二条西入ル一筋目下ルの大蓮寺で行われた。喪主は長男千五郎氏と二男千之丞氏。葬儀委員長は大蔵流家元・大蔵弥太郎氏。
氏は明治二十九年八月三十日二代目千作の長男として京都市に生まれる。同三十四年六歳で初舞台。昭和二十一年、十一歳千五郎を襲名。四十二年三世千作を名乗った。

対談
邦楽は日本人の心の歌
邦楽三味線演奏家 杉屋弥十介
作曲家 神津善行

能 桜
仕舞 俊成 忠度キリ 内田 芳子
衣斐 正宜
川 福山 和夫 飯島佐之六 森本 重一
後見 辰巳 孝 地謡 小藤 耕司 喜一 東川 光夫
宝生 英照 吉田 俊彦 水戸 喜太郎 大坪 喜太郎
狂言 鬼 瓦 井上松次郎 井上礼之助
仕舞 花 月キリ 倉本 雅
仕舞 善 知 鳥 辰巳 孝
一騎 勳 進 帳 飯島佐之六
能 絃
上 中村 弥三郎 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎
間 佐藤 友彦 住駒 幸英 藤田 六郎兵衛
後見 宝生 英照 地謡 小藤 耕司 喜一 東川 光夫
内藤 泰二 鬼頭 喜太郎 水戸 喜太郎 大坪 喜太郎

附 祝 言
主催 衣斐正宜後援会
事務所 名古屋市中村区名駅3-26-126
電話(052)586-1110 平松昌彦

〔入場料〕一般四千元、学生二千元
〔後援会入会申し込み〕入会御希望の方は後援会事務局宛書
又は電話にてお申し込み下さい。年会費五千元。

後シテは唐冠・小ベシ見・赤頭・赤黒段原板は足沙門亀甲文様・赤地半切の装束で、それだけに(欽也)は、不人情というより他
るから来るものの様だった。シテの真摯な顔にも押されぬ、ワキ折角の英照の熱演にも集中出来なかつた。楽屋の空気が悶々たるべ
感あり、ワキツレ(勝久)はワキとの連呼に苦しんだ。(68分。6月20日・第14回市民の劇場・市民会館ホール)

保 雄
助 川 竜 夫

〔お断り〕暑中広告の掲載は紙面の都合にて勝手ながら七月号、八月号に分けて掲載させて頂きました。願不問と併せ何卒ご理解りますようお願い申し上げます。



# 七月雅日記

## 白露をこえて

えと文 二井栄逸

もみぢ葉散り飛ぶ御前(みさぎ)をばらけ、と、照日の前がめでたく運幸と共に、玉穂の宮への行列に加わること



過ぎし日の味真野での懐旧の激情を絵の奥に秘めこみたかったので紅葉の葉を薄すみといふし銀で散らし、ほんのりとした紅をさして見ますと、幻想的な調べがかすかにつたわってくるような気がしました。そんなことで一足早く晩秋のころをかくことになってしまったのです。そこで今度は六浦をかく気になりました。六浦と言えは、今、六浦の能を稽古している門生がいますが、その門生はこの秋行われる伊勢神宮の神楽祭に奉納される伊勢の和楽会に出演することになってい

### 名古屋金春流同門会

仕舞	連吟	仕舞	仕舞	連吟	仕舞	仕舞	連吟	仕舞
野更巴	三井	並之	紅葉	胸半	萬田	小袖	羽衣	高田
守堅切	九寺	林治九郎	丸狩	段部	岸幸夫	村切	我村	砂村
加藤正朝	原松枝	佐久間祥夫	近藤修彦	渡部道三	武馬正和	安井明	福本昌浩	橋本由美子
加藤正朝	原松枝	佐久間祥夫	近藤修彦	渡部道三	武馬正和	安井明	福本昌浩	橋本由美子

### 名古屋金春会能

八番	仕舞	通小町	千方	能善
島	法	鳥	鳥	知
前田茂穂	瑞弘	林鉄郎	尚久	西村欽也
高瀬雅弘	加藤正朝	吉田正朝	近藤修彦	後藤孝一郎

#### 暑中御伺い申し上げます

### 熱田神宮能楽殿運営委員会

委員長 熱田神宮権宮司 長谷晴男

座員は千二百円、学生(中)田六郎兵衛方(名古屋西區)高・大)千二百円、(幅下二)〇一九、電話〇五

問い合わせ、申し込みは藤二(五七二)五七六三番

---

#### 61年8月・9月放送予定

〔8月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

17日(日) 観世流「安達原」「小督」山階信弘

24日(日) 狂言「お茶の水」ほか 大藏流善竹忠一郎

31日(日) 宝生流「楊貴妃」金井章

〔9月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

7日(日) 観世流「松虫」坂井音重

14日(日) 金春流「三輪」金春信高

21日(日) 宝生流「紅葉狩」三川泉

28日(日) 観世流「江口」片山九郎右衛門

〔テレビ(祝日能)〕

NHK教育テレビ(午前9時~10時30分)

9月15日 松本城・新能「葵上」(宝生流)宝生英照

9月23日 茂山千作さんをしのんで「福の神」ほか

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

### 名古屋観世九臈会定期能

九月二十日(土)午後一時始

熱田神宮能楽殿

仕舞	連吟	仕舞	仕舞	連吟	仕舞	仕舞	連吟	仕舞
山井	花	経	花	経	山井	花	経	山井
伊藤雄二	筒	政切	筒	政切	伊藤雄二	筒	政切	伊藤雄二
金春安明	大野弘之	吉田定男	金春安明	大野弘之	吉田定男	金春安明	大野弘之	吉田定男

邦謡会	梅田邦久	須部美一	清沢和政	今沢美一	本藤勝朗	安藤勝朗	名古屋市昭和区台町二丁目十六番五	電話(八四二)四六三番
初陽会	武田宗和	河村鉦二	河村総一郎	河村鉦二	河村総一郎	河村鉦二	名古屋市昭和区前山町一丁目二三(二)466	電話(七六二)四八八二
大垣浦声会	大垣市竹島町善念寺	住所 京都市左京区下鴨芝末町五八	浦田保利	松音会	泉泰孝	東京都杉並区宮前四一九一四	電話(三三三)八二八〇番	
久田観正会	久田徹二	久田舜一郎	久田舜一郎	久田舜一郎	久田舜一郎	大倉流小枝	松月会	前野郁子
松音会	松音会	松音会	松音会	松音会	松音会	松音会	松音会	松音会

中日文化センター 開講20周年記念 芸能フェスティバル

狂言 加茂 武田 宗和 片山九郎右衛門 地謡 安藤 勝朗 邦 邦久

中日文化センター 謡曲・仕舞教室 名古屋(栄) 岐阜・四日市

中日文化センター 朝日カルチャーセンター 雛子教室











月曜日記

重陽のうたげ

えと文 二井栄逸

野分(のわき)がすむと、すっかり秋の気配になる。

昔の人は、台風のことを野の草をわけて吹く意から、野わけ、とも野わきともいった。

八月下旬から九月にかけて、熱帯地方で発生する低気圧は秋に日本へ襲来する。

気象衛星は台風や、ハリケーンの様子をつぎつぎと送ってくる。

農作物や家屋の風害対策や、河川の近い所では水害対策に人々は余念が無い。

今年も去年より多く各所で新能が催され、きびしい残暑の中を、あちこちした八月であったが、台風にあうことはなかった。

新秋九月家の前の四五百歳でしきりに山ばとが鳴く。

ながら、すがすがしい空をながめたりした。秋になると、しだいに大陸の方から乾燥した空気が流れこんで来るようになり、すがすがしい青空が見られるようになる。

この五節句の風習は、もともと中国にはじまったものであるが、日本では朝廷の行事になった。



観世宗家「清経」 浦田保利後援会の集い 浦田保利後援会は、秋の果実が魚岡の大本教能楽堂(萬善殿能舞台)で十一月一日(土)催され、観世元正宗家が来演、「清経」替ノ型が上演される。

橋岡久馬師の「道成寺」放映 10月10日 NHK教育TV

舞台の上と下 (竹尾邦太郎氏の能評に答えて)

当然走りかみになる。あの位置から舞の中まで実に十間にも及ぶ奔走に、右下前を垂らしたままに無事走り了せるとは考えられない。

名古屋卓楽会秋季大会 十月五日(日)午前十時始

重陽会十五周年記念大会 十月十日(祝)午前九時三十分始

御来場歓迎 主権名古屋卓楽会

先代藤田六郎兵衛追善能 十月十九日(日)午前十時始

# 舞台の上と下

寄稿 (竹尾邦太郎氏の能評に答えて) 辰巳孝

「能楽の友」第三三五号誌を拜見、氏にはいつも克明に観能され、評することの留意を致して見ます。私共の常識では理解出来ぬ批評なので少しと説明を致します。

能評とは観る人の主観を文字に托するものですから、その文字によつては、更に別の一つの舞台が鮮やかに読者の頭に画かれてしまふことがあります。能楽師が技業末節の技法にこだわりすぎたり、又は楽屋おちを弄したりして能本来の姿を見失ったりする時にそれを警告したり、表現法が不適当であった時、それを指摘したりすることにこそ大に能評の意義や効果も発露されるのでしようし、能を演じない立場ゆえ却て正鵠を射ることもあるのではしよう。

能を見る人の感受性がそれぞれ異なる以上、その表現も多岐に渉ることは当然であり、貴方の感じられたり、又ひんしゅくを覚えたたりされたことは、観客の一つの意見として素朴に承りましたが「専門的にすぎる」とはどうにも思えないあの一件を、舞台上の者達が経験に基いて瞬間的に到達した一つの直感として処理したものが、或は「見物のもの」であるべき舞台を私物視してオッチョコチョイ

「能楽の友」第三三五号誌を拜見、氏にはいつも克明に観能され、評することの留意を致して見ます。私共の常識では理解出来ぬ批評なので少しと説明を致します。

能評とは観る人の主観を文字に托するものですから、その文字によつては、更に別の一つの舞台が鮮やかに読者の頭に画かれてしまふことがあります。能楽師が技業末節の技法にこだわりすぎたり、又は楽屋おちを弄したりして能本来の姿を見失ったりする時にそれを警告したり、表現法が不適当であった時、それを指摘したりすることにこそ大に能評の意義や効果も発露されるのでしようし、能を演じない立場ゆえ却て正鵠を射ることもあるのではしよう。

能を見る人の感受性がそれぞれ異なる以上、その表現も多岐に渉ることは当然であり、貴方の感じられたり、又ひんしゅくを覚えたたりされたことは、観客の一つの意見として素朴に承りましたが「専門的にすぎる」とはどうにも思えないあの一件を、舞台上の者達が経験に基いて瞬間的に到達した一つの直感として処理したものが、或は「見物のもの」であるべき舞台を私物視してオッチョコチョイ

「能楽の友」第三三五号誌を拜見、氏にはいつも克明に観能され、評することの留意を致して見ます。私共の常識では理解出来ぬ批評なので少しと説明を致します。

能評とは観る人の主観を文字に托するものですから、その文字によつては、更に別の一つの舞台が鮮やかに読者の頭に画かれてしまふことがあります。能楽師が技業末節の技法にこだわりすぎたり、又は楽屋おちを弄したりして能本来の姿を見失ったりする時にそれを警告したり、表現法が不適当であった時、それを指摘したりすることにこそ大に能評の意義や効果も発露されるのでしようし、能を演じない立場ゆえ却て正鵠を射ることもあるのではしよう。

能を見る人の感受性がそれぞれ異なる以上、その表現も多岐に渉ることは当然であり、貴方の感じられたり、又ひんしゅくを覚えたたりされたことは、観客の一つの意見として素朴に承りましたが「専門的にすぎる」とはどうにも思えないあの一件を、舞台上の者達が経験に基いて瞬間的に到達した一つの直感として処理したものが、或は「見物のもの」であるべき舞台を私物視してオッチョコチョイ

「能楽の友」第三三五号誌を拜見、氏にはいつも克明に観能され、評することの留意を致して見ます。私共の常識では理解出来ぬ批評なので少しと説明を致します。

能評とは観る人の主観を文字に托するものですから、その文字によつては、更に別の一つの舞台が鮮やかに読者の頭に画かれてしまふことがあります。能楽師が技業末節の技法にこだわりすぎたり、又は楽屋おちを弄したりして能本来の姿を見失ったりする時にそれを警告したり、表現法が不適当であった時、それを指摘したりすることにこそ大に能評の意義や効果も発露されるのでしようし、能を演じない立場ゆえ却て正鵠を射ることもあるのではしよう。

能を見る人の感受性がそれぞれ異なる以上、その表現も多岐に渉ることは当然であり、貴方の感じられたり、又ひんしゅくを覚えたたりされたことは、観客の一つの意見として素朴に承りましたが「専門的にすぎる」とはどうにも思えないあの一件を、舞台上の者達が経験に基いて瞬間的に到達した一つの直感として処理したものが、或は「見物のもの」であるべき舞台を私物視してオッチョコチョイ

「能楽の友」第三三五号誌を拜見、氏にはいつも克明に観能され、評することの留意を致して見ます。私共の常識では理解出来ぬ批評なので少しと説明を致します。

能評とは観る人の主観を文字に托するものですから、その文字によつては、更に別の一つの舞台が鮮やかに読者の頭に画かれてしまふことがあります。能楽師が技業末節の技法にこだわりすぎたり、又は楽屋おちを弄したりして能本来の姿を見失ったりする時にそれを警告したり、表現法が不適当であった時、それを指摘したりすることにこそ大に能評の意義や効果も発露されるのでしようし、能を演じない立場ゆえ却て正鵠を射ることもあるのではしよう。

能を見る人の感受性がそれぞれ異なる以上、その表現も多岐に渉ることは当然であり、貴方の感じられたり、又ひんしゅくを覚えたたりされたことは、観客の一つの意見として素朴に承りましたが「専門的にすぎる」とはどうにも思えないあの一件を、舞台上の者達が経験に基いて瞬間的に到達した一つの直感として処理したものが、或は「見物のもの」であるべき舞台を私物視してオッチョコチョイ

## 名古屋観衛会秋季大会

十月十日(祭)午前十時始

- 名古屋・栄五・能楽舞台
- 独吟 阿 濱 原田 一平 実 盛 中川 芳子
- 高野物狂 田代 博
- 花 籠 山中 節子
- 清 経 岡村いつ子
- 西王母 河村 崇重
- 素神 歌 吉田 琴子 川瀬とよ子
- 伊藤 秀子
- 駒形 加津子
- 川口志満子
- 山中 節子

- 〔御来聴歓迎〕
- 当 麻 村瀬 つね
- 独吟 安 宇ケ 川瀬 保
- 素神 草子洗小町 松浦 信夫
- 弱法師 杉野 伸江
- 道成寺 足立奈々子
- 素神 砦 上野野ひな子
- 仕舞 鶴 貴妃 青柳イツエ
- 素神 鷗小町 川久保彰礼
- 藤 戸 伊藤健一郎
- 番外仕舞 祝賀金 島 山本 真賀
- 礼 山本 勝一
- 主催 名古屋観衛会
- 指導 山本 勝一

「能楽の友」第三三五号誌を拜見、氏にはいつも克明に観能され、評することの留意を致して見ます。私共の常識では理解出来ぬ批評なので少しと説明を致します。

能評とは観る人の主観を文字に托するものですから、その文字によつては、更に別の一つの舞台が鮮やかに読者の頭に画かれてしまふことがあります。能楽師が技業末節の技法にこだわりすぎたり、又は楽屋おちを弄したりして能本来の姿を見失ったりする時にそれを警告したり、表現法が不適当であった時、それを指摘したりすることにこそ大に能評の意義や効果も発露されるのでしようし、能を演じない立場ゆえ却て正鵠を射ることもあるのではしよう。

能を見る人の感受性がそれぞれ異なる以上、その表現も多岐に渉ることは当然であり、貴方の感じられたり、又ひんしゅくを覚えたたりされたことは、観客の一つの意見として素朴に承りましたが「専門的にすぎる」とはどうにも思えないあの一件を、舞台上の者達が経験に基いて瞬間的に到達した一つの直感として処理したものが、或は「見物のもの」であるべき舞台を私物視してオッチョコチョイ

## 青陽会定式能

十月十一日(土) 十二時半始

- 能 組
- 熱田 神宮能楽殿
- 仕舞 放下 備 清沢 一政
- 松 風 祖父江修一
- 山 虫キリ 高橋 暎一
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 飯富 雅介 鬼頭 英二
- 井上礼之助 鹿取 希世
- 後見 生駒 里翠 高木美智子
- 梅田 邦久 地謡 玉木 孝男
- 田キリ 生駒 里翠 高橋 暎一
- 前野 郁子 地謡 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 葛
- 城 飯富 雅介
- 飯富 雅介 河村総一郎
- 西村 欽也 福井啓次郎
- 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 巴
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 飯富 雅介 鬼頭 英二
- 井上礼之助 鹿取 希世
- 後見 生駒 里翠 高木美智子
- 梅田 邦久 地謡 玉木 孝男
- 田キリ 生駒 里翠 高橋 暎一
- 前野 郁子 地謡 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 熊
- 坂 杉江 元 河村真之介
- 柳原富司 森本 重一
- 本田 勲
- 後見 中川 雅章 地謡 近藤 幸江
- 梅田 邦久 地謡 加賀 敏彦
- 小島 一英 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 猿
- 狂言 薩摩守 井上松次郎
- 佐藤 友彦 井上松次郎
- 中川 雅章 今村 修一
- 梅田 邦久 地謡 加賀 敏彦
- 小島 一英 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 蝶
- 丸 西村 欽也
- 柳原富司 森本 重一
- 井上礼之助
- 後見 上田 拓司 地謡 松山 幸親
- 観世鏡之丞 地謡 清沢 一政
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 安
- 宅 宝生 閑 安福 建雄
- 藤田 六郎兵衛
- 後見 山本 勝一 地謡 高橋 暎一
- 中村 和男 梅若 修一
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 兼
- 道明寺 奥 善助
- 梅若 修一
- 山本 勝一
- 後見 山本 勝一 地謡 高橋 暎一
- 中村 和男 梅若 修一
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 江
- 阿 口キリ 泉 嘉夫
- 山本 勝一
- 後見 山本 勝一 地謡 高橋 暎一
- 中村 和男 梅若 修一
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 海
- 兼 道明寺 奥 善助
- 梅若 修一
- 山本 勝一
- 後見 山本 勝一 地謡 高橋 暎一
- 中村 和男 梅若 修一
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 乱
- 片山 清司 地謡 安藤 勝朗
- 加賀 敏彦 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 守
- 井上松次郎
- 佐藤 友彦 井上松次郎
- 中川 雅章 今村 修一
- 梅田 邦久 地謡 加賀 敏彦
- 小島 一英 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 丸
- 丸 西村 欽也
- 柳原富司 森本 重一
- 井上礼之助
- 後見 山本 勝一 地謡 高橋 暎一
- 中村 和男 梅若 修一
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 守
- 井上松次郎
- 佐藤 友彦 井上松次郎
- 中川 雅章 今村 修一
- 梅田 邦久 地謡 加賀 敏彦
- 小島 一英 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 丸
- 丸 西村 欽也
- 柳原富司 森本 重一
- 井上礼之助
- 後見 山本 勝一 地謡 高橋 暎一
- 中村 和男 梅若 修一
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 守
- 井上松次郎
- 佐藤 友彦 井上松次郎
- 中川 雅章 今村 修一
- 梅田 邦久 地謡 加賀 敏彦
- 小島 一英 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

- 能 丸
- 丸 西村 欽也
- 柳原富司 森本 重一
- 井上礼之助
- 後見 山本 勝一 地謡 高橋 暎一
- 中村 和男 梅若 修一
- 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦
- 近藤 幸江 地謡 久田 敏彦
- 武田 邦弘 飯富 雅介 河村総一郎
- 飯富 雅介 河村総一郎 池田 恵司
- 西村 欽也 福井啓次郎 池田 恵司
- 井上松次郎

〔御来聴歓迎〕

TEL: 052-236591

名古屋南区元堤町一丁目一七

(加藤保彦方)

先代藤田六郎兵衛追善能

十月十九日(日) 午前十時始

熱田 神宮能楽殿

独吟 胡蝶 内藤 泰二

一管 九様乱曲 森田 光春

舞臺子海 土片山九郎右衛門 河村総一郎 助川 竜夫

福井啓次郎 鹿取 希世

地謡 須部 市 龍キリ 加賀 敏彦

味方 邦玄

〔金員券〕A(正面指定席)一万円、B(庶正指定席)八千円

二階(自由席)五千円

〇問い合わせ、申込みは藤田六郎兵衛方(電052-236591)

六三二) 会員券は出演各楽師宅ほか松坂屋 三越プレイガイドで取扱。



### 葉月の舞台から

## 新能のことも(付・各地の新能)

竹尾 邦太郎

新能と言えは南都興福寺の新能だけを指す。戦後これを模して、昭和21年の京都新能(平安神宮)を嚆矢に、32年大阪新能(生国魂神社)、34年鎌倉新能(大塔宮鎌倉宮)、41年名古屋新能(若宮八幡社)・2年後熱田神宮)・宇治新能(平等院後宇治神社)・44年東京新能(日枝神社)・神戸新能(長田神社)と次々に発足し、以後は雨後の竹筍のように各地に出来て、今や空前絶後の新能の盛り上がりである。新能として改修される新能が興福寺から移されて「新能保存会」の名のもと、奈良の観光行政の一環として五月(元来三月、お水取後二日間)に催されるを得なくなった事情と同じように、各地のそれも神事と言うより主催者の文化活動PR活動の色彩が濃く、演ずる能楽師も、観客層の底辺の拡大及び啓蒙の恰好の場として、能の出前と言う言葉は悪いが、祭のイベントに、町(村)おこしの手段として一役買ひ、需要は増えるばかり、特に夏期に集中するため歳時記の季を春から夏に変えてしまう虞もなきである。一方その供給はどうなのか。地

方では地謡の前列に素人が並び、囃子方にも間々混入することがあるという。素人が地元舞台に唄れがましく出演するのを咎め立てする野暮ではないが、有料の会となればおこがましいと言わざるを得ないであろう。たとえ一過性(?)の新能という場であるとしても、規範の正しい能を提供すべきである(仮設舞台の宿命で、囃子・囃子の音楽や照明の問題など完璧を期することは無理としても)。演じる側と見る側の双方が、夕涼みがてらの夏の風物詩と安易に新能を考へておれば、先行きは不安である。「乱れて盛んになるよりは、むしろ固く守って減らして」と大蔵太郎虎年は遺訓に言うが心すべきであろう。ところでそれ程遠くない過去、能楽界では酷暑の夏前に装束納めの能を開き、以後は夏稽古に専念。偶々能がある時は、装束を着けずに紋着だけで所謂能楽を舞ったものである。冷房が完備したとは言え、歳時記でも「袴能」の影が薄いのには残念である。また素人弟子を対象に、「歌仙会」と称する練成会があったが、それもこ

### 二井栄逸師画抄集

## 87 能画カレンダー

好評を頂いております能画カレンダー1987年版。B4(タテ51.5cm×ヨコ38.0cm)表紙とも7枚の美麗カレンダーです。能画は「羽衣」「巴」「八島」「阿彌」「求塚」「三輪」「采女」

- ◎ 予約特価 1部 1100円、郵送の場合送料とも1部 1450円(2部以上の場合、部数に拘らず送料は一括500円)
- ◎ 予約申込み期限 10月15日(それ以後は1部 1800円、ただし部数によりお応えできない場合がありますのでご理解下さい)
- ◎ お申込み方法 ハガキで部数明記のうえ当社へお申込み下さい。代金は振替、切手、現金書留いずれでも結構です。

申し込み先 **能楽の友社**  
〒464 名古屋市千種区千種2-18-18 電話(052)731-7984  
振替口座 名古屋 0-36393

### 若州世阿弥記念碑 建立計画

能楽関係、福井県、地元有志で

社 18 43 93 円円円

れも新能に取って代られたとすれば淋しいことではある。閉話休題(それはさておき)、八月二日は第21回名古屋新能。老舗だけに舞台も安定。「鶴亀」シテ歌一。楽の途中まで髪帯が両肩に掛って何やらたすき掛けが頑張っている按配(35分)。「吉野節」シテ後進。手堅く誠実な舞振り(38分)。「棒縛」シテ又三郎(39分)。「橋弁慶」は前後を通じ、シテ光洋のまぎまぎとした動きが能の持つ爽快感を印象づけ、子方鬼頭尚久君の健気さが喝采を博した。(38分)。

下つて十六日は「岐阜護国神社奉納新能」。三灯のライト以外全無で舞、暮れると必要最小限の明りに低い舞台が黄色く浮び上り幽玄境を思わせる。薄暮の「経正」はシテ歌。クセの辺で神社拝殿の楽太鼓が鳴って囃子の邪魔をしたり、カケリ途中、人が脚立に乗って提灯の火を入れ出したり佳境の舞台が落着かず不運(35分)。

東洋史はほかの二・三冊と買い上げてもらった。たしか碩学羽田亨氏(京大教授、後総長)監修の本で、「夏・殷・周・春秋戦国」以下現代(当時)までの中国の国名一覧が書き留めてあった。第一時間目に先生が開口一番これを書かせ、暗記したものだった。また付録の十枚前後の中国を主とする大陸の領土変遷の色刷りの地図と別れるのが惜しかった。住所氏名を書いたが、もの売買で名前を始めて書いた。

### 信玄袋

#### ある古書店の話と「千野の摘草」復刊のこと

名古屋市栄(栄町)の松本古書店が七月末店を閉じた。古本屋と言うなつかしい呼称を持つ大きな書店、そろそろ八十年に手が届くと書うしにせ。栄の文化地点の一つがなくなる。(中日八・十四、夕刊掲載。桐竹助十郎氏人文楽・人形遣いVの計報も参照)。

広小路本町から栄町角まで武平町まで私の小さいときから今日までの七十年の変わり方は筆舌に尽しがたい。

昭和のはじめ、中学生の頃は、新刊書は正文館・静観堂・松坂屋で求めた(静観堂は丸善のはず向いにあった)が古本(古書)の方は学校(明倫、文芸)で間に合ったので、古書店とは縁がなかった。

ただ一度卒業の直後であったが友人と一緒に五年の教科書を風呂敷に包んで、「松本」へ行った。旧本屋を再発見したのはこの時だった。

うが、通か彼方パントタイムのシルエットを見続ける気力はなかった。所乗り十日「尾張津島天王新能」。天王川公園特設舞台は青白段慢幕を廻らして見所は千数百。「蚊相撲」は蚊に負け自尊心を傷つていられた體を弱い太郎冠者に向ける大名のエゴを松次郎好演(33分)。「橋弁慶」は前後を通じ、シテ光洋のまぎまぎとした動きが能の持つ爽快感を印象づけ、子方鬼頭尚久君の健気さが喝采を博した。(38分)。

八月五日は「セントラルパーク新能」。前評判の高さに恐れをなして不参。二日間で万近い入出と聞くと「石橋」の湯浸(せんかん)とした「露の拍子」が聞けたであろうか。

因に、各新能の入場料は当日売で名古屋二千五百円、名城夏まつり五百円(但し入園料)、津島天王二千円、岐阜護国神社五百円(直会券として茶葉付)、セントラルパーク無料。

能楽評論家、大阪、故人)の手に落ちた。朝日能で米名るときである。千野の摘草・森田操遺稿・森田光風編・森田光春刊(復刊)祖父・父・子三代の本である。手にしたのが貴重本であったが、今度当主光春氏が古稀記念に再刊。「舞の中に大夫の振りを見て唯事肝要なり云々」

「笛のヒシギ吹きて次第を打ち出したればその能すも迄(中略)一切出入せぬものなり云々」

「唯子の位のうちに、はやきと、かろきと、しだるきと、しづかなるとは大いに相違あり其心肝要なり(以下略)」

「よろずの能の位は初めの次第のヒシギにて定める心得にてヒシギ吹くべし云々」(八みき草Vの章より抜粋)

一字一句、一文一章、すべて人笛の心得・能の心得Vをしずかにやさしく記される。逸話故実も、期待大。

### 和泉元秀師の「狂言の世界」

LPとカセット発売

和泉流十九世宗家・和泉元秀師による「狂言の世界」を収録したLPとカセットテープがCBCソニーにより九月二十一日全国にっせいに発売される。

録音には最新のデジタル・システムを採用、透明度の高い音響効果収録演目は(小舞踊)柳の下、七つ子、貝屋、海道下り、大原木、蟬、鎌倉、細雪、あやめ酒

【狂言】野老、猿唄、田植

【語り】奈須市市語、釣狐、語り

【狂言】附子

出演和泉元秀、和泉元弥、和泉淳子、和泉祥子、藤田大五郎、鶴沢寿、安福建雄、観世元三、30センチLP2枚組六千円、カセットテープ2本組六千円。

香説と号し、「龍とこそなりへかりける笛吹きが/虎とそなりてやたらうそぶく」の一首が、悠々たる威容の肖像写真ほか貴重な資料とともに冒頭を飾る。いやこれから本文がはじまると言ってよいであろう。佳書。座右の書を贈られる。

なお操氏は弘化三年生。文久元年元服の年、九月禁裡御所天覧能に初参、羅生門を勤める。翌二年の親類上人六百年回御遠忌御大礼式能、さらに明治四十四年同上人六百五十年回御遠忌式能に出動(京都、本願寺)、そのほか生涯でたびたびの盛儀に参会。大正十一年歿。七十七歳。

因みに「千八ちV野の摘草」のいわれは八みき草V(二十一頁)と八みきのり草V(三十七頁)に、新しく付記、千野流(森田流)に、詳しく解説と索引がつく。東京ベリかん社。六一・八月。付、光春氏は十二月の古稀記念能で三輪・静観(シテ片山九郎右衛門)、一管・津島を勤め、あわせて、一調一管・雲林院(謡金剛殿・笛藤田六郎兵衛・太前川光隆)と社舞遊行(熊之丞)が組まれる。期待大。

分)。「口真似」はシテ又三郎。野外を意欲して充分間を取り、大きめの所作が利く(14分)。「紅葉符」は酒宴に誘う美女・邦久がワキ権茂・飲也の決に取づくあたり、遊女の客引きの大胆なお色気衝動に、ワキが仰天するほど野外能ならでは。後は般若に黒頭・耕長持の若者囃子の舞動が楽しませた。(60分)。

八月五日は「セントラルパーク新能」。前評判の高さに恐れをなして不参。二日間で万近い入出と聞くと「石橋」の湯浸(せんかん)とした「露の拍子」が聞けたであろうか。

因に、各新能の入場料は当日売で名古屋二千五百円、名城夏まつり五百円(但し入園料)、津島天王二千円、岐阜護国神社五百円(直会券として茶葉付)、セントラルパーク無料。

能楽評論家、大阪、故人)の手に落ちた。朝日能で米名るときである。千野の摘草・森田操遺稿・森田光風編・森田光春刊(復刊)祖父・父・子三代の本である。手にしたのが貴重本であったが、今度当主光春氏が古稀記念に再刊。「舞の中に大夫の振りを見て唯事肝要なり云々」

「笛のヒシギ吹きて次第を打ち出したればその能すも迄(中略)一切出入せぬものなり云々」

「唯子の位のうちに、はやきと、かろきと、しだるきと、しづかなるとは大いに相違あり其心肝要なり(以下略)」

「よろずの能の位は初めの次第のヒシギにて定める心得にてヒシギ吹くべし云々」(八みき草Vの章より抜粋)

一字一句、一文一章、すべて人笛の心得・能の心得Vをしずかにやさしく記される。逸話故実も、期待大。

「狂言」(藤山忠三郎)・「能」(海士)不書文宛(シテ梅若万紀夫、子方・井戸和雅、ワキ植田隆之亮、間・茂山忠三郎、笛・梅若盛義、梅若高はか)入場料四五百円(学生二千円。(全自由席)申込みは、梅若万紀夫後援会(電〇三三四六六一三〇)にて見送る。)

### 能面二人展

林竜雲、保田紹雲氏  
能面作家、林竜雲氏と保田紹雲氏による「能面二人展」が、九月十一日から十四日まで、新幹線名古屋駅前の生活創庫アビタのピタスタジオで、約三十五点の能面を出品展示。入場無料。

### 本紙 謡曲名所めぐり

11月24日(休) 北陸路を訪ねる

本紙では毎年謡曲めぐりのバス旅行を実施しておりますが、本年は、「安宅」「花笠」など北陸路の謡曲名所を訪ねます。お誘い合わせご参加下さい。

日時 十一月二十四日(月) 振替休日

集合 名古屋・栄の愛知文化講堂前(NHK名古屋南側)午前八時集合、八時十分出発。帰着午後七時半頃(雨天でも実施)

定員 四十五人(申込み多数のときは補助席を利用することがあります。また年配の方を優先席とする場合がありますので何卒ご理解下さい。

会費 九千五百円(バス代、昼食代など一切ふくみます)

謡曲本「安宅」「佛原」「東盛」「花笠」「熊坂」一番本又は百番集をお持ち下さい。

お申し込み 現金書留又は振替にて左記へ申し込み下さい。

名古屋千種区千種2-18-18(〒464) 能楽の友社(電話〇五二一七三一一七九八四)

振替口座 名古屋0136393

### 能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

## 舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。

### ビデオプロダクション 西川企画

テレビ放送番組制作  
テレビCM企画制作  
テレビ録音  
ビデオ撮影

名古屋営業所 名古屋千種区千種2-20-3輪の内荘 小原方 TEL (052) 571-5816  
岐阜市北野町2-2 TEL (0582) 63-9869

### 武田謡楽会秋季大会

十月二十六日(日)午前九時始

## 熱田神宮 能楽殿

### 割烹・小料理 城

- 熱田神宮 能楽殿 喫茶部
- 住吉小路 (中区栄3-10) 電話 241-0248



発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

# 能 楽 の 友

若い御二人の門出に  
ふさわしい結婚式場

## 名 古 屋 若 宮 八 幡 社

各種会合や宴会にも御利用下さい

(駐車場完備)

名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

### 演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[10月]

19日(日) 先代藤田六郎兵衛師追善能 (有料)

25日(土) 淡交会秋季大会 (来場歓迎) (番組①面)

26日(日) 武田謡楽会秋季大会 (来場歓迎) (番組①面)

[11月]

1日(土) 清 謡 会 (来場歓迎) (番組②面)

2日(日) 風 韻 会 能 (来場歓迎) (番組②面)

3日(祭) 宝生九郎13回忌追善宝生会定式能 (有料)

(番組③面)

8日(土) 修 誼 会・楽 謡 と 仕 舞 の 会 (来場歓迎) (番組③面)

9日(日) 観 世 会 定 式 能 (有料) (番組③面)

15日(土) 久 田 観 正 会 (来場歓迎) (番組③面)

16日(日) 幸 友 会 秋 の 会 (来場歓迎)

22日(土) 初 陽 会 大 会 (来場歓迎) (番組④面)

23日(日) 久 田 観 正 会 大 会 (来場歓迎)

24日(振・月) 和 泉 会 (有料)

29日(土) 叶 石 会・一 陽 会 秋 の 会 (来場歓迎)

30日(日) 先代七回忌追善竜吟会大会 (有料)

[12月]

7日(日) 歳末助け合い協賛能 (有料)

14日(日) 壺 泉 会 能 (有料)

28日(日) 野村又三郎師舞台60年・福井啓次郎師職分

30年記念祝賀乱能 (要招待券)

[62年1月]

10日(土) 名古屋学生能楽連盟大会 (来場歓迎)

15日(祝) 名古屋清韻会能 (来場歓迎)

18日(日) 正風会20周年記念大会 (来場歓迎)

(演能変更の際はご了承下さい)

## 若州世阿弥記念碑 計画

### 能楽関係、福井県、地元有志で

能楽の大成者である世阿弥元清が佐渡配流にあたり「船出の地」としてゆかりのある福井県小浜市で世阿弥記念碑建立の運動がすすむ。全国的有志に基金募集がよびかけられている。

発起は、若州世阿弥記念碑建立会、京都、大阪、神戸、名古屋の能楽関係者、地元として小浜市長、三方町長、県会議員、市会議員、商工会議所、ライオンズ、教育委員会関係、小浜市謡曲連合会

## NHK能楽鑑賞会

11月7日 国立能楽堂  
きたる十一月七日(金)東京・国立能楽堂で「NHK能楽鑑賞会」が開催される。

## 喜多流 喜多 実氏 逝去

喜多流十五世宗家・喜多実氏は二日午後九時十分、腎不全のため東京・港区の北里研究所病院で逝去された。八十六歳。

## 大阪 梅若万紀夫能の会

梅若万紀夫能の会の大坂公演が十一月一日(土)大槻能楽堂で開催され、能「海士」が上演される。

## 淡交会秋季大会

十月二十五日(土)午前九時半始

熱田神宮能楽殿

番外仕舞帖之段 橋岡 慈徳

連吟 丸 林美代子

富士太鼓 近藤正登

高砂 八木 栄子

松井 慶切 竹井 喜信

素謡 弱法師 大川 雪子

舞踊子 西王母 伊藤さち子

清 経 正一 後藤孝一郎

紅葉狩 大野 文字 後藤嘉津幸

仕舞 編之段 原 小夜 法 師 伊藤 篤

独鼓 輝 丸 瀬戸 照男

舞踊子 龍太 高 美代子 三 輪 山口 幸

独吟 笠之段 斎藤 辰夫 勸 進 帳 小川 久夫

舞踊子 吉野天人 吉川 信得 後藤嘉津幸

善知鳥 中村 朝子 吉田 定男

独吟 藤 戸 早川 良松 後藤孝一郎

素謡 景 清 中野 末子 伊藤さち子

舞踊子 花 月 瀬戸三津子 高 英二

融 松本 隆夫 吉田 定男

独吟 藤 戸 綾子 後藤孝一郎

仕舞 拍 藤 戸 綾子 幸都 婆小町 土屋 美根

独鼓 藤 戸 綾子 伊藤 長八 瀬戸 昌子

能 鉄 輪 西村 欽也 吉田 定男

飯富 雅介 後藤孝一郎

井上松次郎 藤田六郎兵衛

後見 高橋 善助 地 謡 竹井 喜信

河合 正次 下 寺 井 栄

中村 和男 橋岡 慈徳

谷本 正 証 三 郎

附 祝 言 主 催 名 古 屋 淡 交 会

(終了午後五時三十分)

稲沢市稲島町二丁目宮六 瀬戸綾子方

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

電話(0587)331338

友人と一緒に五年の教科書を風呂敷に包んで、「松本」へ行った。日本史と西洋史はだめであつた。書一は(北澤浩吉氏)朝日、演劇。

一字一句、一文一章、すべて△箇の心得・能の心得Vをしずかにやさしく記される。逸話故実も豊富。期待大。

武田謡楽会秋季大会  
十月二十六日(日)午前九時始  
熱田神宮能楽殿  
主 催 武 田 謡 楽 会  
主 催 武 田 謡 楽 会  
主 催 武 田 謡 楽 会



### 観能 老いの花々咲く 大坪十喜雄の「藤戸」

名古屋宝生会定式能(9月21日 熱田神宮能楽殿)で大坪十喜雄の「藤戸」に感心しました。高輪のハンディキャップも余り感じさせず、鍛え上げた芸の年輪をしのびました。老熟ともいえるので、よいか、枯れた味の上ではなく、まだ生々しさの残っているところがうれしかった。前半、前シテの母が特によく、双シテの歌の深さ、ワキに迫る強さ、さえずらされて倒れるところも、足腰の乱れを見せませんでした。

私は若い人たちの、新鮮で発熱とした舞台が大好きです。そうした舞台を見たいと、能の将来に明るい希望がもてるような気がします。一例が観世会(9月14日 同)の「舟弁慶」です。シテ武田志房の静の可憐さ、知盛の幻怪をともに「また舟弁慶か」と云わさぬ魅力がありました。時分の花々の盛りを思わせるはなやかさもいえまじようか。

一方、老優、老大家の魅力もまた捨て難いものがあります。ながいキャリアと修練が市井の人生経験と重なり、派手な技巧の冴えだけでは及びもつかぬ深味があります。油のり切った若手、中堅のように軽快な動きは無理ですが、それに代る落着きと味わい、時にはこれこそ能本来の美、まことの花々ではないかと思わせることさえあります。

しかし、悲しいことに、老いの花の咲く時期は短かく、やつと円熟の境に達したかと思ふ間もなく衰退の時が迫って来ます。肉体的衰えは不可抗力です。技術や気力だけでしのげるものはありません。かつて梅若六郎、文楽の山城小椋の最晩年の舞台を見ましたが、それだけの名匠、不世出の巨匠でも、足や声の衰えはいかんともし難く、暗たんとした思いに駆られました。

歌舞伎界では最高齢の片岡仁左衛門が、まだ現役として活躍していますが、「一人間国宝」とか何とかおだてられて、老若、病苦を

押しつけて舞台に出ている老優が、私は気の毒でなりません。いくらいかに目に見ても、八十を過ぎて完全な舞台が見せられる肉体的境界は、越えているのですから。大坪の「藤戸」は違います。七十代の末とはいえ、まだまだ元気です。老衰の近きを思わせる兆候は見られません。私はこの日はかなりは、老いの花のめづらしさを、たっぷり鑑賞できた幸せにひたり揚幕に入ると大坪の後姿に惜しみなき拍手を送ったものです。

ところでその拍手ですが、9月22日の朝日新聞「天声人語」欄に「戦前の能は拍手しないのが常識だった。演じ終ってシテ、ワキ、囃子方がしつづくと権懸りを通じて幕に入る。お客はそれを見守るだけだ。……静寂の中で余韻を味わう芸だからという」とありました。私も戦前の能楽会場で、確かに拍手がなかったことを思い出しました。いまはどうです。シテが入ると拍手、ワキ、ツレが入ると拍手、囃子方が入るとまた拍手、最後に地謡が立つとまたまた拍手まことに立派なマナーには違いないかもしれませんが、いささかど過ぎてうるさい感じがしないでもない。「能は余韻を楽しむ芸」という「天声人語」氏の注釈が気に入りました。

演奏会でも劇場でもホールでも至るところ拍手だらけの今の世の中、能だけは「拍手なし」はしゃれてるじゃないですか。考えてみると、能という古典芸能、余韻を味わい楽しむというものが、鑑賞の本道のような気がします。近ごろはやりの戦前回帰はいやですが、これだけは戦前回帰、大いに賛成という思いです。

しかし現実にはさき非ず。この度重なる拍手マナーは次第に定着しそうな勢いです。昔と今にならずもかな。などとグチをいってもはじまらぬ時の流れです。せめて現在でも終演からシテの幕入りまで拍手を控える不文律が、余韻を味わう殊勝な態度の名残だとすれ

は、いささかなりとも慰められるのですが、見所の一部(あるいは大部分かも知れない)は、余韻を味わうどころか苦痛を感じているのではないでしようか。もう能は終っているんだ、早く入っちゃえ、は極端ですが、早く私語したり、モノモノしたり、およそ静寂という雰囲気でもなく、私はあながち、これを非難することは出来なと思います。世の中全体がおそろしくせつちかになつていくのですから。

### 宝生流第十七世宗家 宝生九郎十三回忌追善能

十一月三日(祭) 午後一時半始

熱田神宮能楽殿

番子	海人	小袖曾我	鶴	能	悪太郎	女	松	弱	拾	追
舞	人	鶴	能	狂	仕	郎	法	法	間	加
子	大坪十喜雄	玉井 博祐	西村 欽也	佐野 明	井上礼之助	花キリ	内藤 泰二	辰巳 孝	飯富 雅介	英雄
組	吉田 定男	竹内 澄子	後藤 孝一	久野 幸三	佐藤 友彦	辰巳 孝	辰巳 孝	河村 総一郎	西村 欽也	英雄
	福井 良久	吉田 俊彦	貞光 義明	高田 真六	大野 弘之	辰巳 孝	辰巳 孝	福井 啓次郎	杉江 元	英雄
	助川 龍夫	竹内 澄子	貞光 義明	辰巳 孝	大野 弘之	辰巳 孝	辰巳 孝	河村 総一郎	西村 欽也	英雄
	藤田 六郎兵衛	竹内 澄子	貞光 義明	高田 真六	大野 弘之	辰巳 孝	辰巳 孝	福井 啓次郎	杉江 元	英雄
	内藤 泰二	竹内 澄子	貞光 義明	辰巳 孝	大野 弘之	辰巳 孝	辰巳 孝	河村 総一郎	西村 欽也	英雄
	辰巳 満次郎	竹内 澄子	貞光 義明	高田 真六	大野 弘之	辰巳 孝	辰巳 孝	福井 啓次郎	杉江 元	英雄

主催名 古屋 宝生会  
名古屋市中区和区山里町一三五  
内藤 泰二 電話八三二一三四四九

### 修演会・素謡と仕舞の会

十一月八日(土) 午前十時三十分始

熱田神宮能楽殿

素謡	三井寺	毛利 菊枝	足立 悦子
仕舞	戸田 隆子	小笠原敦子	近藤 幸江
素謡	三井寺	毛利 菊枝	足立 悦子
仕舞	戸田 隆子	小笠原敦子	近藤 幸江

〔御来場歓迎〕  
梅若修一

### 久田観正会大会

十一月十五日(日) 午前十一時始

熱田神宮能楽殿

素謡	菊	童	中	雅子	松	虫	横井余史子
仕舞	菊	童	中	雅子	松	虫	横井余史子

〔御来場歓迎〕  
梅若修一

### 幸友会秋の会

十月十六日(日) 午前十時始

熱田神宮能楽殿

素謡	融	曾	馬場 信至
仕舞	融	曾	馬場 信至

〔御来場歓迎〕  
梅若修一

### 幸友会秋の会

十月十六日(日) 午前十時始

熱田神宮能楽殿

素謡	融	曾	馬場 信至
仕舞	融	曾	馬場 信至

〔御来場歓迎〕  
梅若修一

〔修演会・素謡と仕舞の会〕  
十一月八日(土) 午前十時三十分始  
熱田神宮能楽殿  
素謡 三井寺 毛利 菊枝 足立 悦子 近藤 幸江  
仕舞 戸田 隆子 小笠原敦子

〔御来場歓迎〕  
梅若修一

〔久田観正会大会〕  
十一月十五日(日) 午前十一時始  
熱田神宮能楽殿  
素謡 菊 童 中 雅子 松 虫 横井余史子  
仕舞 菊 童 中 雅子 松 虫 横井余史子

〔幸友会秋の会〕  
十月十六日(日) 午前十時始  
熱田神宮能楽殿  
素謡 融 曾 馬場 信至  
仕舞 融 曾 馬場 信至





〔御来場歓迎〕  
主催 初日 宗利  
東京都新宿区富久町四〇一四  
電話(三三)五九一七七八三番

発行 能 楽 の 友 社  
名古屋市中区千種千種2丁目18-18  
(郵便番号 464)  
電話 (731) 7 9 8 4  
振替口座 名古屋 0-3 6 3 9 3  
購読料 1年 700円  
郵送の場合 1年 1200円  
— 部 70円

# 能 楽 の 友

流元 剛行 金剛 流本 世宗 観宗  
**檜 書 店**  
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1  
電話 (291) 2488-9 振替東京3-3552  
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入  
電話 (231) 1990 振替京都1-113

## 能 賛 協 助 け 歳 末 合 っ け 運 動

能楽協会名古屋支部主催  
12月7日 能4番上演

昭和六十二年の名古屋観世会  
定式能予定番組がこのほど決定。  
二月八日を初回として年五回公演  
が行われる。  
昭和六十二年度予定番組  
第一回 二月八日(日)  
白 上 観世 元昭  
第二回 四月十二日(日)  
田 村 梅若 紀彰  
第三回 六月十四日(日)  
社 若 観世 喜之  
第四回 九月十三日(日)  
清 知 鳥 片山慶次郎  
第五回 十一月八日(日)  
三 輪 野村 四郎  
第六回 一月八日(日)  
舞 九 梅若 盛義  
第七回 三月八日(日)  
舞 九 梅若 盛義  
△指定席年間会費三万五千円、  
自由席二万円。毎回狂言上演、開  
演はいつでも十二時半。

野村又三郎舞台六十年  
福井啓次郎舞台三十年  
記念乱能  
12月28日 熱田能楽殿  
狂言和泉流・野村又三郎氏舞台  
六十年、小鼓方幸清流・福井啓次  
郎氏舞台三十年を記念して「乱能」  
が十二月二十八日(日)熱田神宮  
能楽殿で催される。  
この祝賀乱能には、能「田村」  
(前・野村又三郎、後・野村方之  
丞)「羽衣」(野村又三郎)「道  
成寺」(福井啓次郎)の能三番、  
狂言「棒縛」(観世銚之丞、観世  
元信、藤田六郎兵衛)「船弁  
慶」(野村方作)一調、仕舞など。  
観世元昭、辰巳幸、観世喜之、  
野村四郎、福王茂十郎、安福建雄、  
幸義太郎、山本東次郎、栗谷菊生、  
大倉源次郎諸氏が出演。

### 演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- 〔11月〕
  - 16日(日) 幸友会秋の会 (来場歓迎)
  - 22日(土) 初陽会大会 (来場歓迎) (番組①面)
  - 23日(日) 久田親正会大会 (来場歓迎) (番組①面)
  - 24日(振・月) 和泉会別会 (有料) (番組②面)
  - 29日(土) 叶石会・一陽会秋の会 (来場歓迎) (番組②面)
  - 30日(日) 先代七回忌追善養吟会大会 (有料) (番組②面)
  - 〔12月〕
  - 7日(日) 歳末助け合い協賛能 (有料) (番組③面)
  - 14日(日) 壺泉会能 (有料) (番組③面)
  - 28日(日) 野村又三郎舞台60年・福井啓次郎舞台分  
30年記念祝賀乱能 (要招待券)
  - 〔62年1月〕
  - 10日(土) 名古屋学生能楽連盟大会 (来場歓迎)
  - 15日(祝) 名古屋清韻会能 (来場歓迎)
  - 18日(日) 正風会20周年記念大会 (来場歓迎)
  - 〔2月〕
  - 1日(日) 宝生会定式能 (有料)
  - 8日(日) 観世会定式能 (有料)
  - 15日(日) 九島会定期能 (有料)
  - 21日(土) 青陽会定期能 (有料)
  - 22日(日) 春蔵会大会 (来場歓迎)
  - 〔3月〕
  - 8日(日) 名雅会 (来場歓迎)
  - 15日(日) 名古屋梅嶺会 (有料)
  - 21日(祭) 桐葉会 (来場歓迎)
- (演能変更の際はご了承下さい)

### 初陽会大会

十一月二十二日(土)午前九時始

熱田神宮能楽殿

素謡 卷 恒川 義明 鷺見 弘  
藤 夕 戸 顔 髪 絹 恒川 義明 鷺見 弘  
野 之 段 宮 横山 睦子 瀬川 外波  
仕舞 高 砂 岡本 歳子 柳原富司忠 藤田六郎兵衛  
小 半 菰 吉田シズカ 柳原富司忠 柳原富司忠  
素謡 定 家 清水かなる 柳原富司忠 柳原富司忠  
砥 硯 西村 欽也 河村総一郎 助川 龍夫  
能 羽 衣 和合之舞 福井啓次郎 藤田六郎兵衛  
舞 子 弱 法師 大谷 藤吉 後藤孝一郎 柳原富司忠 古橋 正士  
舞 子 若 鈴木 容子 後藤孝一郎 柳原富司忠 柳原富司忠  
雲 雀 山 立野 善吉 河村総一郎 柳原富司忠 柳原富司忠  
須 磨 源 氏 山田 武嗣 河村総一郎 柳原富司忠 柳原富司忠  
素謡 通 小 町 高島 巴 藤島 啓子  
道 成 寺 杉本 勉 武田 宗和 小島 一英 中川 雅章  
舞 子 敦 盛 山本 一 柳原富司忠 藤田六郎兵衛  
舞 子 女 鈴木信太郎 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠  
葛 班 城 神沢 幸吉 後藤孝一郎 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠  
船 弁 慶 野崎 博子 後藤孝一郎 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠  
番外仕舞 井 野 武田 宗和 武田 宗典 (終了予定 午後六時)

### 久田親正会大会(第二日目)

十一月二十三日(日)十時始

熱田神宮能楽殿

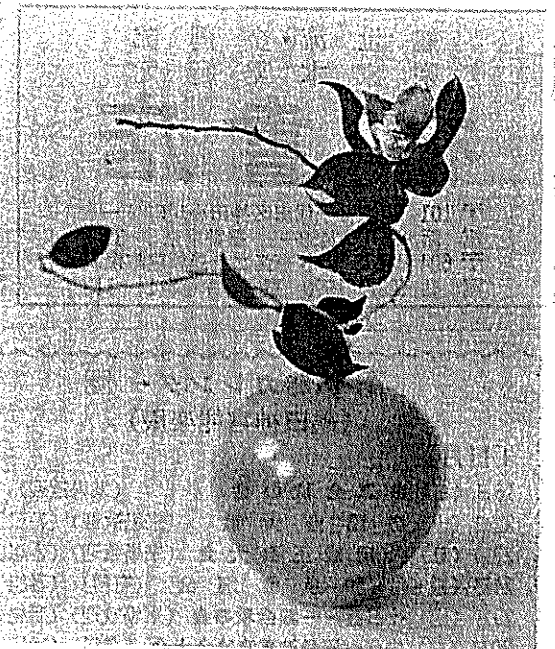
素謡 求 塚 小田切敏子 吉川宇良子 佐野 正吉  
素謡 松 風 都丸 陽子 久田 徹二  
仕舞 類 羽 三島恵那子 加藤 良子  
狂言 竹生 嶋 参 佐藤 友彦 井上礼之助  
舞 子 雨 之 段 上田 貴弘 浦田 保利  
松山 幸親 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠  
笠田 昭雄 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠  
清沢 一政 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠  
玉木 孝勇 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠  
能 敦 盛 西村 欽也 後藤孝一郎 柳原富司忠 柳原富司忠 柳原富司忠  
附 祝 言 大野 弘之 (終了予定 五時頃)

レビ能・葵上(宝生英照、宝生能  
楽堂)があった。さて、三井寺は  
三。佳。狂言は末広・素襷落しに庵  
の梅が小林貞氏と本田アナ(きき  
手)の対峙の一幕で紹介される。

〔御来場歓迎〕  
主催 初日 宗和  
東京都新宿区富久町四〇一四  
電話(三三)五九一七七八三番

〔御来場歓迎〕  
主催 久田親正会  
名古屋市中区東水切町四一四三  
電話(三三)九八一三三四三





# 青月雅日記

## 閑花

えと文 二井栄逸

能の大成者であった世阿弥は、風姿花伝の中に、能を舞う者の最も難しい秘伝の一つとして、「せぬところが面白き」と、いうことを書き残している。

これは、能を舞うものが、舞台で動いている限りは、観衆の心を引きずってゆけるが、動作をしないでいる時に、観衆の心を引きつけて、「面白し」と、思わせることをいっているのである。

かたし、ひゆうがみづき等々、どれも生き生きとして好ましい花ばかり。

茶花は自由律であるから、自由に気のおもむくままに生けるのが身上であるが、おかしはならぬ十原則があるのと、基本がしっかり身についていないと、良い花は生れない。

### 和泉元彌 文部大臣特別表彰記念 和泉会別会

十一月二十四日(休)午後一時始

- 熱田 神宮 能楽殿
- 久田 徹二
- 久田 岑男
- 猿 智
- 和泉 元秀
- 悪太郎
- 井上松次郎
- 朝比奈
- 和泉 元彌
- 野村又三郎
- 松脂
- 和泉 元秀
- 佐藤 友彦
- 井上 祐一

### 一謡会・叶石会秋の会

十一月二十九日(土)午前十時始

- 熱田 神宮 能楽殿
- 葉子 那
- 葉子 雨
- 安達 原
- 班 女
- 胡蝶
- 善知 鳥
- 任舞 鉄
- 素謡 野
- 葉子 菊
- 葉子 難
- 遊 行
- 高 砂
- 海 士
- 小 五
- 碓 五
- 一橋 弁
- 葉子 鶴
- 放下 僧
- 熊 野
- 山 姥
- 須磨 源氏
- 天 鼓

### 先代藤田六郎兵衛七回忌追善

十一月三十日(日)午前十時始

- 龍吟 会
- 葉子 那
- 葉子 雨
- 安達 原
- 班 女
- 胡蝶
- 善知 鳥
- 任舞 鉄
- 素謡 野
- 葉子 菊
- 葉子 難
- 遊 行
- 高 砂
- 海 士
- 小 五
- 碓 五
- 一橋 弁
- 葉子 鶴
- 放下 僧
- 熊 野
- 山 姥
- 須磨 源氏
- 天 鼓

### 若州世阿弥記念碑 建立趣意書

高まり、昭和五十九年八月には、菩提寺である奈良県田原町の補陀寺に、「世阿弥参学之地」と銘した石碑が建てられ、その趣意書は

高まり、昭和五十九年八月には、菩提寺である奈良県田原町の補陀寺に、「世阿弥参学之地」と銘した石碑が建てられ、その趣意書は

高まり、昭和五十九年八月には、菩提寺である奈良県田原町の補陀寺に、「世阿弥参学之地」と銘した石碑が建てられ、その趣意書は

高まり、昭和五十九年八月には、菩提寺である奈良県田原町の補陀寺に、「世阿弥参学之地」と銘した石碑が建てられ、その趣意書は



人に教える者の義務は、相手の吞み込むことができるだけ教える、ということになる。又、世阿弥

若州世阿弥記念碑 建立趣意書

能楽の大成者である世阿弥元清は、時の將軍足利義満の怒りにふれて、永享六年(一四三四)佐渡の島に配流されました。一行は五月四日京都を立ち、大津より琵琶湖を船で海津大崎に至り、それより陸路をとって翌日小浜の泊に着いておられます。ここでしばらく風待ちをし、ほどなく順風を得て津田の入江より船出し、五月下旬に佐渡の大田の浦に着きました。後年、世阿弥は佐渡配流の悲しみを託して、八篇の小説を作り集めて、「金鳥書」に成しておられますが、そのなかの「若州」という小説は、この小浜のことを、「次の日若州小浜と云う泊に寄る。こゝは先年も見たりし処なれども」と、昔遊の地であったことを懐しく述べており、順風待ちに滞在した、本土の最後の地ともいえるべき、極めて所縁の深い土地であります。近年世阿弥顕彰の気運がとみに高まり昭和五十九年六月には菩提寺である奈良原田本町の補陀寺に、「世阿弥参学之地」と銘した顕彰碑が建てられ、さらに佐渡金井町には「世阿弥配流方福寺址」の記念碑が建立されております。このような情勢を目のあたりにしまして、こゝ小浜の地は船出をいたしました泊として、ゆかりの深い土地柄であり、世阿弥を顕彰するとともに、小浜の認識を更に深めるために、この地に船出の記念碑を建立することになりました。幸いにその敷地に就きました。小浜市当局の好意ある計いで、市有地の一部を提供していただくことになっております。世阿弥の衣鉢を嗣ぐ能楽師の人びとはもとより、研究者・愛好者など能楽関係の方、そして地元の小浜市更に広く若狭のかたがたがこぞで建碑の趣旨に御賛同下さりまして、募金が積極的な御協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。若州世阿弥記念碑建立会 一、建立地 福井県小浜市川崎二

鏡能 新演出の「半部」 久田徹二の「立花供養」

十月十五日、名古屋市芸術センターで、第四回久田徹二リサイタルを鑑賞した。第一回は去年九月同じく芸術センターで「安達原に賭ける」という勇ましいうたい文句で、舞台をいっぱい使った芝居がかりの新演出を試みられた。ほめる人あり、批判する人あり、物情騒然たる反響があったようだが、私はその勇気に感心しました。ほめる方も批判する方も、それぞれに理由がありますが、急転回する時代の流れに、じっとしておれない演者の焦燥と情熱がひしひしと感じられました。ところで第二回のごんごんです。「立花供養」の小書をつけた「半部」です。「立花供養」はよくやる替り演出で、格別珍しくはありませんが、「安達原」で我々を驚かせた久田君のこと、また何か、と期待をもって観ていましたら、

各地だより

山本博通、河村信重 両氏が独立披露能 11月29日 山本能楽堂 山本博通、河村信重両氏は、昭和五十六年から山本能楽一師弟子として修業を重ねたこのたび独立

梅若春常会 大阪大会

11月9日 大阪能楽会館 梅若春常会(梅若善高師)は十一月九日、大阪能楽会館で秋の大阪大会を開催。

附祝言

須磨源氏 鼓 久田 徹二 柳原富司 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎 富士道用 助川 龍夫 目黒美保子

協賛

熱田 神宮 能楽 殿 十二月七日(日)午前十時始

附祝言 須磨源氏 鼓 久田 徹二 柳原富司 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎 富士道用 助川 龍夫 目黒美保子

御來場歓迎

天 鼓 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏

御來場歓迎

天 鼓 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏

御來場歓迎

天 鼓 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏

御來場歓迎

天 鼓 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏

御來場歓迎

天 鼓 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏

御來場歓迎

天 鼓 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏 須磨源氏

各地だより

一宮で邦謡大会

邦謡会(梅田邦久師主宰)は、十一月十六日(日)一宮勤労会館(一宮市権津町)で能楽大会を開催。

野村又三郎氏、芸術特賞受賞祝賀

狂言和泉流・野村又三郎氏は、今春二月、昭和六十年度名古屋芸術特賞を受賞、十月二十三日、市民会館で記念公演を開演。



野村又三郎氏

信玄袋

喜多実氏追懐、橋岡久馬氏の道成寺放送、高野山の新能

十月二日喜多実流家元喜多実氏が逝去される。享年八十六歳。戦中から戦後にかけて、喜多実さんの最初の本「演能手記」は、金剛殿(初代)の「能と能面」とあわせて、私の大切な書物であった。

「喜多実氏追懐」は、橋岡久馬氏の道成寺放送、高野山の新能。喜多実さんのことを追懐する。橋岡久馬氏は、喜多実さんのことを追懐する。喜多実さんのことを追懐する。

長月の舞台から

「金春会」「観世会」「九阜会」「宝生会」

竹尾邦太郎

「香知鳥」シテ光洋。前は終始クモリが。形見に渡す片袖をしみじみと見る辺の哀傷と、受取るワキ旅僧飲也が橋懸(険峻立山)を三ノ松まで下す戻る健脚が、りり印象深い。後は、へ千代童が髪を掻き撫でて、と退る子方に空を撫で、隔てられた虚しさは、地の、へ今まで見えし姫小松のほかなや、と正先で両肩大きく息を吐く態に見えた。眼目のカケリは大小前で、へとうと、と紋り出す声調で謡い、拍子踏んでツツとスミへ行き、二足引いて正先空の前を通り、杖取直すとスルスルと二ノ松に抜け、ピョットと振りすると膝を突き、立って一ノ松に戻り正二面スと頭を取って勾欄に寄り、笠を見込み、退るとゆつくり舞台に降り、正中近辺に杖取直して登

「三井寺」シテ鉄之丞。背地地穂に鳴子文様無紅縹縹縹。歩を運ぶ度秋野に鳴子が高く鳴る……。カケリの焦燥から、へいざ故郷に帰らん、と三ノ松松まで抜け、更に一ノ松勾欄に寄りて鐘を見込み、常座三井寺に着く。このシテの逸る心の取りが見所に共鳴する。アイ松次郎のシテ、白拍子、紅白秋

「船弁慶」シテ志勇。前はイエロから舞クセ、中ノ舞へと怒喚連綿。特にクセ、扇カサシてスマリと、と跳び上って膝を突き、二ツ踏んで海の瀬戸と消え、滅び去るもの一瞬の光と鮮烈(1時間25分。9月14日・観世会)。「野宮」シテ鉄一。若女、襟白、腰白、白拍子、紅白秋

「雪女」シテ狂言に親しむ会。能と狂言に親しむ会(梅田邦久、藤田六郎、兵衛師主宰)の能楽講座は、本年度最終回として、きたる十二月十五日、名古屋・錦三の教育館講堂で、新作品「雪女」をテーマとして開催される。この「雪女」は梅田邦久師の制作で昨年発表され、来春二月に東京で上演される予定。講座は会費二千円。午後二時と午後六時半の二回開催。申込みは電話052(五七)一五七六三(藤田)

「西王母」シテ正宣代動。唐物らしい華やきのある異色の脇能に正宣の真実な姿勢が自ずと悠々然とした風格を醸し出した。但し一舞台の位置を決める際の難々しさは感心出来ない(57分)。「菓子洗」珍らしい女流能。シテ博徒、登場無く正中床几に掛り、立って歩き廻るなど部屋で独り苦吟の態。しかし一首を得ての悦びは慎ましく、その対照に一ノ松で盗聴するワキ雅介の品性殊更卑しくみえる。後は紅地唐織を替え、枝垂桜・扇面散シのもの、童折に緋大口で春雷を視覚に見せる。さて古歌と極め付けられたシテの無念が草子洗う激情に走らせたが、疑い暗れて舞う中ノ舞には嬉びを噛み締める抑制された優しさがあつた。尚ツレは男ばかり貫之の俊彦の気品溢れて難い。地頭倉本雅(1時間25分)。「重戸」シテ喜多実。深井、間い合はるは合池中日文化センター

「日本の音・能の音」今池中日文化センター。ちくさ文化サロン。中日新聞・今池中日文化センターの特別セミナー「ちくさ文化サロン」は、十二月一日(月)、千種区山門町の松閣閣で、「日本の音・能の音」のテーマで、お話と演奏と懐古料理の講座として催される。演目は「三番更」「序之舞」「獅子」ほか。舞囃子とともに楽器の話をまじえ指導も行われる。司・藤田六郎、小波、大倉源次郎、大波、大倉正之助、太波、上田信の諸氏が出演。定員百人、会費一万円。申込みは電話052(五七)一五七六三(藤田)

- 61年11月・12月放送予定
[11月] NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
23日(日) 観世流「井筒」梅若紀彰
30日(日) 金剛流「船弁慶」「住吉詣」金剛殿
NHK教育テレビ(午前9時~10時)
11月24日(振替休日) 能「奥の細道」(高浜虚子作) 金春流・桜間金太郎ほか
(12月) NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
7日(日) 観世流「采女」浅見真州
14日(日) 宝生流「葛城」「車僧」近藤乾之助
21日(日) 観世流「実盛」大西智久
28日(日) 和泉流狂言「釣狐の踊り」和泉元秀
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

社 18 43 四円四角
「雷」演
主催:交響楽、吹奏楽、能、狂言、バレエ、邦楽、邦舞など各部門により県下各地で開催されており、

野村又三郎舞台六十年記念 THE 乱能
福井啓次郎職分三十年記念 THE 乱能
十二月二十八日(日) 正午始







# 去月雅日記

## 行く年

えと文 二井栄逸

光陰矢の如し、と、月日の早く過ぎてゆくたとえがあるように、やはり、昔の人達も月日の立つのが早かったのであろうか。

春に備えた会が、こないだのようには思える位だから、一年ぐらいいは瞬きする間に過ぎ去ってしまふという理だ。



再び備ってこない一年を惜しむ気持ちは誰しも同じであろう。室町時代の記録の中に、年末に連歌の会を催し、これを年忘れの会と言ったことを、物の本で読んだことがある。

行く年の方は、この一年を惜しむ気持ちはこめられてくるように好きである。

### 各地だより

#### 神戸新春能

1月15日 文化ホールで  
昭和六十二年の年頭を飾る「神戸新春能」は一月十五日、神戸文化ホール八中ノ特設能舞台で行われる。開演午前十一時。

#### 62年新春放送

●NHK教育テレビ  
(午前九時〜十時)  
一月一日(木)  
新春能「高砂」金春信高、齋木岑男  
一月二日(金)  
新春能「二人持」和泉元秀、和泉元弥  
一月三日(土)  
新春能「梅若若行」梅若若行、梅若若行、工藤和哉  
●NHKラジオ第2放送  
(午前八時〜九時)  
一月一日(木)  
新春謡曲「東北」観世元正  
一月二日(金)  
東西狂言「末広がり」大蔵流、善竹忠一郎、雷和泉流、野村万之丞  
一月三日(土)  
秘蔵版謡曲名曲選「智恵子抄」

### 安宅の関、実盛塚 味真野の里など 初の北陸路 謡曲名所めぐり

能楽の友社では、恒例の謡曲名所めぐりバス旅行を錦秋の十一月二十四日実施、加賀、越前の史蹟を訪ねました。

十二名が参加。午前八時愛知文化講堂前を出発、名神高速道路から北陸自動車道へ入り、一路越前へ片山津ICを出て、藤原古戦場へ源平の戦いのしるし「実盛塚」に参拝。安宅の料亭「長沖」にて昼食をとり休憩。松嶺の音のなかに「安宅」の住時をしのび記念撮影。午後一時五十分再びバスで北陸自動車道を通り、途中、加賀、能登町の「長範屋敷」で肩衣つけての記念撮影と加賀みやげなどを購入。さらに、今回の旅行の大きなテーマとして「花笠」にちなむ越前味真野の継体天皇行在所、味真野神社、史蹟記念館、また皇子ヶ池花笠公園などを見学、夕陽も沈み開きまる頃味真野をあとに武生ICに到着、車中にて「花笠」「安宅」「実盛」「弘原」「熊坂」など役々により謡い、雨模様も心配されまじが目的地の北陸路に到着。

### 名古屋清韻会能

昭和六十二年一月十五日(祭)十時始  
熱田神宮能楽殿

神歌	鈴木明 千歳高橋 宗司	高砂	鈴木明 高橋 宗司	二人静	岡部タマ 富田初子中垣こう 地謡	玉	高木あき子 鈴木芳子 地謡 (クセの前半を省き、シテ後半も経ぬ、から謡い、ロンギを省く)	連吟駒之段	加藤 千一 増谷 和夫 加野昭二郎 原 博彦	仕舞加	茂 小川記句子 絹 吉田八重子 羽 衣 船戸 定子 玉 長尾 洋子 狸 長 寿津	蟬丸	北原良一郎 伊藤 愛義 高田 武雄 地謡	雲林院	山田 欣也 地謡	善知鳥	福岡 克彦 地謡
----	----------------	----	--------------	-----	---------------------	---	---	-------	---------------------------------	-----	--	----	-------------------------	-----	----------	-----	----------

笹之段	長島みつこ 榎原富貴子	舞	伊藤 敏子 吉田 定男 福井啓次郎 後藤孝一郎 森本 重一	通小町	池田 忠三 吉田 定男 後藤孝一郎 福井啓次郎 森本 重一	野宮	守部 啓子 福井啓次郎 後藤孝一郎 森本 重一	唐船	飯島清子 後藤孝一郎 吉田 定男 福井啓次郎 森本 重一	葛城	飯島清子 後藤孝一郎 吉田 定男 福井啓次郎 森本 重一	東遊	北 高田みね子 口 奥村 久枝 柳 佐藤アヤ子 之 古井 佐季 雨 藤 節子 野 藤 節子	杜若	池田美知子 後藤孝一郎 福井啓次郎 森本 重一	天鼓	御牧 紀代 福井啓次郎 後藤孝一郎 森本 重一	難波	桑原 信夫 福井啓次郎 後藤孝一郎 森本 重一	西行	大槻 文蔵 赤松 慎友 水田 博 齊藤 信隆	祝賀	淡 秀夫 大槻 文蔵 赤松 慎友 水田 博 齊藤 信隆
-----	----------------	---	---	-----	---	----	----------------------------------	----	--	----	--	----	--	----	----------------------------------	----	----------------------------------	----	----------------------------------	----	---------------------------------	----	---



「舞合の上と下しをめぐる」は、竹尾邦太郎氏のご寄稿、紙上交流(本紙61年9月号、同10月号、同12月号)は、読者、愛好者

### 再び竹尾邦太郎氏に お答えして

「舞合の上と下しをめぐる」は、竹尾邦太郎氏のご寄稿、紙上交流(本紙61年9月号、同10月号、同12月号)は、読者、愛好者

「舞合の上と下しをめぐる」は、竹尾邦太郎氏のご寄稿、紙上交流(本紙61年9月号、同10月号、同12月号)は、読者、愛好者

竹忠(郎)雷和泉流・野村万之丞  
一月三日(土)  
秘蔵版謡曲名曲選「智慧子抄」  
千円、二階三千円。

### 再び竹尾邦太郎氏に

お答えして

辰己 孝

小生の貴方への「お答え」に對して、大へんご懇篤なるお言葉を載せられましたことに対し(編注・本紙三八号掲載)甚だ恐縮いたし、又能に對するお考えの純粋なことを知って大いに敬意を表明するものであります。

御高説の中で深く共鳴を覚えることが多いのですが、又立場が違ふ為か、私共の側から異論を挿しはさざるを得ぬ点もあり、或は私の舌の足らぬせいも、少々誤解を招いていることもあるよう、失礼を省みず再び私の考えを申し述べました。

まず初めに少し長が長すぎたのか、眺めたいに感じられたようですが、何も楽屋の裏路とが、後見の力量を云々したわけではなく、観衆や読者に、緑の下の力持ちの立場や気がばりを知って貰い、同時にめつたに超る管のない事故が知りつくしている管の油断から、重過失を招く事に対する追跡警告にもという、舞台の上の者達に對する苦悩心もありました。勇み足であったか、寄り切りであったかは勝負審判役の見るところです。

災害というものは続いて来るものなのか、十月五日にも金沢の月並館で、三井寺の水彩の胸のトメが切れ、半裸の態となった後シテを、たまたま東京の楽屋で私の文を読んだばかりと云う後見が、出しなげに想い出して携帯していた糸針で直にとめ直して事なきを得たに面白く感じたと、私に感謝の詞を申しました。

日頃口をすっぱくして云つてもなかなか服膺してはくれぬもので、活字の力は大きく、眼から入った注意が役に立ったものでした。

御提案の、下つて来たシテの裾を右手で持って引込むとのお話ですが、これは技術的に不可能と考へます。

右手には中啓を持っており、それも上履をもつわけではなく、下前を持たねば意味がないので、中

所めぐりバス旅行を錦秋の十一月二十四日実施、加賀、越前の史蹟を訪ねました。  
今回は初めての北陸路紀行で五

お答えして  
「乱」など最も大きな小書、昔は予告なしで、いきなり乱を吹いてシテを困らせたりしたらしいのですが、今では笛がシテに挑戦する時は、(予め約束を交していても)合図の笛が一方所あって、シテがそれを受ければ、扇子を開いて

「能」の型にはそこそこ忠実に従っていませんし、出版社の記者が古文書を誤読したり、写し違えたりも相当あります。

後見はシテと共に在るものですが、その出役はシテと行動を共にしますが、地謡の一部主力の途中退場についての御指摘があり、これは全くきまりに無いです。

ただ東京など手馴れが有り余っている所と違い、人数の制限されている地方では、地謡の主力は普通若附でもベテラン、後見の更に監督でもあるというものが、各流とも地方公演の裏態であり、中入の、殊に着附の迅速を要するもの、大曲などの時には、共に引っこんで少しいまいましい姿の後シテを観客のお目につけ、場合によっては、揚幕の監督も再び舞台へ上って地を勤めるといふ、これは全く経営上の家庭の事情につきまします。

昔の如く庇護者がいなくなり、自主経営では赤字財政は能楽の宿命であり、私共はこんな異例の働きを人に見られたくないのに、切実な思いを致しつつ、一人何役かをこなして、能の地方に於ける灯の消えるのを阻止している次第であります。

舞台の上の十数名の出所進退の行儀は、観覧席数百名の対比など考へる余地なく厳格な筈であります。しかし大曲、秘曲など二時間を越える曲も珍しくなく、こんな曲の地謡の主力は、当然高齢、熟練の人である筈です。現在の如く多くの省略を施さない古い頃は、恐らく三時間かかったものと思

われども、その間に一度も退場せずぬわには腹へ力をいれず、小さな声で腕振の働きをセーブする工夫がいりますが、それでも板の間に坐って我慢するには、生理的限界もありまします。

飛子方の元老が、代りに後見を坐らせて引込む例は、度々目にする処です。

紙上をもつてあらためてお礼申し上げます。  
(写真)安宅の関にて(加野記)野池にて(長沖)にて(味真)

「能」の型にはそこそこ忠実に従っていませんし、出版社の記者が古文書を誤読したり、写し違えたりも相当あります。

後見はシテと共に在るものですが、その出役はシテと行動を共にしますが、地謡の一部主力の途中退場についての御指摘があり、これは全くきまりに無いです。

ただ東京など手馴れが有り余っている所と違い、人数の制限されている地方では、地謡の主力は普通若附でもベテラン、後見の更に監督でもあるというものが、各流とも地方公演の裏態であり、中入の、殊に着附の迅速を要するもの、大曲などの時には、共に引っこんで少しいまいましい姿の後シテを観客のお目につけ、場合によっては、揚幕の監督も再び舞台へ上って地を勤めるといふ、これは全く経営上の家庭の事情につきまします。

昔の如く庇護者がいなくなり、自主経営では赤字財政は能楽の宿命であり、私共はこんな異例の働きを人に見られたくないのに、切実な思いを致しつつ、一人何役かをこなして、能の地方に於ける灯の消えるのを阻止している次第であります。

舞台の上の十数名の出所進退の行儀は、観覧席数百名の対比など考へる余地なく厳格な筈であります。しかし大曲、秘曲など二時間を越える曲も珍しくなく、こんな曲の地謡の主力は、当然高齢、熟練の人である筈です。現在の如く多くの省略を施さない古い頃は、恐らく三時間かかったものと思

われども、その間に一度も退場せずぬわには腹へ力をいれず、小さな声で腕振の働きをセーブする工夫がいりますが、それでも板の間に坐って我慢するには、生理的限界もありまします。

飛子方の元老が、代りに後見を坐らせて引込む例は、度々目にする処です。

「能」の型にはそこそこ忠実に従っていませんし、出版社の記者が古文書を誤読したり、写し違えたりも相当あります。

「能」の型にはそこそこ忠実に従っていませんし、出版社の記者が古文書を誤読したり、写し違えたりも相当あります。

後見はシテと共に在るものですが、その出役はシテと行動を共にしますが、地謡の一部主力の途中退場についての御指摘があり、これは全くきまりに無いです。

ただ東京など手馴れが有り余っている所と違い、人数の制限されている地方では、地謡の主力は普通若附でもベテラン、後見の更に監督でもあるというものが、各流とも地方公演の裏態であり、中入の、殊に着附の迅速を要するもの、大曲などの時には、共に引っこんで少しいまいましい姿の後シテを観客のお目につけ、場合によっては、揚幕の監督も再び舞台へ上って地を勤めるといふ、これは全く経営上の家庭の事情につきまします。

昔の如く庇護者がいなくなり、自主経営では赤字財政は能楽の宿命であり、私共はこんな異例の働きを人に見られたくないのに、切実な思いを致しつつ、一人何役かをこなして、能の地方に於ける灯の消えるのを阻止している次第であります。

### 能を大衆のものに

テレビ「YOU」に思う

11月29日の土曜日夜、NHKの教育テレビで「YOU」(ユー)という番組を見ました。ヤング向けの番組で、私はほとんど見たことがなかったのですが、当夜は「いま古典芸能が面白い」というタイトルにひかれてダイヤルを回してみたいわけでした。

名古屋のセントラルパークの会場に、ヤングがワンサつめかけでいました。小唄の小六彌生、藤田六郎兵衛の両家元がゲストに登場、特に能について、つづんだ質疑応答が結構面白かったです。

藤田君は当夜の立役者、大いに弁じ、大いに答えていました。彼「能・狂言に親しむ会」の主宰者一人、新しい能、狂言の企画演出に大活躍中なのはご存知の通り。今年も、照明能シリーズ「知鳥」、名古屋城の能楽復活、セントラルパークの新能(二年目)などに、リーダー役、推進役をつとめ、天晴れ名古屋能楽界の前途を氣どる観があります。

藤田流の家元という格式にこだ

「能」の型にはそこそこ忠実に従っていませんし、出版社の記者が古文書を誤読したり、写し違えたりも相当あります。

### 能・狂言

岩波講座 能・狂言 全7巻と別巻の総合講座

日本の代表的な古典芸能である能・狂言は、七百年に近い歴史のなかで幾多の変遷をみながら発展をつづけ、広く一般に親しまれ、海外からもますます注目されてきています。この能・狂言に関する研究は、戦後四十余年を経て、新資料の発掘や調査が飛躍的に進み、またその研究方法が確立されて、大きく進展してきました。

こうした最新の研究の成果を集めて、能楽の全体像をとらえ、あわせて鑑賞案内も備えた総合講座として、「岩波講座 能・狂言」が刊行されることになった。

編者は、横道萬里雄、小山弘志、各巻の巻頭は次のとおり、  
【I】能楽の歴史 【II】能楽の伝書と芸術 【III】能の作者と作品

【IV】能の構造と技法 【V】狂言の世界 【VI】能鑑賞案内 【VII】狂言鑑賞案内(別巻) 能楽図説

第一回分冊、第三巻は昭和六十二年一月七日、第二回分冊三月二十五日、隔月毎に一冊ずつ刊行。体裁・定価A5判変型・上製 定価各巻三三〇〇円・三三〇〇円

医療衛生用品総合商社  
**八神商事株式会社**  
取締役社長 八神 幸一  
本社 〒460 名古屋市中区丸の内三丁目11-4  
電話 (052) 971-8671 (代表)  
営業所 西 熱田・名東・関東・静岡  
沼津・浜松・岡崎・岐阜



信玄袋

金剛殿氏の江口、宝生英雄氏の嫉捨と二つの狂言会のこと

十一月下旬よく晴れた日に晩秋の京都へ能の二・三の用事で出かけた。まず金剛能楽堂へ。舞台の床板が敷きかえられたが、目立つことなくゆかしい色合い。金剛殿氏が江口を舞う。オモチ・姿美しく、曲趣深し。前シテの立ち姿(一ノ松)は目を引きつけ、後シテ「普賢菩薩」一舟は白象となりつつのあたり、右手扇を上にまた舞台を三角に大きく廻って立派。無心・道運の感あり。一段と雲格を高められる。大鼓は河村総一郎氏(名古屋)。笛藤田光春・小鼓曾和博朗の両氏。舞台の効果を盛り上げる。

二・三の用事も無事すす。十二月の金剛能は鈴木(永謙)の二番。大きな期待が私の心を室町へ向けさせる。その頃奈良は「おん祭り」。「後宴の能」(最後の目)が催される。昨年は珍しく夜の行事に雪が降った。

十一月三日宝生九郎氏の十三回忌追善能が行われた。八熱田V。家元英雄氏は嫉捨を手向け。東京・大阪・名古屋について金沢と四回の嫉捨上演の由。この四回を追ったところか、八宝生の上さVに大きくひたれたであろう。前シテの運び(運歩)の上さにくらべて、後シテは特に舞に至ってその足取りからあの八条風の老女物(非風と屋風、信玄袋七月号、老女物断断連)と同じものを感じさせる。舞うと音より一歩一歩踏みしめるよう。老女がたどたどしく歩くよう。しかもそれに、殊に後姿に何とも言えぬ味わい、地味な中に濃厚かつ清澄そしてやさしさが汲みとれた。後、一ノ松で左手を大きく前にしたカクテ佳(舞でも二度あった)。最後は杖を持ち常座で万感をこめて立つたままのうしろをワキの西村欽也氏がしずかに通り抜ける。佳良。地盤は地頭の大坪十喜雄さんの鶴だけ耳によく入っていた。

問狂言は井上松次郎氏。二十二分、うち語り十五分。風格と哀感と明月の感懐をもつて充分の興味をもたらす。松次郎一世一代の好演。共同社の名を高める大きな記録として残ろう。養子方も秀逸特に太鼓(鬼頭嘉太郎氏)は見事。笛藤田六郎兵衛・小鼓福井啓次郎・大鼓河村総一郎の各氏。二時十七分の上演。

九郎氏は晩年の八熱田Vで羽衣のとき、楽屋で「この頃はヒザが言うことをきかなくて」とやさしく吹くように語られた。思い出深い言葉である。ある年NHKの会長室前であつた挨拶をかわしたことも忘れられぬ(当時重英氏、昭和十六年。小森会長時代)。あのソフト帽の姿はなかなかしやうしやであつた。

二つの狂言会。十月二十三日、野村又三郎氏の名古屋市芸術特賞受賞(昭和60)記念狂言会。市民会館。釣狐。この人の同曲はやさしい感じの狐で、粘りが物を言う。

楽屋から観覧席へ戻るとき、ふと舞台下手内にそくだけ一か所明るい処(鏡の間に相当)が目に入る。鏡の前にじつと腰掛ける白蔵主の姿をみて一瞬身の凍る思いがした。又三郎氏が狐になろうとする秘密をみたのである。そこから「釣狐」が始まって、それが開夜の狐の出となり、白蔵主に变化

(へんげ)の演出につながっていた。月の出のない夜、前半は月のない夜の設定のように思った。舞台に出る前のあの凝然とした姿は私と少数の人だけがみた印象深い光景であつた。信行君の八七つ子Vの小舞踊よ

十一月二十四日和泉会・別会。和泉元弥少年が文部大臣特別表彰(六月)を受けた記念の狂言会。元弥君おめでとう。

まず嵐山の音間に元弥君が太郎冠者、淳子さん、祥子さん姉妹が供と娘で出演。あの狼狽である。父上の家元元秀氏は舞の役で。地盤を入れて十人を越す大勢物。私には三回目の観舞。楽し。元弥君はこのほか朝比奈宗のシテを器用に演ずる。松脂(和泉元秀氏)は初見。シテの松脂の扮装珍し。黒頭に黒色(そうみえたが)の短の袖のようないでたち目を見張る。レコード「和泉元秀・狂言の世界」を受贈。一、小舞踊・貝屋しはか、二、舞狂言の類・猿頭など、三、語り・釣狐はか、四、狂言・附子。貴重な資料。CBS・ソニー。受贈。共に肩へ力が入る会であつた。

NHKの正月三日の八五流謡曲と狂言V放送が来年はなくなるらしい。さみしい正月になりそう。テレビ能は続けられるはず。(野村三)

61年12月・62年1月放送予定

- (12月) NHK-FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
21日(日) 観世流「夷盛」大西 智久
28日(日) 和泉流狂言「釣狐の踊り」和泉 元秀
(1月)
4日(日) 観世流「東北」観世 元正
11日(日) 狂言「末広がり」大鼓流・善竹忠一郎
「雷」和泉流・野村万之丞
18日(日) 宝生流「野守」近藤 礼
25日(日) 観世流「春日竜神」浦田 保利
NHK教育テレビ(午前9時~10時)
1月15日(祝) 狂言「宗論」
野村万作・茂山千五郎
(NHK能楽鑑賞会から)
(新春放送は②面掲載)
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

神無月の舞台から

「第二回・久田徹二」能」リサイタル」
「先人藤田六郎兵衛七回忌追善能」・「野村又三郎・市芸術特賞受賞記念公演」より
竹尾 邦太郎

「半番・立花供養」シテ徹二。番組は照明に頼れないが今回も照明能。舞台を映みハの字型に向って右に地盤(四名)、左に嚙子でマイクが各二本。後見は上手奥、切戸に当る短い通路の後。構態はかなり鈍角に長く付き松は無い。調べが始まると暗転を利用して置かれた正先立花にスポットが当り、間に白々と浮き上る。本来後見が持つて出るものが舞台装置として既に在るの異であり、それに見る方は下座を以て馴染めない。前場、筒の花の供養の場に、仄かに匂うような女が夕闇に立ち現れるイメージが、暗闇から出て赤いライトの下を全身夕陽を浴びた感じに出で来られると、「白き花」の面影ははずと戸惑う。しかし白い襟元・白摺袴・紅白段唐織をすっきり着けた若い女が、ハ隠れけり、と常座でシズミ返して立つと夕焼の中、送り笛(六郎兵衛)の哀調で消えるところは流石にしんみりさせた。

アイ(又三郎)が出てライトは背になり、正中居語りには左右のライトも消えて頭上のスポットに忽然と浮び上る。立花も引かれずスポットに殊更その存在を主張するのが私には納得出来ない。後場、瓢と白い夕顔の花をまつわらせた藁屋根半部門袖垣付が一ノ松と思しき辺、正面向きに握えられる。ワキは常座傍まで行き、待謡の後戻ると、今度は背白い光の下を一声で後シテが運び、半部門の中の床几に掛り一声を謡う。地との掛合から、ハ跡帯ふきかかと遠くワキを見て問いかける心情は切ない。ハ草の半部押し開けて白長袴・緋大口姿のシテが扇を高く掲げ帯を押し上げるように出る。ワキはその姿に合掌し一月光の降り注ぐような中を舞台に入つて来る。送り神楽の如き思ひあやむ

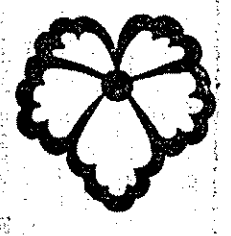
した六郎兵衛明彦がシテ鎖之丞で「安宅・勧進帳・酌掛・延年ノ舞・貝立」を動めた。その「安宅」岡山に精鋭を揃えたがすわ一大事に案外緊迫感が薄く、シテ独りに頼り過ぎる印象だった。眼目の勧進帳は巻物持つ手に自ずから力が入り、関守するものぞの気迫が一種の興奮を伴ってリズムに乗り、弾むように読み切り爽快さがあつた。延年ノ舞は歡喜の舞、一回目と三回目を「エイ」の掛声諸共晴れやかに高く飛んだ。ワキ閑、人情味のある富樫だった。太刀持信行はハキハキとしていて将来が楽しみ(一時間37分)

「蟬丸」金色引廻の作物が笛座前に据えられ引廻は直ぐ取られる。蟬丸・盛義。褐色の単袴の下に着込んだ紺水衣の裾が食み出して何となくだらしない見えるのだが、物着で改めて着ける訳にはいかないのだろうか。「御衣を賜はって養と云ふ物を参らせ上げ候」とあるのだが、さて物着済み床几を引いて下居すると、いよいよ落魄の風情の蟬丸だが却って気品そこはかと備わるのは盛義の人品。ワキ清貫・欽也と立ち別れた孤獨は、ハ伏し転び、と追い越るにまさしく悲しき、退って笠を力無く捨て安座して双シオリにシオル逆髪は喜之。白地縫箔に緋長袴の装束が一人哀れを誘う。特に一ノ松、狂イ笹を左手に添えて水鏡を覗くしおらしい姿には、苛酷な運命に翻弄される皇女の教奇が偲ばれた。

琵琶の音を仲介の東の間の邂逅が二人の悲境をいやが上にも見せつけるところ、喜之・盛義のじつとりとした味が捨て難かった(一時間31分)

「壺天乱」笛の西部恵司被さで懸命に動めた。シテ邦久、海上酔少して戯れるが如き流し足・乱れ足に冴えを見せたが嚙子が急調になったとき腰帯が解ける事故。それを手繰り寄せるシテに素早く寄った後見が唐織の下に結び直して事無きを得たが、機敏な処置が無ければどうなっていたか。唐織重折姿が幸いして無事舞上げた(41分・10月19日・先代六郎兵衛七回忌追善能)

「釣狐」先般舞台六十年記念で10回目を国立能楽堂で動けたばかり。今回は市芸術特賞受賞を自祝して11回目である。ホール狂言で、鏡板代りの金屏風、舞台以外には黒の絨敷を敷き、ワキ座後・橋懸・ワキ正奥に各一・二・三基の松は橋懸壁側に二本。暗闇の中を笛のヒシギで出る。豁然と現れる効果を狙ったのであろうがその必要はない。常座で大小を見て次第。身を振り変身を確める水鏡の型のしなやかな身のこなしは、本性を見破られない自信に溢れ、大小アシライの道行などに浮き浮きして居り、この気分は已れを動ますように語る語りに微妙に反映していた。猿師を説得し、両手で杖を担ぎ欣喜雀躍後向きに飛び跳ねてゆく軽々とした所作と翼に気付く一転恐怖しながらも頻りに餌に執着を示す所もたまかい。何となく胸騒ぎし、せせられた念公演。



御料理 三葉軒
本店 熱田区神戸町三四 電話(051)868618
熱田区神宮一 電話(051)559980

この半世紀の研究成果を集成して
能と狂言の全体像を明らかにする

社 18 43 一円四角

0日 邦主催 呈

愛知県文化講座で開催。能三番、

報告事項の中では、愛知県が建

定 礼(保利時) 五郎会から) 時~9時)

欣三 武計 六郎(30分) 早装束